



取 扱 書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

MARK X



TABLE OF CONTENTS

目次

1 運転する前に

運転するまでに必要となる操作、ご注意が説明してあります。
(ドアの開閉、シートの調整、チャイルドシートの取り扱いなど)

2 運転するときに

走行、停止の方法や安全運転の方法が説明してあります。
(エンジンのかけ方、メーターの見方など)

3 室内装備の使い方

室内装備を快適にご使用いただくための説明がしてあります。
(室内灯のつけ方、室内装備の使い方など)

4 お手入れのしかた

お車のお手入れ、メンテナンスに関する方法が説明してあります。
(内・外装の手入れ、電球の交換など)

5 トラブルが起きたら

故障やパンクしたときなど、万一のときの対処に関する説明がしてあります。
(けん引について、警告灯がついたときの対処など)

6 車両仕様

お車の仕様やカスタマイズ機能に関する情報が記載してあります。
(指定燃料、各オイル量、カスタマイズ項目など)

さくいん

本書に記載されている情報を五十音順などの方法で探すことができます。

1 運転する前に**1-1. キーの取り扱い**

キー	28
----------	----

**1-2. ドアの開閉のしかた、
ロックのしかた**

スマートエントリー& スタートシステム	31
ワイヤレスリモコン	43
ドア	46
トランク	52

**1-3. シート、ハンドル、
ミラーの調整のしかた**

フロントシート	56
リヤシート	59
ヘッドレスト	64
シートベルト	66
ハンドル	74
インナーミラー	82
ドアミラー	83

**1-4. ドアガラス・
ムーンルーフの開け方、
閉め方**

パワーウィンドウ	85
ムーンルーフ	90

1-5. 給油のしかた

給油口の開け方	95
---------------	----

1-6. 盗難防止システム

エンジンイモビライザー システム	99
---------------------------	----

1-7. 安全に**お使いいただくために**

正しい運転姿勢	101
SRS エアバッグ	103
子供専用シート	112
チャイルドシート (子供専用シート) の 取り付け	121

2 運転するときに**2-1. 運転のしかた**

運転にあたって	130
エンジン (イグニッション) スイッチ (スマートエントリー& スタートシステム 非装着車)	141
エンジン (イグニッション) スイッチ (スマートエントリー& スタートシステム装着車)	144
オートマチック トランスミッション	149
方向指示レバー	157
パーキングブレーキ	158
ホーン (警音器)	160

2-2. メーターの見方

計器類	161
表示灯／警告灯	165
マルチインフォメーション ディスプレイ	170

2-3. ランプのつけ方・

ワイパーの使い方

ランプスイッチ	177
オートマチックハイビーム	180
フォグランプスイッチ	185
ワイパー & ウオッシャー (フロント)	186
ワイパー & ウオッシャー (リヤ)	189

2-4. その他の走行装置の使い方

Toyota Safety Sense	191
PCS (プリクラッシュ セーフティシステム)	197
LDA (レーンディパーサー) アラート [ステアリング 制御機能付き]	210
レーダークルーズ コントロール	222
クルーズコントロール	236
クリアランスソナー	240
LED イルミネーション ビーム	248
運転を補助する装置	249

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意	257
寒冷時の運転	259

3 室内装備の使い方

3-1. エアコン・

デフォッガーの使い方

オートエアコン	266
リヤウインドウデフォッガー (曇り取り)	276
フロントウインドシールド デアイサー	278

3-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	279
・フロント パーソナルランプ	280
・ルームランプ	280

3-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧	282
・グローブボックス	283
・コンソールボックス	284
・ボトルホルダー	286
・カップホルダー	287
・小物入れ	288
・フロントドアポケット	290

1

2

3

4

5

6

3-4. その他の室内装備の 使い方

サンバイザー.....	291
バニティミラー.....	292
時計	293
アクセサリーソケット	294
シートヒーター	295
リヤセンターアームレスト.....	297
フロアマット.....	298
トランク内装備.....	300
アシストグリップ (回転式)	301
ステアリングスイッチ	302

4 お手入れのしかた

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	304
内装の手入れ.....	308
タイヤについて	312
タイヤ空気圧について	316

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	318
ガレージジャッキ	321
エンジンルームカバー	324
電球 (バルブ) の交換	326
ヒューズの点検、交換	336
キーの電池交換	344
ウォッシャー液の補給	348
エアコンフィルターの 交換	350

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

故障したときは	354
非常点滅灯 (ハザードランプ)	356
発炎筒	357
けん引について	359

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは	368
警告メッセージが 表示されたときは	373
パンクしたときは (タイヤパンク 応急修理キット装着車)	387
パンクしたときは (応急用タイヤ装着車)	404
エンジンが かからないときは	414
キーを無くしたときは	416
電子キーが 正常に働かないときは	417
バッテリーが あがったときは	420
オーバーヒートしたときは	424
スタックしたときは	427
車両を緊急停止するには	429

6 車両仕様

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ (油脂類の容量と銘柄)	432
--------------------------------	-----

6-2 カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	440
--------------------------	-----

さくいん

略語一覧	446
------------	-----

五十音順さくいん	447
----------------	-----

症状別さくいん	464
---------------	-----

1

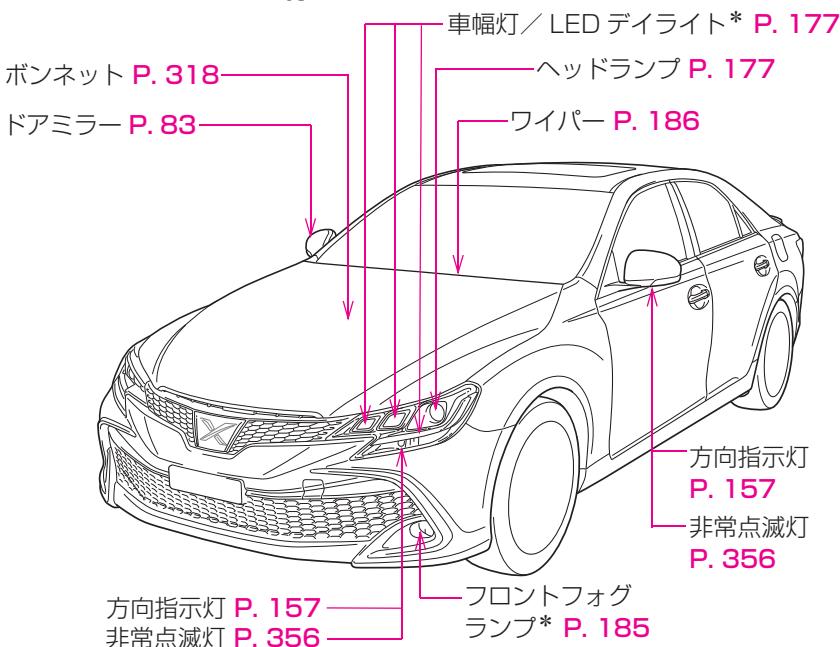
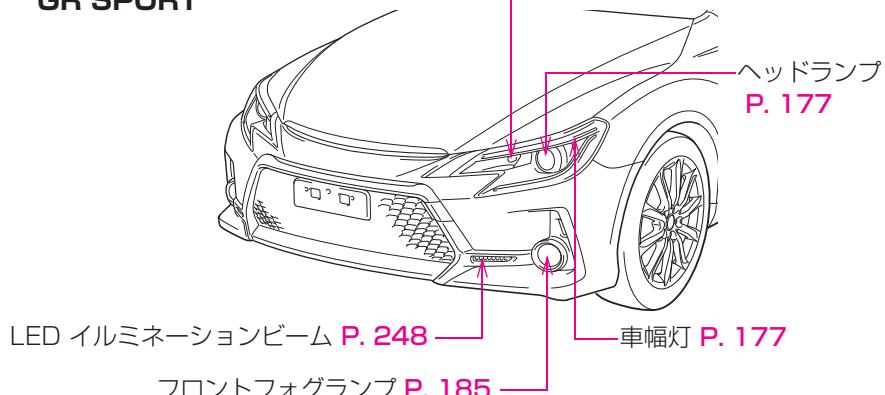
2

3

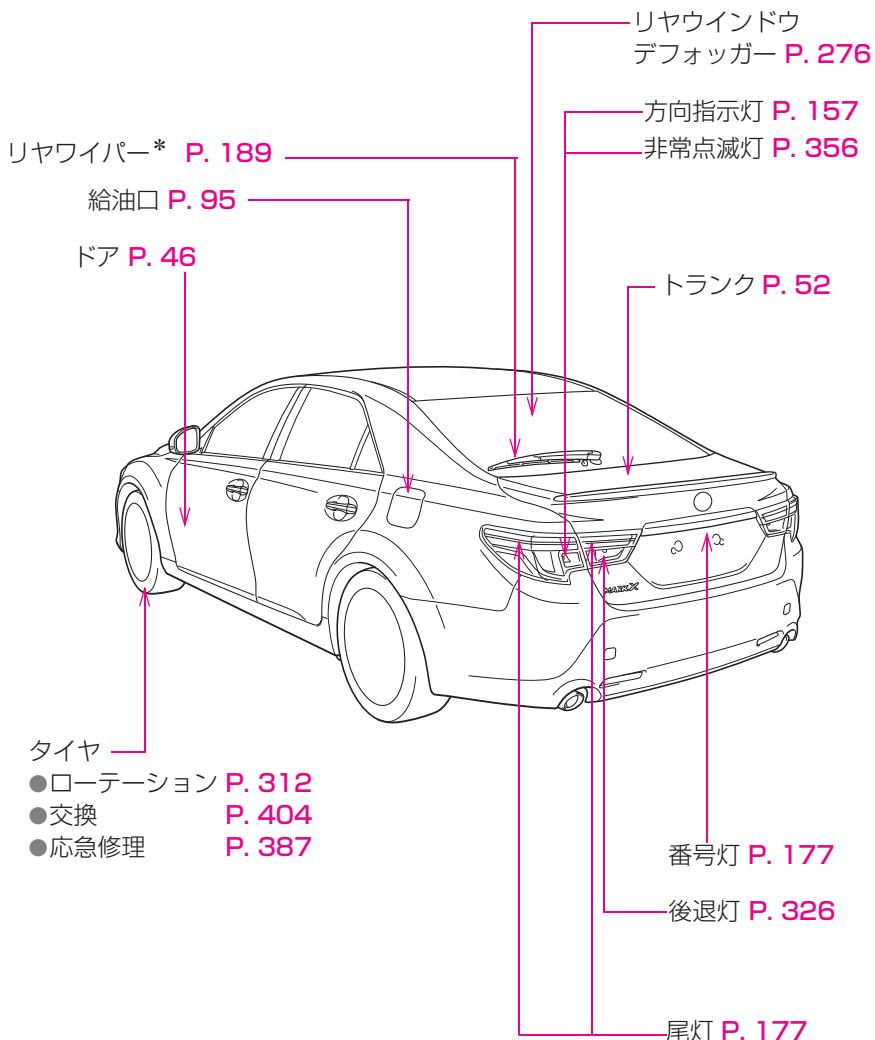
4

5

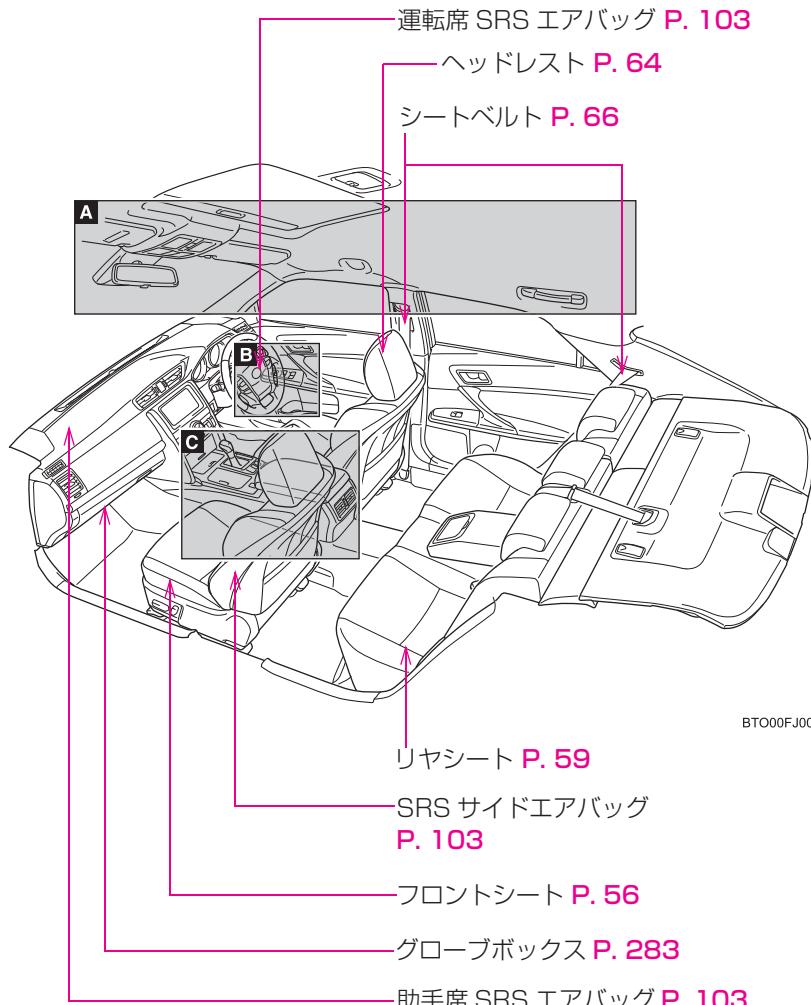
6

“GR SPORT” を除く**“GR SPORT”**

ヘッドライトの形状は、グレードなどで異なります。(\rightarrow P. 326)

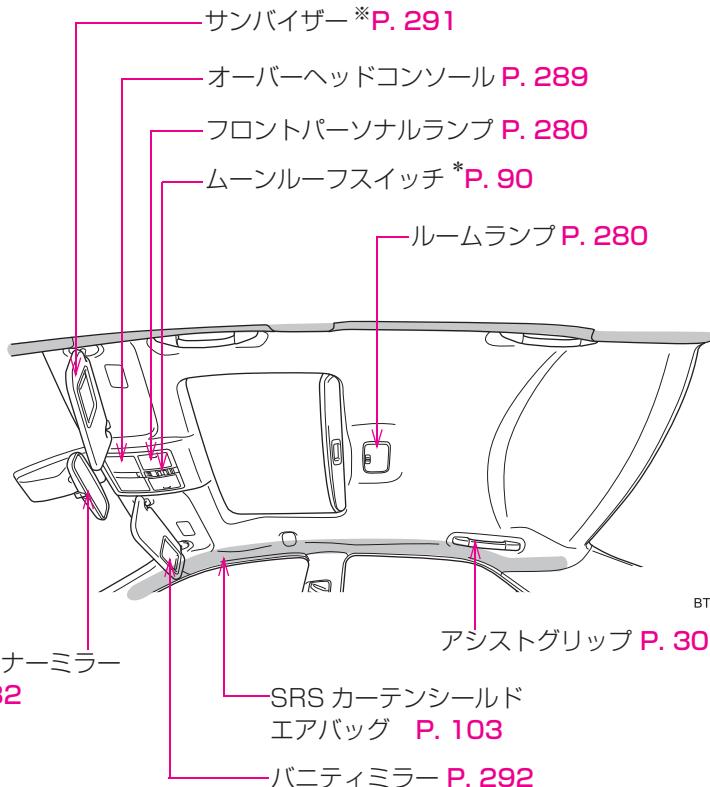


* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

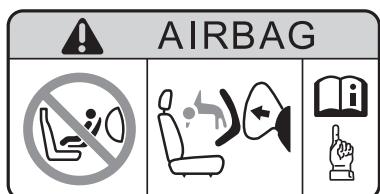


BTO00FJ003

A

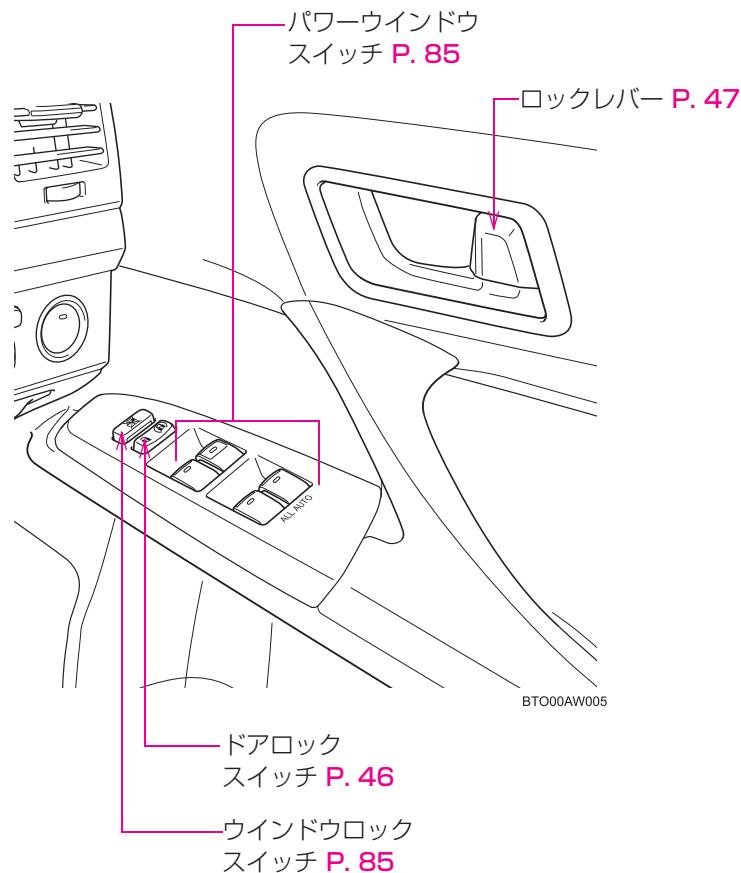


* : やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
(→P. 126)

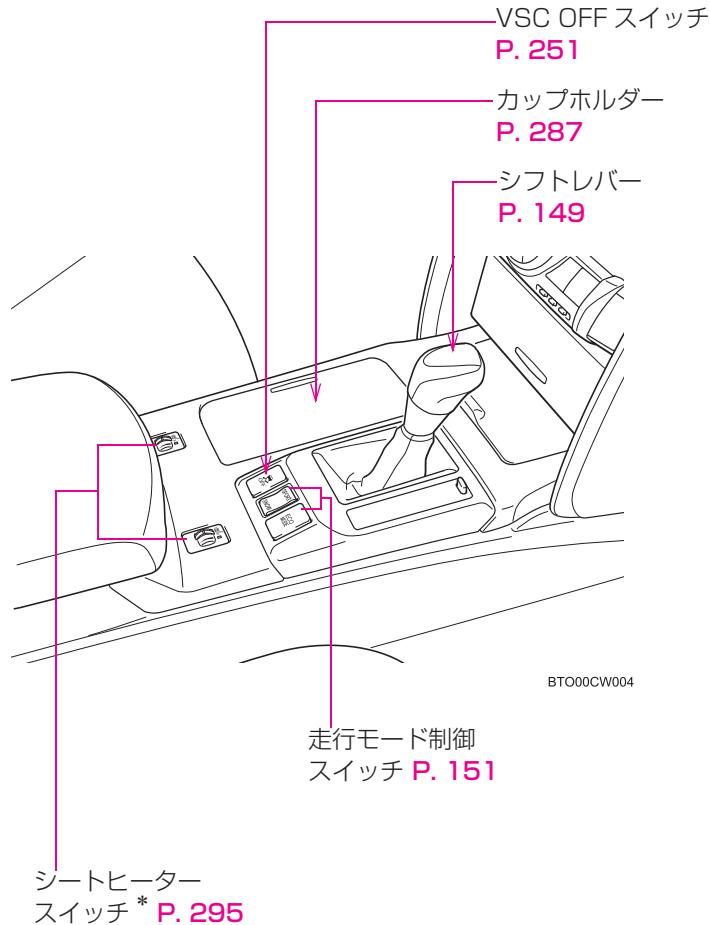


* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

B



C



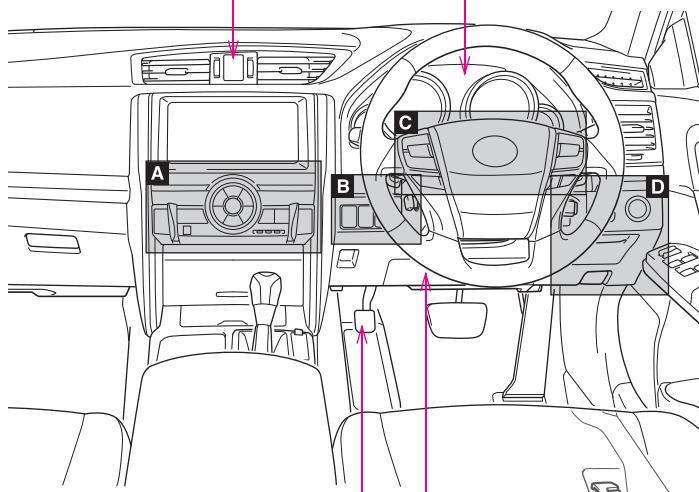
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

メーター **P. 161**

マルチインフォメーション

ディスプレイ **P. 170**

非常点滅灯スイッチ **P. 356**



パーキングブレーキ

P. 158

SRS ニーエアバッグ

P. 103

トランクオープナー

P. 52

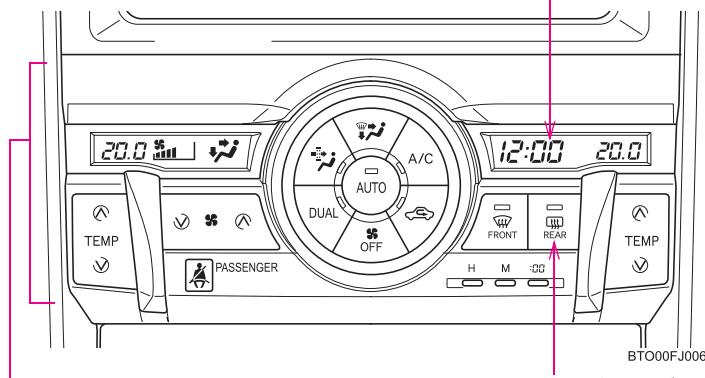
給油口オープナー

P. 95

A

オートエアコン（ミラーヒーター非装着車）

時計 P. 293

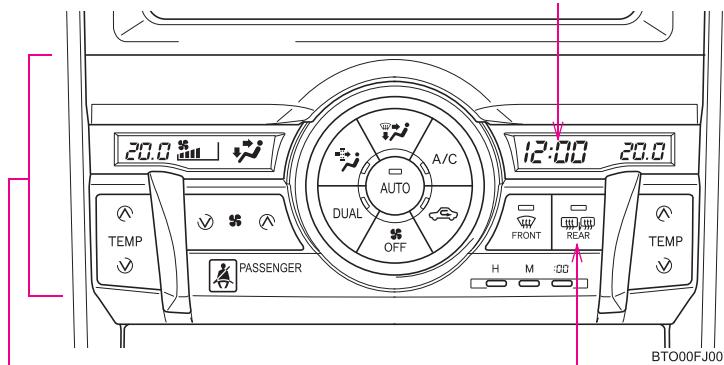


エアコン P. 266

リヤウインドウデフオガースイッチ P. 276

オートエアコン（ミラーヒーター装着車）

時計 P. 293

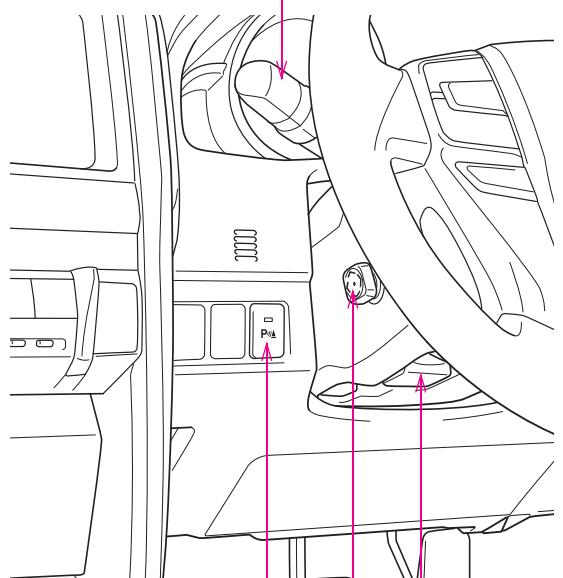


エアコン P. 266

リヤウインドウデフオガースイッチ P. 276

B

ワイパー＆ウォッシャー
スイッチ **P. 186**



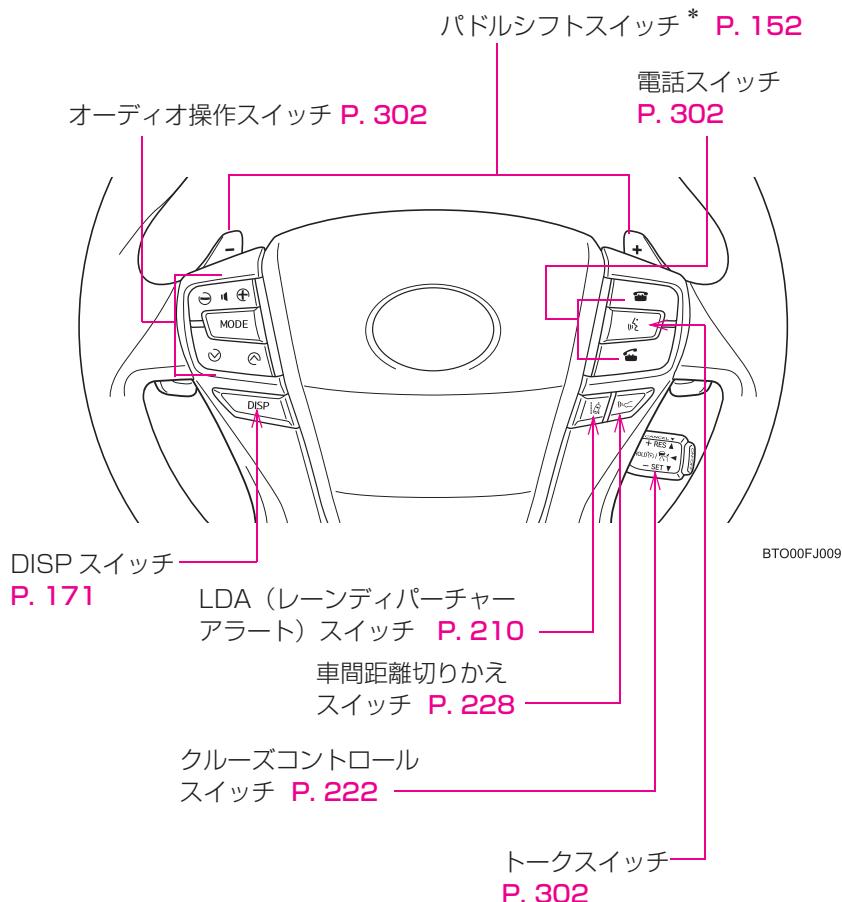
クリアランスソナー
メインスイッチ * **P. 240**

チルト&テレスコピック
ステアリングレバー *
P. 74

ハンドル位置調整
スイッチ * **P. 74**

C

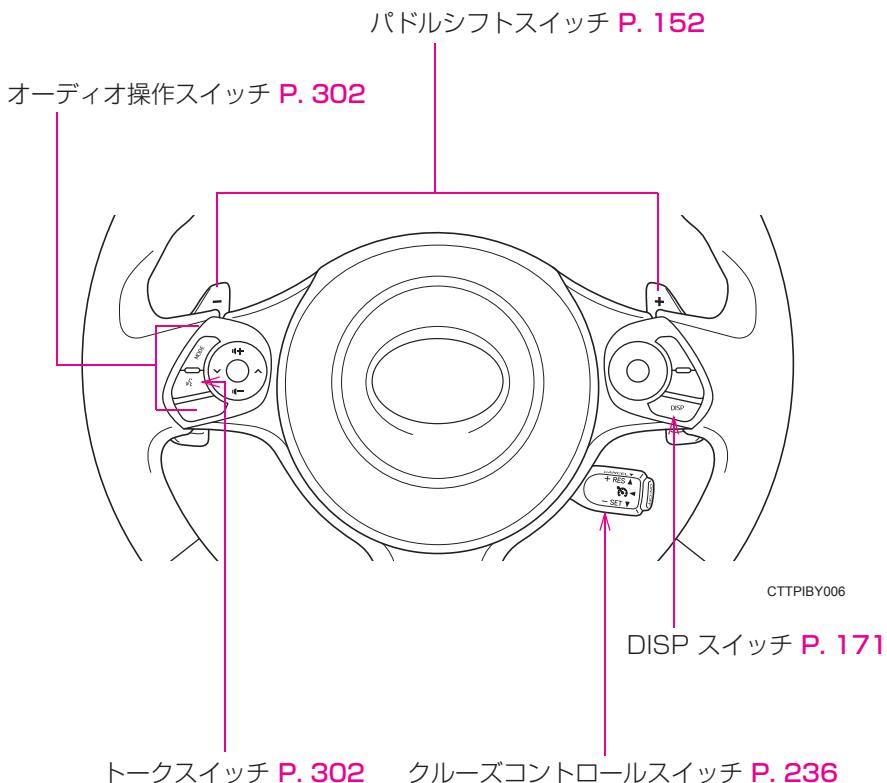
“GR SPORT” を除く



* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

C

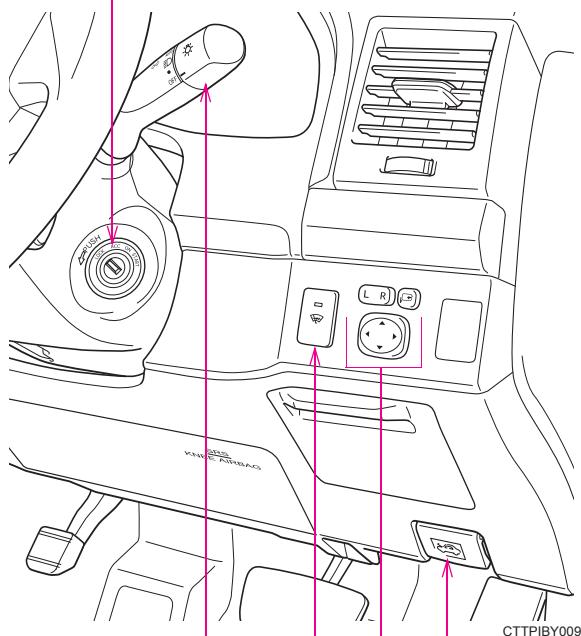
“GR SPORT”



D

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジン（イグニッション）
スイッチ **P. 141**



ランプスイッチ **P. 177**

方向指示レバー **P. 157**

フロントウインドシールド

デアイサー^{*}スイッチ **P. 278**

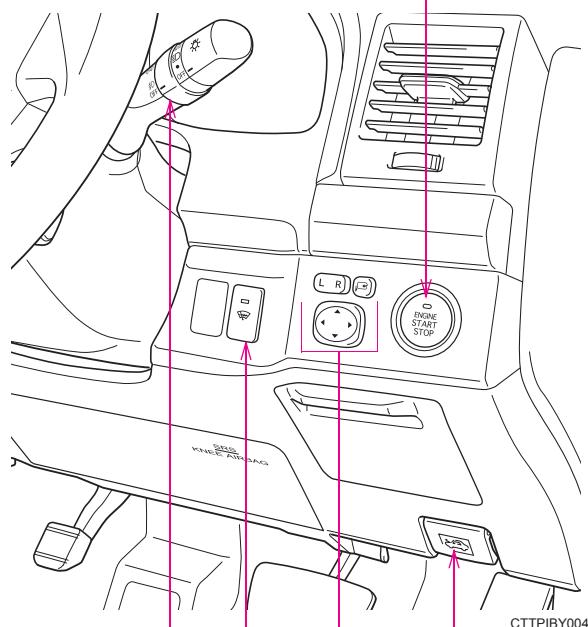
ドアミラースイッチ **P. 83**

ボンネットオープナー **P. 318**

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

**D スマートエントリー＆スタートシステム装着車
(“GR SPORT”を除く)**エンジン（イグニッション）スイッチ **P. 144**ランプスイッチ **P. 177**方向指示レバー **P. 157**

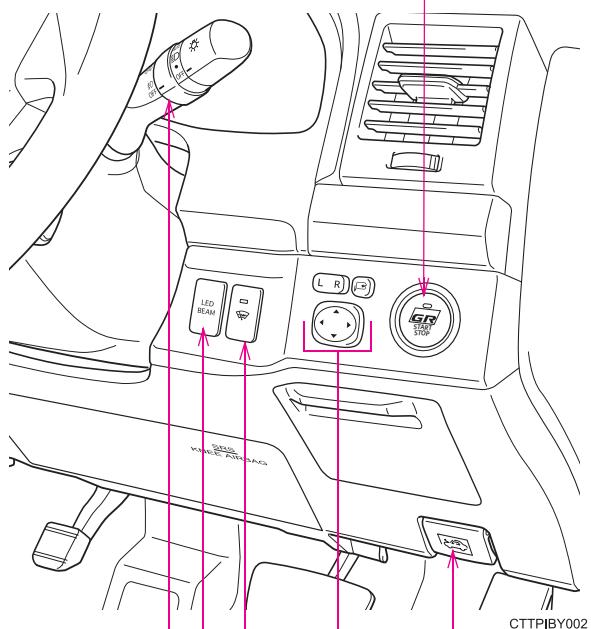
フォグランプ

スイッチ **P. 185**ボンネットオープナー
P. 318ドアミラースイッチ **P. 83**フロントウインドシールド
デアイサーイッチ * **P. 278**

D

スマートエントリー＆スタートシステム装着車 (“GR SPORT”)

エンジン（イグニッション）スイッチ **P. 144**



ランプスイッチ **P. 177**

方向指示レバー **P. 157**

フォグランプ

スイッチ **P. 185**

ボンネットオープナー
P. 318

ドアミラースイッチ **P. 83**

フロントウインドシールド
デアイサー* **P. 278**

LED イルミネーションビームスイッチ **P. 248**

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。
イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤つてふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換。
異なる種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし。
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
 - RF 送信機の取り付けについては、P. 24 も参照してください。
- フロントガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

■運転についてのご注意

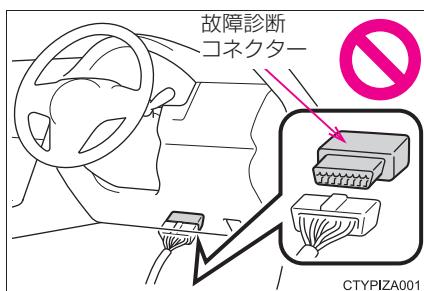
公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

飲酒運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思ひがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

■故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて



故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

車両の制御データ・操作データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・エンジン回転数
- ・アクセルの操作状況
- ・ブレーキの操作状況
- ・車速
- ・シフトポジション

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することができます。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー (EDR) が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態 (SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など) が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・車両の各システムの作動状況
- ・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDR データを組み合わせて使用することができます。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはできません。

- ・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・データを車両安全性能の研究に使用することができます。
- ・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することができます。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
- Toyota Safety Sense
- クルーズコントロール
- ABS (アンチロックブレーキシステム)
- VDIM (ピークルダイナミクスインテグレイティッドマネージメント)
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています。）

⚠ 警告

■ お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター・発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付けかたなどをまとめた「チャイルドシートの取り付け」（→P. 121）をお読みください。

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

⚠ 警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠ 注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれがあります。

□ 知識

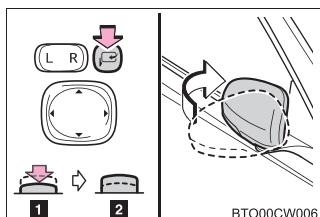
機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について



セーフティーンボル

“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味を表しています。



操作を示す矢印

➡ スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

➡ 操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

運転する前に

1

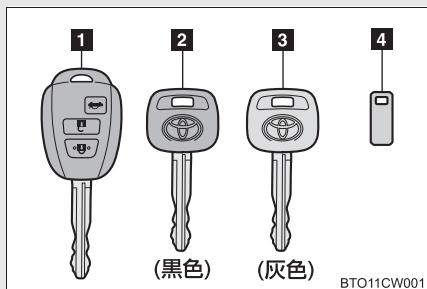
1-1. キーの取り扱い	
キー	28
1-2. ドアの開閉のしかた、 ロックのしかた	
スマートエントリー&	
スタートシステム	31
ワイヤレスリモコン	43
ドア	46
トランク	52
1-3. シート、ハンドル、 ミラーの調整のしかた	
フロントシート	56
リヤシート	59
ヘッドラスト	64
シートベルト	66
ハンドル	74
インナーミラー	82
ドアミラー	83
1-4. ドアガラス・ ムーンルーフの開け方、 閉め方	
パワーウィンドウ	85
ムーンルーフ	90
1-5. 給油のしかた	
給油口の開け方	95
1-6. 盗難防止システム	
エンジンイモビライザー システム	99
1-7. 安全に お使いいただくために	
正しい運転姿勢	101
SRS エアバッグ	103
子供専用シート	112
チャイルドシート (子供専用シート)の 取り付け	121

1-1. キーの取り扱い

キー

お客様へ次のキーをお渡しします。

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車



1 キー (ワイヤレス機能装着)

ワイヤレス機能の作動 (→P. 43)

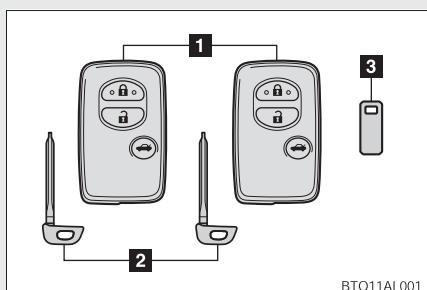
2 キー (ワイヤレス機能非装着)

3 サブキー

(ワイヤレス機能非装着)

4 キーナンバープレート

スマートエントリー＆スタートシステム装着車



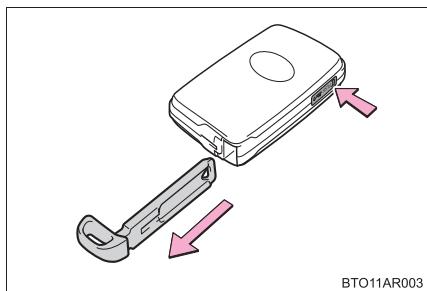
1 電子キー

- スマートエントリー＆スター
トシステムの作動 (→P. 31)
- ワイヤレス機能の作動
(→P. 43)

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

メカニカルキーを使うには（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）



メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P. 417）

□ 知識

■ キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一キーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。

■ 航空機に乗るときは

航空機にワイヤレス機能装着キーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

注意

■キーの故障を防ぐために

- キーに衝撃を与えたり、直射日光のあたる高温な場所に置いたり、ぬらしたりしないでください。
- ぬらしたり超音波洗浄機などで洗ったりしないでください。
- キーを磁気のあるものに近付けたり、電磁波を遮断するものをキー表面に貼り付けたりしないでください。
- キー表面にシールなどを貼らないでください。
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かないでください。
- キーを分解しないでください。

■キー取り扱いの注意

電子キー・ワイヤレスキーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

■キーを携帯するときは

電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくときは（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

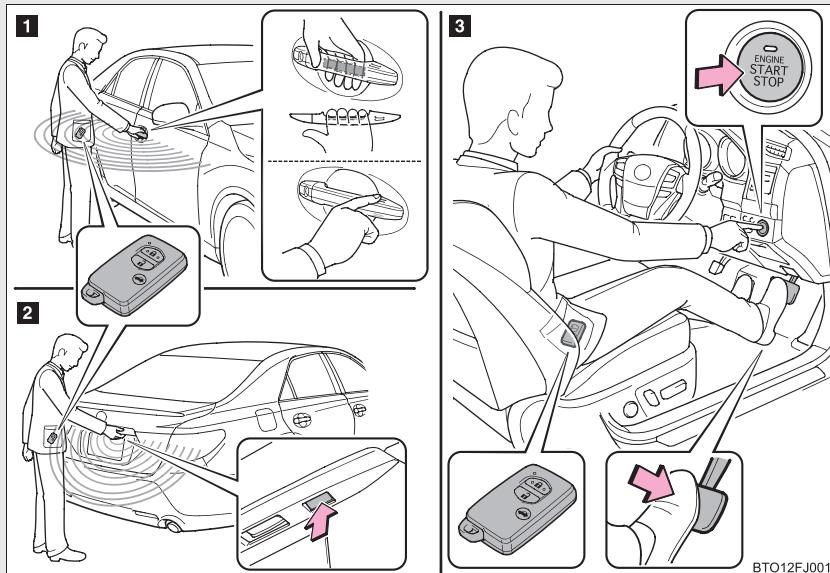
車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■キーを紛失したときは

キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りのキーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

スマートエントリー＆スタートシステム*

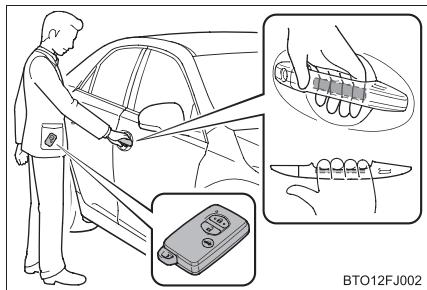
電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。
(必ず運転者が携帯してください)



- 1 ドアを解錠・施錠する (→P. 32)
- 2 トランクを解錠する (→P. 33)
- 3 エンジンを始動する (→P. 144)

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

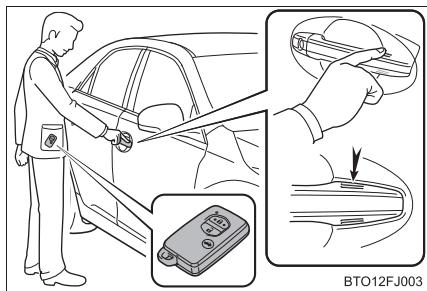
ドアの解錠・施錠（フロントドアハンドルのみ）



ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実に
ふれてください。

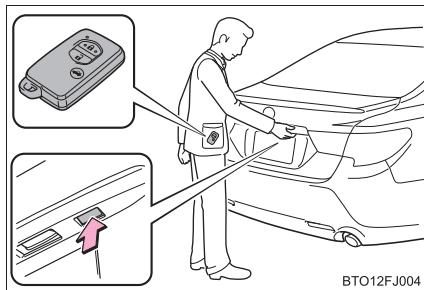
施錠操作後3秒間は解錠できません。



ドアハンドル上側のロックセン
サー部（ハンドルのくぼみ部）に
ふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してくだ
さい。

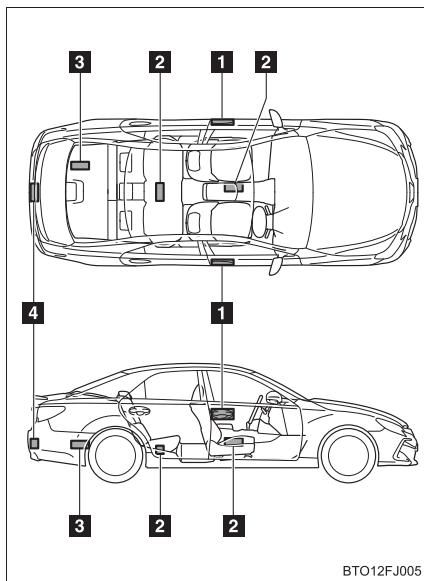
トランクの解錠



トランクオープنسイッチを押して解錠する

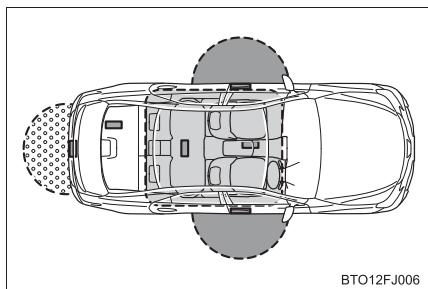
アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置



- 1 車外アンテナ
- 2 車内アンテナ
- 3 トランク内アンテナ
- 4 トランク外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）



● :ドアの解錠・施錠時

フロント席ドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。(電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します)

● :トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

● :エンジン始動時または “エンジンスタートストップ”スイッチ切りかえ時

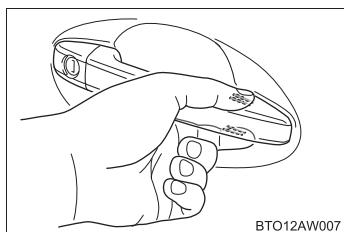
車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

□ 知識

■ 作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(解錠は 2 回、施錠は 1 回)

■ フロントドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないときは



ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。

■警告音と警告表示について

誤動作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。(→P. 373)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようにになります。

警告音	状況	対処方法
車外から “ピー” と 10 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から “ポン、ポン” と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で “エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリーモードにした (アクセサリーモードのときは運転席ドアを開いた)	“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。

■解錠ドアの切りかえ機能

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

手順 1 “エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にする

手順 2 キー表面のインジケーターが消灯しているときに  ボタンと同時に、 または  のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。(続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 2 を行ってください)

1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた

マルチインフォ メーションディス プレイ表示	解錠できるドア	ブザー音
	運転席のドアハンドルを握ると運 転席のみ解錠	車外：“ピピッ” (3回) 車内：“ポーン” (1回)
	助手席のドアハンドルを握ると全 席解錠	
	運転席または助手席のドアハンド ルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ” (2回) 車内：“ポーン” (1回)

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

- 次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
 - ・車の外約 2 m 以内にスマートキーを 10 分以上放置した
 - ・5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった
- 14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P. 417）

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・金属製の財布やかばん
 - ・小銭
 - ・カイロ
 - ・CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
 - ・デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ポータブルゲーム機器
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ドアの解錠・施錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
 - ・トランクの解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎた場合
 - ・エンジン始動時または“エンジン スタート ストップ”スイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれていた場合
- インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも解錠・施錠できます。
- 車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジンの始動が可能になる場合があります。
- 電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することができます。（ドアの開閉操作がなければ約30秒後に自動的に施錠されます）
- 手袋を着用していると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。
- 車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレス機能などで施錠を行うと、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します）
- 車外アンテナの作動範囲内への急な接近やドアハンドル操作では、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

■施錠時の留意事項

- 手袋を着けてロックセンサーにふれた場合、施錠が遅れたり、施錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてロックセンサーにふれてください。
- ロック操作は、連続で2回まで有効で、3回目以降はロック動作しません。
- キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、解錠／施錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から2m以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。(キーの盗難に注意してください)
- 車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報表示は消え、ブザーは停止します。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーを使って操作してください。
- ドアハンドルを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

■解錠時の留意事項

- 急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 手袋を着けてドアハンドルを握った場合は、解錠が遅れたり、解錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてハンドル裏面のセンサー部にふれてください。
- キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、解錠／施錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2 m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。(キーの盗難に注意してください)
- 作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。
- ドアハンドルを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

■長期間運転しないときは

- 盗難防止のため、電子キーを車から 2 m 以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。(→P. 440)

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります)

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないときは

- ドアの解錠・施錠 : →P. 417
- エンジンの始動 : →P. 418

■電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は1～2年です。
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→P. 386）
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・作動範囲が狭くなった
 - ・電子キーのLEDが点灯しない
- 電池の著しい消耗を防ぐために次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。
 - ・TV
 - ・パソコン
 - ・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・電気スタンド
 - ・電磁調理器

■電池が切れたときは

→P. 344

■販売店で設定可能な機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧 →P. 440)

⚠ 警告

■ 電波がおよぼす影響についての警告

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ および植込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ (→P. 33) から約 22 cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ および植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ および植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくは販売店にお問い合わせください。

■ ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやムーンルーフ*を操作するとき

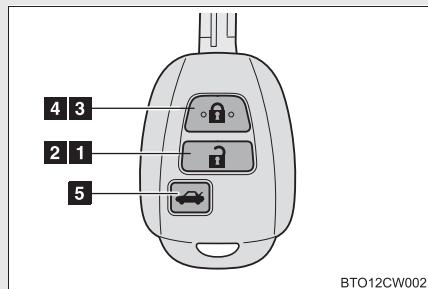
ドアガラスやムーンルーフに人が挟まるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ワイヤレスリモコン

ドアを解錠・施錠、トランクを解錠できます。

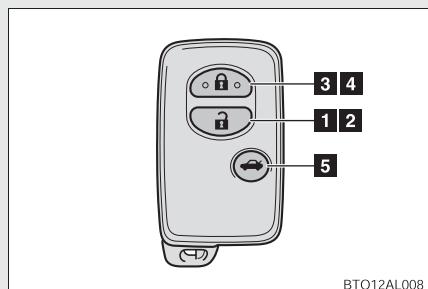
スマートエントリー&スタートシステム非装着車



- ① 全ドアを解錠する
- ② ドアガラスを開ける（押し続ける）※
- ③ 全ドアを施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。
- ④ ドアガラスを閉める（押し続ける）※
- ⑤ トランクを解錠する（長押し）

※ トヨタ販売店での設定が必要です。

スマートエントリー&スタートシステム装着車



- ① 全ドアを解錠する
- ② ドアガラスとムーンルーフ*を開ける（押し続ける）※
- ③ 全ドアを施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。
- ④ ドアガラスとムーンルーフ*を閉める（押し続ける）※
- ⑤ トランクを解錠する（長押し）

※ トヨタ販売店での設定が必要です。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ 作動の合図

ドア：ブザー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）と非常点滅灯の点滅で知らせます。（解錠は2回、施錠は1回）

トランク：ブザー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）で知らせます。

■ 半ドア警告ブザー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

ドアが完全に閉まっていない状態で、ドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■ 電池の消耗について

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

電池の標準的寿命は1～2年です。（ワイヤレス機能を使用しなくても電池は消耗します）ワイヤレス機能が作動しない場合は、電池が消耗している可能性があります。新しい電池と交換してください。（→P. 344）

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

→P. 41

■ 解錠操作のセキュリティ機能

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

解錠操作後、約30秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

→P. 35

■ 電池が切れたときは

→P. 344

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

→P. 37

■販売店で設定可能な機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ機能一覧 →P. 440)

⚠ 警告

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやムーンルーフ*を操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

⚠ 注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）

次のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

- 近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器、大型ディスプレイがあるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 複数のワイヤレスキーが近くにあるとき
- ワイヤレスキーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- 近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき
- ワイヤレスキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた

ドア

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能、キー、ドアロックスイッチを使って解錠・施錠できます。

■スマートエントリー＆スタートシステム (スマートエントリー＆スタートシステム装着車)

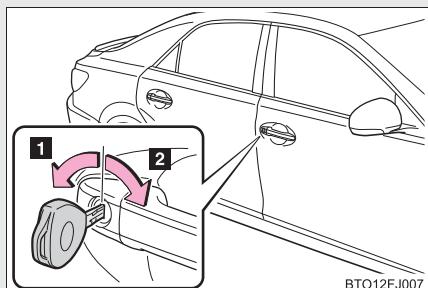
→P. 32

■ワイヤレス機能

→P. 43

■キー（運転席ドアハンドルのみ）

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車



①全ドアを解錠する

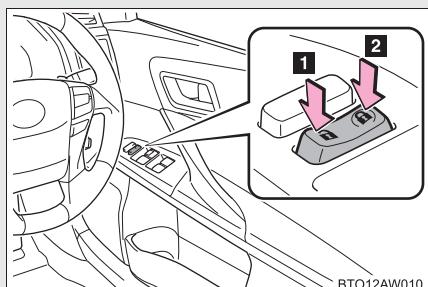
②全ドアを施錠する

キーでドアガラスの開閉をすることができます。詳しくは販売店にご相談ください。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

メカニカルキーを使ってドアを解錠・施錠できます。（→P. 417）

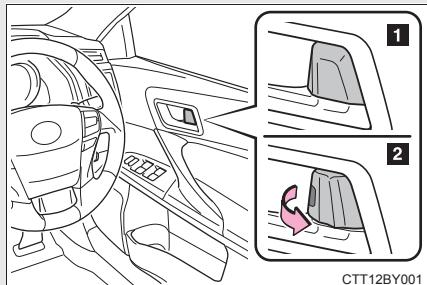
■ドアロックスイッチ



①全ドアを解錠する

②全ドアを施錠する

■ ロックレバー



① ドアを施錠する

② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

手順 ① ロックレバーを施錠側にする

手順 ② ドアハンドルを引いたままドアを閉める

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

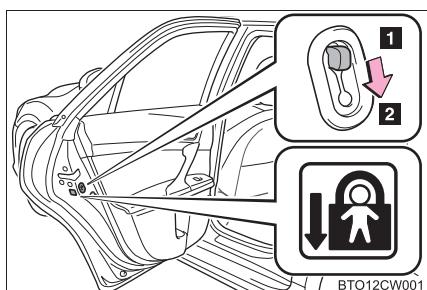
キーがエンジンスイッチに挿し込まれているときは施錠されません。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

電子キーの位置によっては、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター



施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

機能	作動内容
シフト連動オートロック	エンジン回転中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト連動オートアンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
車速感応オートロック	車速が 20 km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
運転席ドア連動 オートアンロック	スマートエントリー&スタートシステム非装着車 エンジンスイッチを“LOCK”にしてから 10 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。 スマートエントリー&スタートシステム装着車 “エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にしてから 10 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

■ 設定・解除のしかた

次の手順で、各機能の設定と解除が交互に切りかわります。

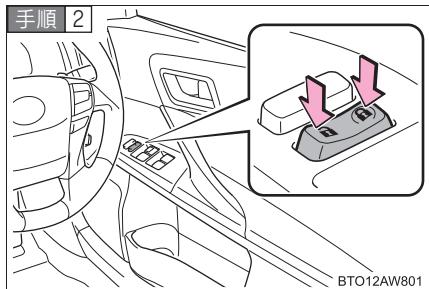
手順 1

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

すべてのドアを閉め、エンジンスイッチを“ON”にする（その後 20 秒以内に手順 2 を行う）

スマートエントリー&スタートシステム装着車

すべてのドアを閉め、“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにする（その後 20 秒以内に手順 2 を行う）



シフトレバーを P または N に入れ、運転席ドアロックスイッチの

または を約 5 秒間押して離す

設定を行う機能によってシフトレバーとスイッチの位置を次の表から選択します。

機能を解除するには、同じ手順を行います。

機能	シフトレバーの位置	ドアロックスイッチの位置
シフト連動オートロック	P	
シフト連動オートアンロック		
車速感応オートロック	N	
運転席ドア連動 オートアンロック		

設定または解除の切りかえ操作が完了すると、すべてのドアが施錠されたあと、解錠されます。

知識

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■ 衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。

■ 販売店で設定可能な機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。

(カスタマイズ機能一覧 → P. 441)

警告

■ 事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを施錠する
- すべてのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときは

傾斜地、ドアと壁などのあいだが狭い場所、強風など周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。



注意

■オートドアロック・アンロック機能の切りかえについて

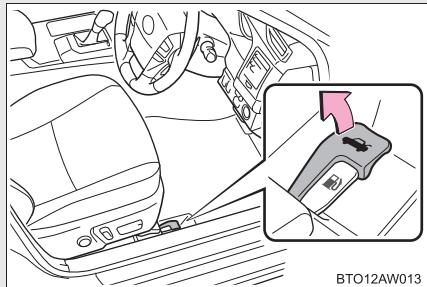
設定または解除の切りかえ操作が完了すると、すべてのドアが施錠されたあと、解錠されます。解錠・施錠の作動がない場合、切りかえられていない場合があります。

1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた

トランク

トランクオープナーやスマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレス機能を使って開けることができます。

■ 車内からトランクを開けるには



レバーを引き上げて、トランクのロックを解除する。

■ 車外からトランクを開けるには

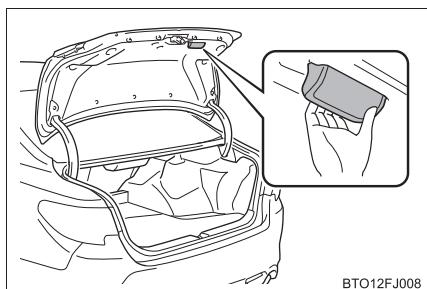
ワイヤレス機能

→P. 43

スマートエントリー＆スタートシステム（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

→P. 33

トランクを閉めるときは



トランクグリップを持って、横向に力をかけないようにトランクを引き下げ、外から押して閉めてください。

□ 知識

■ トランクランプ

トランクを開けたとき、トランクランプが点灯します。

■ トランク内キー閉じ込み防止機能について

(スマートエントリー&スタートシステム装着車)

- すべてのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合トランクオープンスイッチ（車外）で開けられます。
- すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。
- すべてのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いていても、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。
- ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープナーでトランクを開けてください。

⚠ 警告

■走行中の警告

- 走行中はトランクを閉じてください。
開けたまま走行すると、トランクが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行前に必ずトランクが閉まっていることを必ず確認してください。
- 走行前にトランクが完全に閉まっていることを確認してください。トランクが完全に閉まっていると、走行中にトランクが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- トランク内には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ、急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

- トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

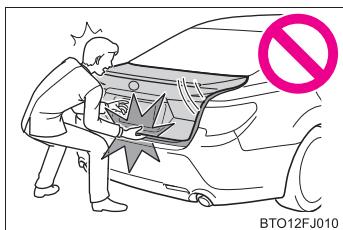
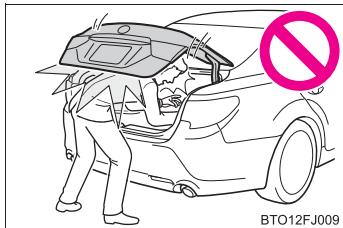
■トランクの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。

⚠ 警告

- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。



- 半開状態で使用すると、トランクリッドが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特に傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。
- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
- トランクは必ず外からトランク上面を軽く押して閉めてください。トランクリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

- トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

⚠ 注意

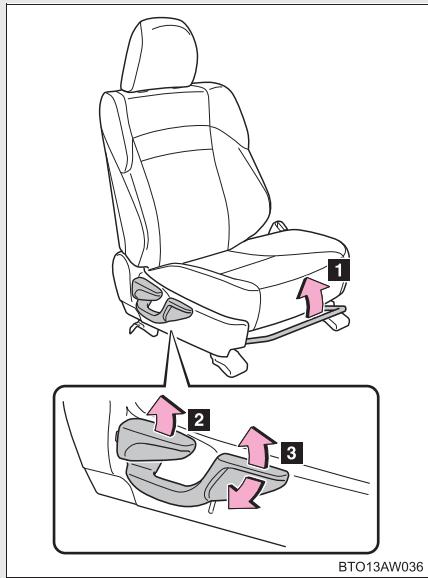
■ バッテリーあがりを防止するために

トランクが開いた状態でトランクランプが点灯したまま長時間放置しないでください。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた

フロントシート

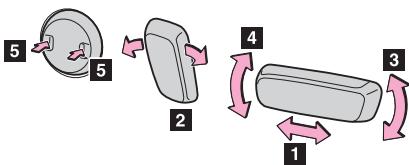
マニュアルシート装着車



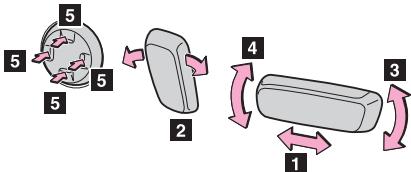
- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整
- ③ シート全体の上下調整
(運転席のみ)

パワーシート装着車

運転席 2 ウェイ電動ランバーサポート装着車



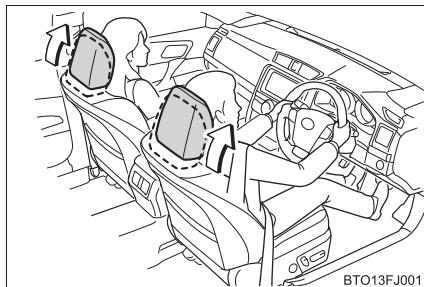
運転席 4 ウェイ電動ランバーサポート装着車



BTO13CW002

- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整
- ③ クッション前端の上下調整
(運転席のみ)
- ④ シート全体の上下調整
(運転席のみ)
- ⑤ 腰部硬さ調整
(運転席のみ)

アクティブヘッドレスト



背もたれに強い衝撃を受けると、フロント席乗員のむち打ちの症状を軽減させるためにヘッドレストが少し前方上側に動きます。

知識

■アクティブヘッドレストについて

背もたれに弱い衝撃を受けてもヘッドレストが動く場合がありますが、故障ではありません。

⚠ 警告

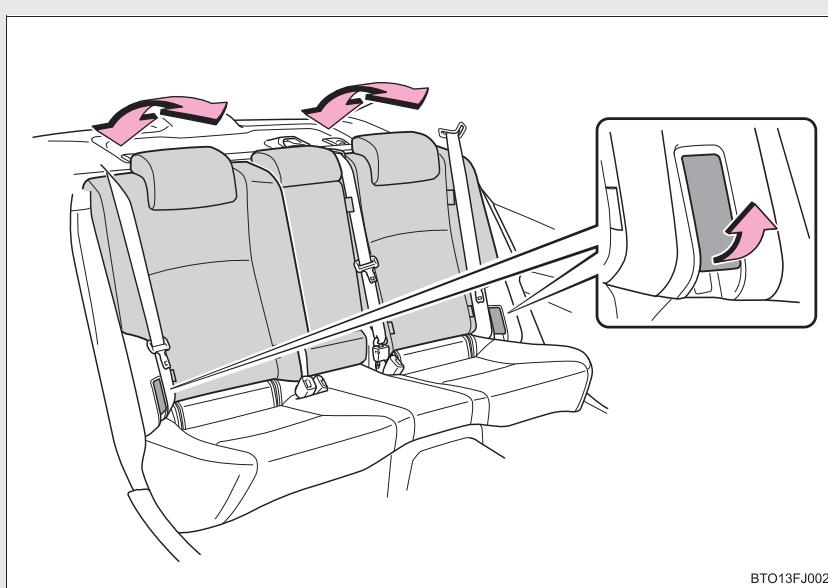
■シート調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- マニュアルシート装着車は、シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

リヤシート



BTO13FJ002

リクライニング調整

ロックが確実に解除されるまでレバーを引いてください。

リヤシートの前倒しをする前に

- 手順 1] 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
- 手順 2] ヘッドレストをいちばん下に下げる (→P. 64)
- 手順 3] リヤ中央席用シートベルトを分離・格納する (→P. 68)

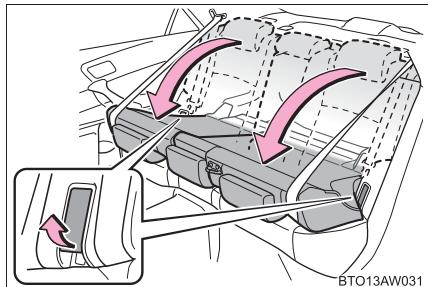
運転席側のシートのみを操作する場合、この手順は不要です。

- 手順 4] リヤセンターアームレストを格納する (→P. 297)

運転席側のシートのみを操作する場合、この手順は不要です。

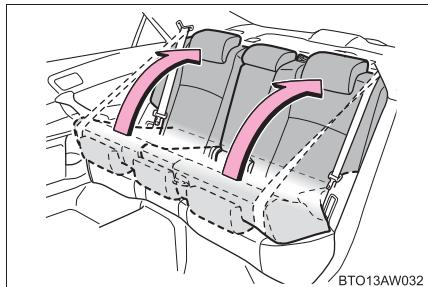
リヤシートを倒す／もどすときは

■ 倒すときは



レバーを引きながら、背もたれを
前方に倒す

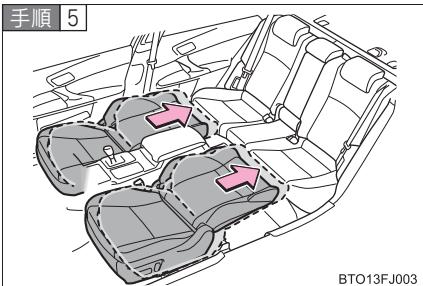
■ もどすときは



背もたれを起こし、固定する

フラットシートにするには

- 手順 1] 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
- 手順 2] フロントシートのヘッドレストをはずす (→P. 64)
- 手順 3] フロントシートをいちばん前まで移動させる (→P. 56、57)
- 手順 4] フロントシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す
(→P. 56、57)



リヤシートとのすき間がなくなる
ようにシートを移動させる
(→P. 56、57)

4WD 車は運転席側のみフラットに
できます。

- 手順 6] もとにもどすときは、逆の手順で操作する

⚠ 警告

■ リヤシートを操作するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にリヤシートを操作しない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- 操作中は、パッケージトレイとまわりの部品とのあいだに指や腕などを入れない
- 倒した背もたれやトランクに人を乗せて走行しない
- お子さまがトランクに入らないよう注意する

■ リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。

事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ フラットシートについて

フラットにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。

■ 背もたれをもとの位置にもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
- シートのあいだにシートベルトが挟み込まれていないか確認する

 **注意****■シートを操作するときは**

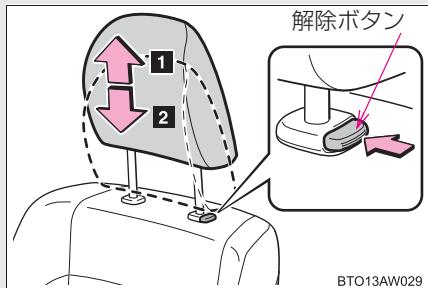
- 可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。
- シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。

■フラットシートについて

- マニュアルシート装着車では背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。
- フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。またシートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくり移動してください。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた

ヘッドレスト



①上げる

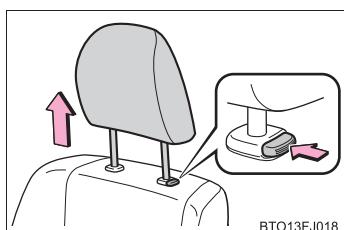
②下げる

下げるときは、解除ボタンを押し
ながら操作します。

グレードによりリヤ左右席のヘッドレストは固定式のため、調整する
ことができません。

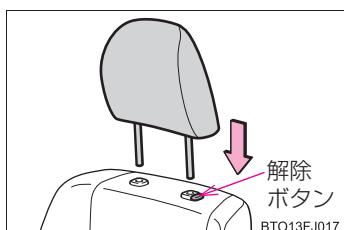
□ 知識

■ヘッドレストを取りはずすときは（上下調整式ヘッドレスト）



解除ボタンを押しながら取りはずします。

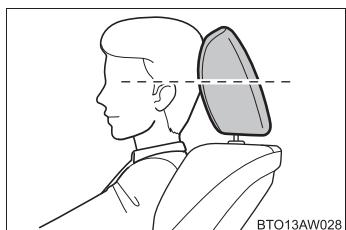
■ヘッドレストを取り付けるときは（上下調整式ヘッドレスト）



ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、
ロック位置まで押し下げてください。

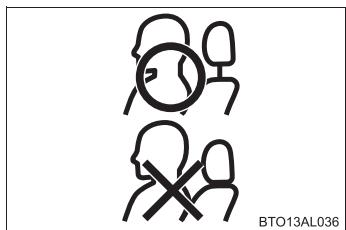
さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。

■ フロント席のヘッドレストの高さについて



必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

■ リヤ席のヘッドレストの使用について（上下調整式リヤヘッドレスト）



使用するときは、常に格納位置（ヘッドレストが最も下がった位置）から“カチッ”と音がするまで上げた位置にしてください。また、ヘッドレストを押し下げ、確実に固定されていることを確認してください。

⚠ 警告

■ ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

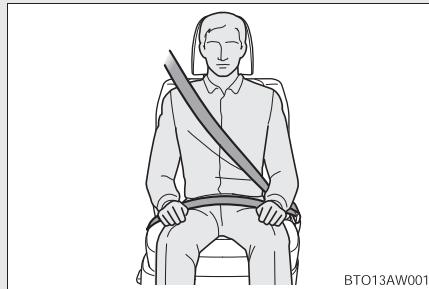
- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない
- リヤ席に乗車するときは、必ずヘッドレストを上げた状態にする
(上下調整式リヤヘッドレスト)

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた

シートベルト

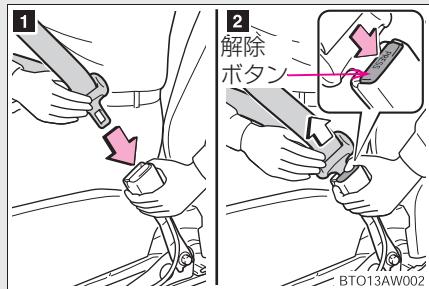
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには



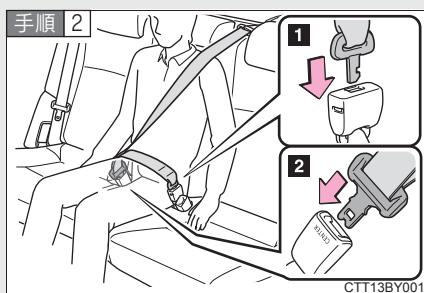
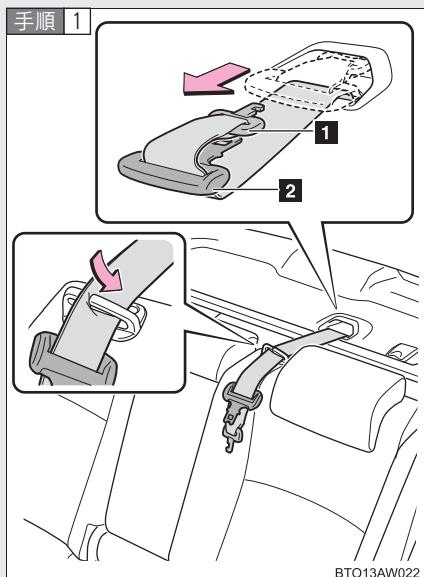
- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする

■ 着け方、はずし方（フロント席・リヤ左右席）

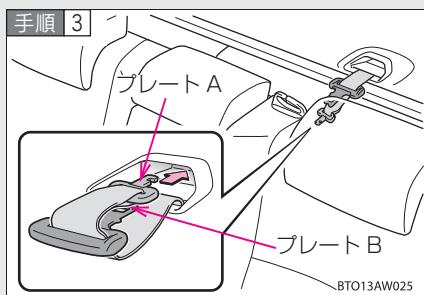
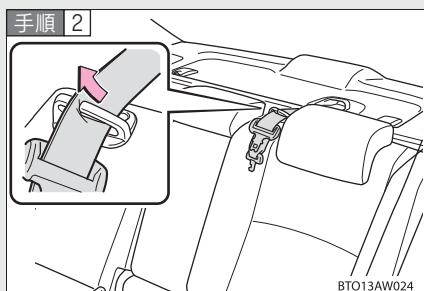
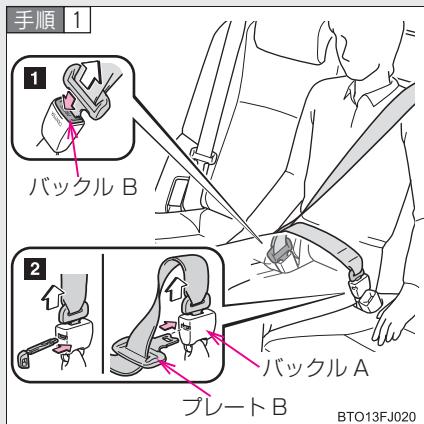


- ❶ ベルトを固定するには、“力チッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- ❷ ベルトを解除するには解除ボタンを押す

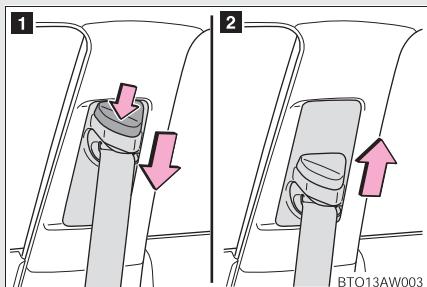
■ 分離格納式シートベルトの着け方（リヤ中央席）



■ 分離格納シートベルトの格納のしかた（リヤ中央席）



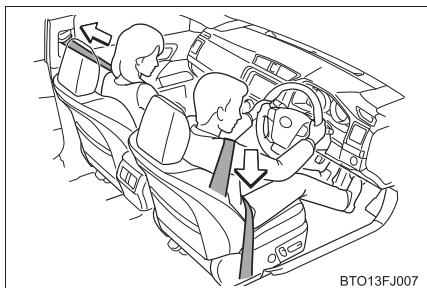
■ シートベルトの高さ調節（フロント席）



- ① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる
- ② アジャスターを上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席）



前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

■緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(\rightarrow P. 112)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(\rightarrow P. 66)

■シートベルトプリテンショナーについて（フロント席）

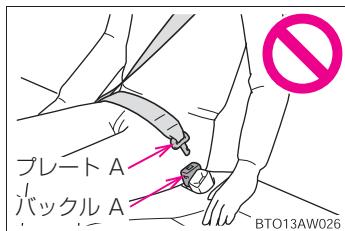
シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかない場合、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

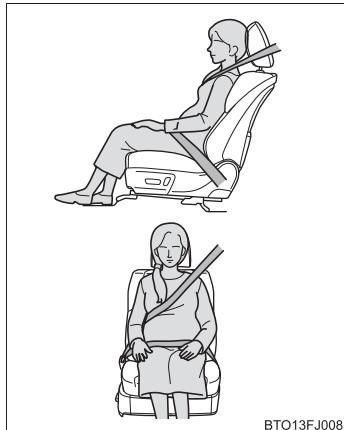
- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さない
上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- リヤ中央席のシートベルトを使用するときは、シートベルトがガイド（→P. 67）に通っていることを確認してください。



- リヤ中央席のシートベルトを使用するときは、プレート A とバックル A を結合してください。

⚠ 警告

■ 妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(\rightarrow P. 66)

妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるときは

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

▲ 警告

■ プリテンショナー付シートベルトについて（フロント席）

シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていなかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付シートベルト（フロント席）の取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。

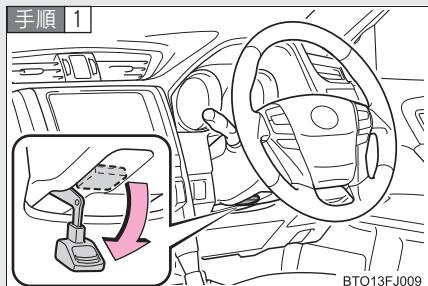
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた

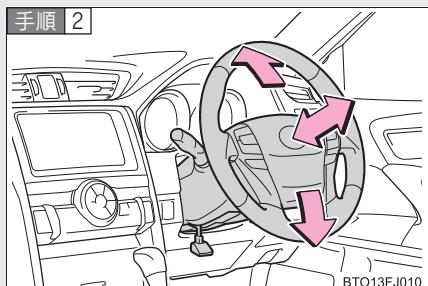
ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいうように調整できます。

マニュアルチルト&テレスコピックステアリング



ハンドルを持ち、レバーを下げる

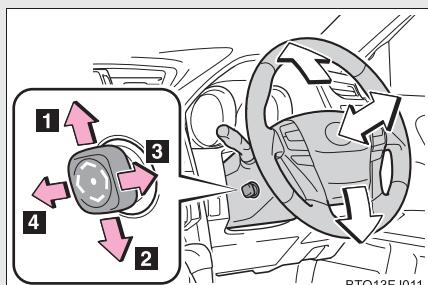


ハンドルを上下・前後に動かし、適正な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

電動チルト&テレスコピックステアリング

スイッチを操作すると、ハンドルを下記の方向に動かします。



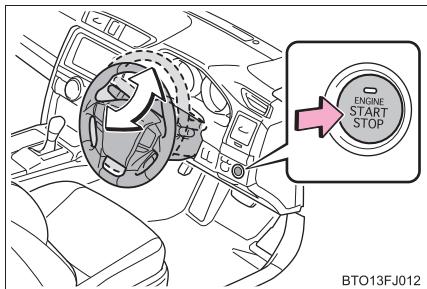
1 上方へ

2 下方へ

3 手前へ

4 前方へ

オートチルトアウェイ＆リターン機能*

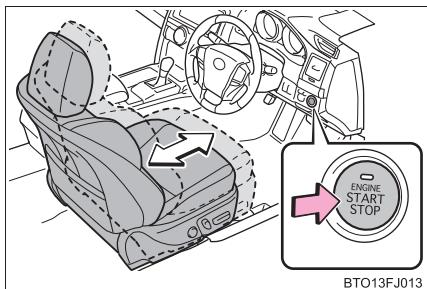


“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF になると、乗降がしやすくなるように、ハンドルが動きます。

“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードになると、もとの位置にもどります。

オートシートスライドアウェイ＆リターン機能*

運転者が乗り降りする際に、運転席シートが自動で、次のように動きます。



降車時：運転席シートが後方に移動（オートアウェイ機能）

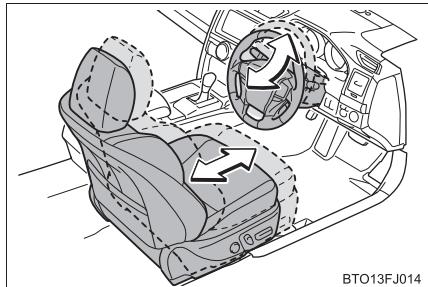
乗車時：運転席シートがもとの位置*に移動（オートリターン機能）

* オートアウェイ機能が作動する前のシートの位置

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

パワーアイージーアクセスシステム*

運転者が乗り降りする際に、ハンドルと運転席シートが自動で、次のように動きます。



降車時：ハンドルが最上段、最前方に移動、運転席シートが後方に移動（オートアウェイ機能）

乗車時：ハンドル、運転席シートがもとの位置※に移動（オートリターン機能）

※ハンドルの上下前後位置、運転席シートの前後位置をお好みの位置に調整しておけば、ハンドル・シートがその位置で記憶されます。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

□ 知識

■ 電動チルト&テレスコピックステアリング*の作動条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのとき

■ 電動チルト&テレスコピックステアリング*のハンドル位置調整について

パワーアクセスシステム装着車では、販売店で設定可能な機能での「降車時運転席シート移動量調節」で「OFF」以外を選択しているときは、“エンジンスタートストップ”スイッチがOFFでも、シートベルトのバックルを装着すると、ハンドルの位置を調整することができます。

■ 降車時の運転席シートのオートアウェイ機能について

(オートシートスライドアウェイ&リターン機能 /
パワーアクセスシステム機能装着車)

降車時に、シートの位置が最後方に近い位置にある場合、オートアウェイ機能を行わない場合があります。

■ オートアウェイ機能の作動条件 (オートシートスライドアウェイ&リターン機能装着車)

●次の条件を満たすと作動します。

- ・シフトレバーをPにする
- ・“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにする
- ・シートベルトのバックルをはずす
(販売店で設定可能な機能での「降車時運転席シート移動量調節」で「OFF」以外を選択しているときのみ)

●作動中に次の操作をすると作動が停止します。

- ・シフトレバーを操作する
- ・運転席のシート調整スイッチ (→P. 57) のいずれかを操作する (腰部調整スイッチを除く)

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■オートリターン機能の作動条件（オートシートスライドアウェイ＆リターン機能装着車）

- 次の条件のいずれかを行うと作動します。

- ・“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにする
- ・運転席シートベルトのバックルを装着する
(販売店で設定可能な機能での「降車時運転席シート移動量調節」で「OFF」以外を選択しているときのみ)

- 作動中に次の操作をすると作動が停止します。

- ・運転席のシート調整スイッチ（→P. 57）のいずれかを操作する（腰部調整スイッチを除く）
- ・車両を発進させる

■オートシートスライドアウェイ＆リターン機能でのシートの作動について
(オートシートスライドアウェイ＆リターン機能装着車)

- オートアウェイ機能作動中・オートアウェイ機能作動終了後に、運転席のシート調整スイッチ（→P. 57）のいずれかを操作した場合、オートリターン機能は作動しません。

- エンジン始動時にシートの作動が一時停止し、エンジン始動後に作動が再開することがあります。
- オートリターン機能作動中に、車両を発進させるとシートの作動が停止します。停止したときは、車両を停止しシートの前後位置を適切な位置に調整してください。

■販売店で設定可能な機能（オートシートスライドアウェイ＆リターン機能装着車）

オートシートスライドアウェイ＆リターン機能のシートスライドを非作動にしたり、シートスライド量の変更ができます。

（カスタマイズ機能一覧 →P. 444）

■オートアウェイ機能の作動条件（パワーイージーアクセスシステム装着車）

- 次の条件を満たすと作動します。

- ・シフトレバーを P にする
- ・“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にする
- ・シートベルトのバックルをはずす
(販売店で設定可能な機能での「降車時運転席シート移動量調節」で「OFF」以外を選択しているときのみ)

- 作動中に次の操作をすると作動が停止します。

- ・シフトレバーを操作する

- 作動中に次の操作をするとシートの作動のみが停止します。

- ・運転席のシート調整スイッチ（→P. 57）のいずれかを操作する（腰部調整スイッチを除く）

■オートリターン機能の作動条件（パワーイージーアクセスシステム装着車）

- 次の条件のいずれかを行うと作動します。

- ・“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにする
- ・運転席シートベルトのバックルを装着する
(販売店で設定可能な機能での「降車時運転席シート移動量調節」で「OFF」以外を選択しているときのみ)

- 作動中に次のいずれかを行うとシートの作動のみが停止します。

- ・運転席のシート調整スイッチ（→P. 57）のいずれかを操作する（腰部調整スイッチを除く）
- ・車両を発進させる

- 作動中に次のスイッチを操作するとハンドルの作動のみが停止します。

- ・電動チルト＆テレスコピックステアリングのスイッチ（→P. 74）を操作する

■パワーアクセスシステムでのハンドル、シートの作動について（パワーアクセスシステム装着車）

- オートアウェイ機能作動中・オートアウェイ機能作動終了後に、運転席のシート調整スイッチ（→P. 57）のいずれかを操作した場合、オートリターン機能は作動しません。
- エンジン始動時にハンドル、シートの作動が一時停止し、エンジン始動後に作動が再開することがあります。
- オートリターン機能作動中に、車両を発進させるとシートの作動が停止します。停止したときは、車両を停止しシートの前後位置を適切な位置に調整してください。
なお、この場合、ハンドルはリターン機能作動を継続します。

■販売店で設定可能な機能（パワーアクセスシステム装着車）

パワーアクセスシステムのシートスライドを非作動にしたり、シートスライド量の変更ができます。シートスライドを非作動にした場合、パワーアクセスシステムはハンドルのみの作動になります。
(カスタマイズ機能一覧 →P. 444)

⚠ 警告

■ 走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは（マニュアルチルト＆テレスコピックステアリング装着車）

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ オートシートスライドアウェイ＆リターン機能（オートシートスライドアウェイ＆リターン機能装着車）でシート、パワーアイージーアクセスシステム（パワーアイージーアクセスシステム装着車）でハンドル・シートが作動しているときは

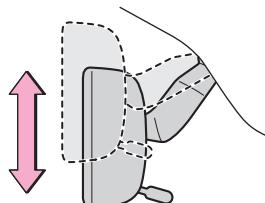
体や荷物などが挟まれないようにしてください。けがをしたり、荷物が破損するおそれがあります。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた

インナーミラー

座った姿勢に合わせて、後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた



BTO13FJ016

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する。

防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドライトによる反射光を減少させます。



BTO13FJ015

① 通常使用時

② 防眩時

⚠ 警告

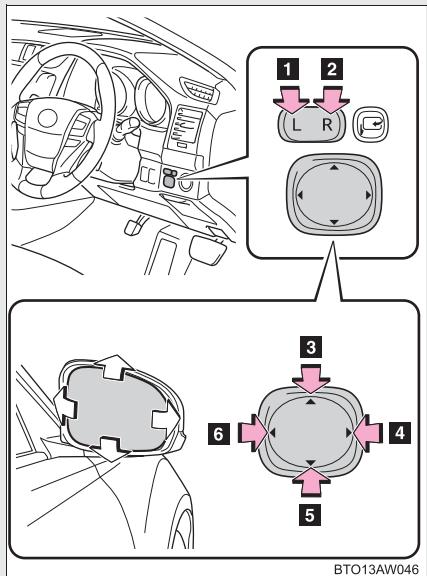
■ 運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

スイッチで鏡面の角度調整をします。



調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

① 左

② 右

ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

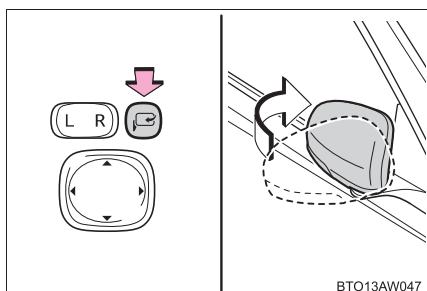
③ 上

④ 右

⑤ 下

⑥ 左

ドアミラーを格納するときは



ボタンを押してドアミラーを格納する。

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

知識

■ 作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”的とき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのとき

■ ミラーが曇ったときは（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフオッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→P. 276）

警告

■ 走行しているときは

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走らない

走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているときは

手をふれないでください。

手を挟んだけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

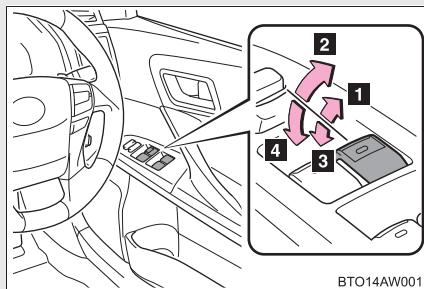
■ ミラーヒーターが作動しているときは（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウィンドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かします。



①閉める

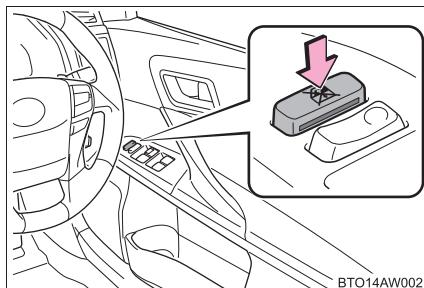
②自動全閉 ※

③開ける

④自動全開 ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ウインドウロックスイッチ



スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■ 作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ エンジンスイッチ“LOCK”(スマートエントリー&スタートシステム非装着車) または“エンジンスタートストップ”スイッチOFF(スマートエントリー&スタートシステム装着車)後の作動

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にしたあとでも、約45秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモード、またはOFFにしたあとでも、約45秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■パワーウィンドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることのできないドアのパワーウィンドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

- スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：車を停止し、エンジンスイッチを“ON”の位置で、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。
- スマートエントリー＆スタートシステム装着車：車を停止し、“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッションONモードの状態で、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で上げ続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを6秒間上げ続ける

手順 2パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で下げ続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを2秒間下げ続ける

手順 3再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で上げ続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを2秒間上げ続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■販売店で設定可能な機能

ドアキー連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。

(カスタマイズ機能一覧→P. 441)

⚠ 警告

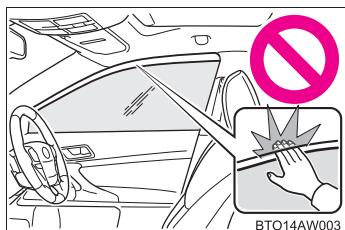
■ ドアガラスを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→ P. 85）



●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。

●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まるるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れるときはエンジンスイッチを“LOCK”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または“エンジンスタートストップ”スイッチをOFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ドアガラスを開閉するときは

次のことをお守りください。

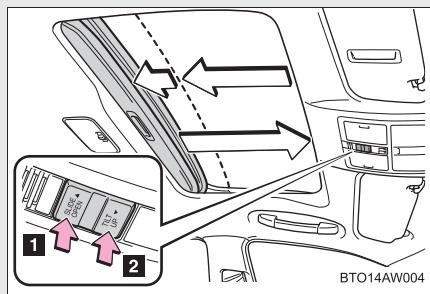
- 運転席スイッチと他のドアのスイッチを同時に逆方向に動かさない
- ドアガラスの全開、全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けない

1-4. ドアガラス・ムーンルーフの開け方、閉め方

ムーンルーフ*

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉、またはチルトアップ / ダウンできます。

■ 開閉



① ムーンルーフを開く*

全開の手前の位置で止まります。

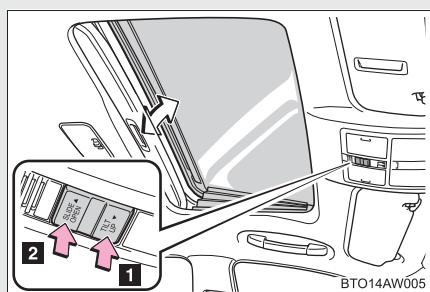
(風切音の低減機能)

全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

② ムーンルーフを閉める*

* 途中で止めるときは、スイッチを軽く押します。

■ チルトアップ / ダウン



① チルトアップ*

② チルトダウン*

* 途中で止めるときは、スイッチを軽く押します。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ 作動条件

- “エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき
- “エンジンスタートストップ”スイッチOFF後の作動

“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはOFFにしたあとでも、約45秒間操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し、少し開きます。

■ サンシェード

手動で開閉できます。ただし、ムーンルーフが開くときは連動して開きます。

■ 閉め忘れ警告表示

ムーンルーフが完全に閉まっておらず、“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにして、運転席ドアを開けるとマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→P.379）

■ムーンルーフが正常に閉まらないときは

下記の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

手順①スイッチの“TILT UP”を押し続ける※¹

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10秒間停止します。※²その後再び閉じ、チルトアップし、1秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順②ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

手順①スイッチの“TILT UP”を押し続け※¹、ムーンルーフをチルトアップ位置にする

手順②スイッチから一度手を離し、再度“TILT UP”を押し続ける※¹

ムーンルーフがチルトアップの状態で10秒間停止し※²、微調節後1秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順③ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※¹途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※²10秒間停止した後にスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの“TILT UP”を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■販売店で設定可能な機能

キー連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。

(カスタマイズ機能一覧→P. 442)

⚠ 警告

■ ムーンルーフを開けているときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ ムーンルーフを開閉するときは

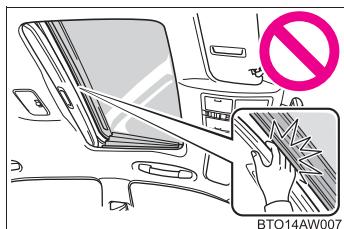
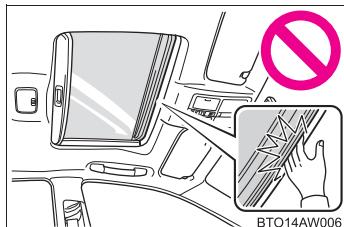
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、骨折など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

⚠ 警告

■ ムーンルーフを開閉するときは



- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。
- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れるときは “エンジン スタート ストップ” スイッチをOFFにし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

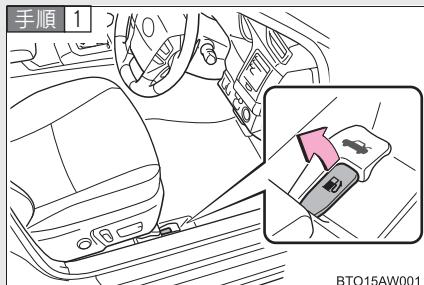
1-5. 給油のしかた 給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

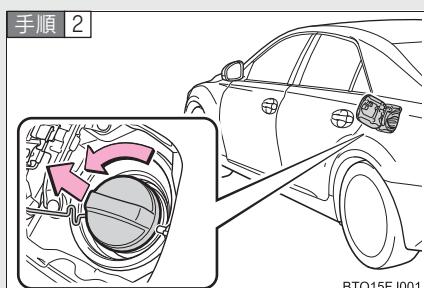
■ 給油する前に

- スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：ドアと窓を閉めて、エンジンスイッチを“LOCK”にしてください。
- スマートエントリー＆スタートシステム装着車：ドアと窓を閉めて、“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにしてください。
- 燃料の種類を確認してください。（→P. 96）

■ 給油口の開け方

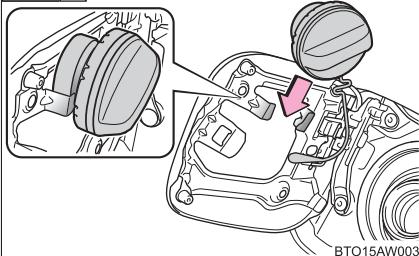


レバーを引き上げて、給油口を開ける



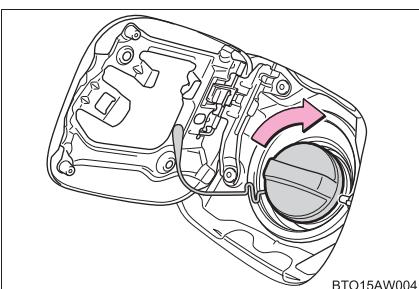
キャップをゆっくりまわして開ける

手順 3



キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを閉めるときは



キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉めます。

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

□ 知識

■ 燃料の種類

4GR-FSE エンジン搭載車：無鉛レギュラーガソリン

2GR-FSE エンジン搭載車：無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

■ エタノール混合燃料について

エタノール混合燃料（エタノールの混合率 3%以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3%以下）も使用することができます。

⚠ 警告

■ 給油について

給油前には次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ボーダーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去する
除去しないと放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。
キャップを開けるとき、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと気温が高いとき、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
- 給油口に、静電気を除去していない人を近付けない
- 気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- 車内にもどったり、静電気を除去していない人や帯電しているものにふれない
再び帯電する可能性があります。

■ 給油時の注意

- ふきこぼれを防ぐため次の点に注意してください。

- ・給油口にノズルを確実に挿入する
- ・継ぎ足し給油をしない

- そのほか、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの店員を呼んで指示に従ってください。

■ キャップ交換時の警告

トヨタ純正以外のキャップを使用しないでください。

純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■ 給油するときは

指定のガソリンを使用してください。

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

次のような状態になるおそれがあります。

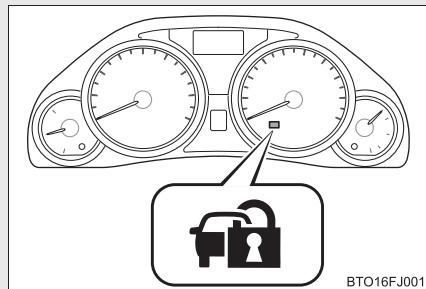
- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

1-6. 盗難防止システム エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。



スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにメーター内の表示灯が点滅します。

登録されたキーをエンジンスイッチに挿し込むとシステムが解除され、表示灯が消灯します。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにメーター内の表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、表示灯が消灯します。

知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→P. 37

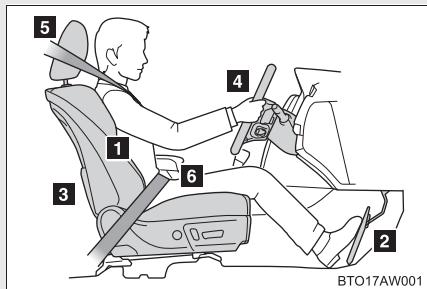
注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

正しい運転姿勢

次の条件にあった正しい姿勢で運転してください。



- ❶ まっすぐ座り、背もたれから背を離さない
(→P. 56、57)
- ❷ シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする
(→P. 56、57)
- ❸ 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする
- ❹ SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする (→ P. 74)
- ❺ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようになる (→ P. 64)
- ❻ シートベルトが正しく着用できる (→ P. 66)

⚠ 警告

■走行中は

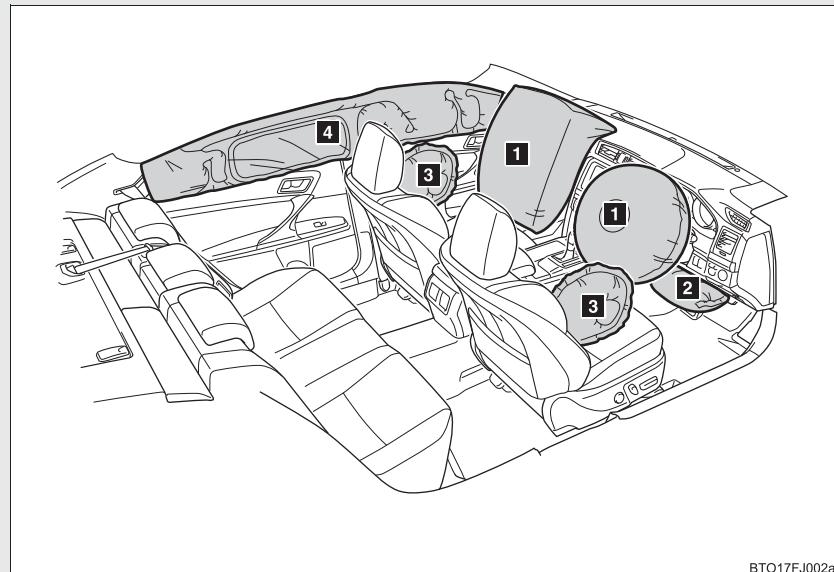
- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあり危険です。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されずに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、調整機構の故障の原因になります。

■シートを調整するときは

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



BTO17FJ002a

フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

② SRS ニーエアバッグ
(運転者の衝撃緩和を補助)

SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ

③ SRS サイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)

④ SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和)

知識

■ SRS エアバッグが作動すると

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音とともに白いガスが発生します。
- フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ~ 30 km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナー（フロント席）のみ作動する場合があります。

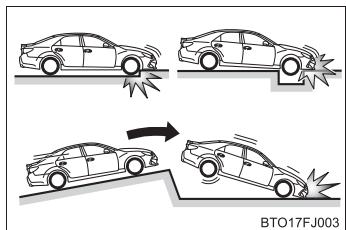
■ SRS エアバッグが作動するとき

（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が、約 20 ~ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが開く場合があります。

■衝突以外で作動するとき

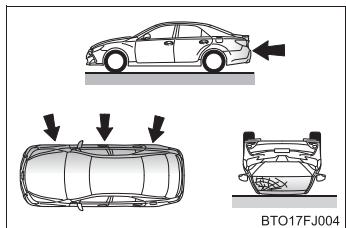
次のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。



- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

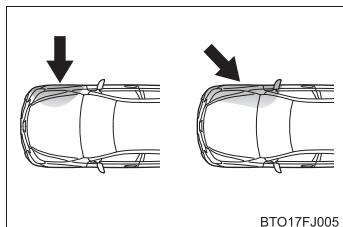
フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。



- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

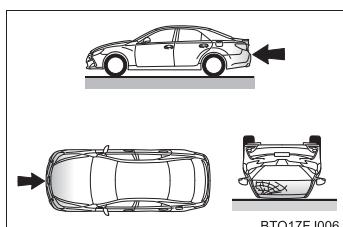
■ SRS エアバッグが作動しないとき (SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ)

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。



- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃

SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃では、作動しません。

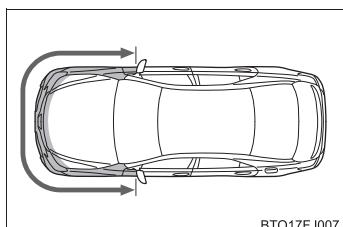


- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

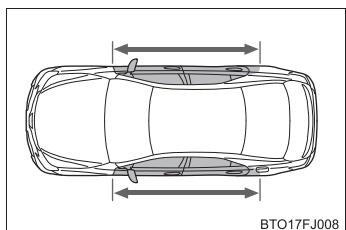
■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

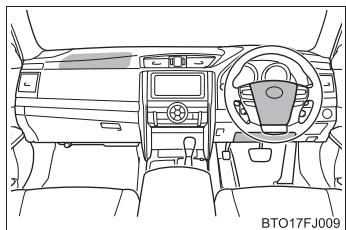
- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき



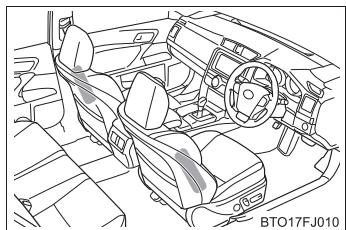
- フロント SRS エアバッグはふくらまなかつたが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



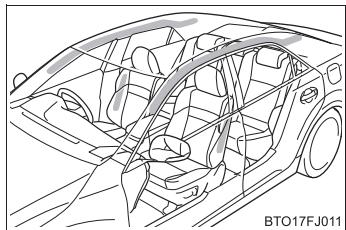
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかつたが、事故でドア部分が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

⚠ 警告

■ SRS エアバッグについて

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

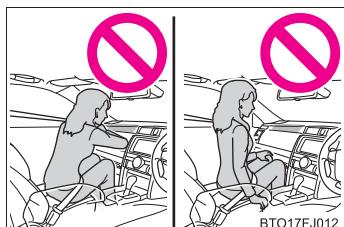
- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。

SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

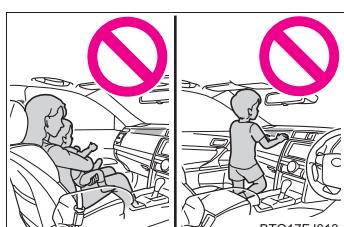
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートができるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。

お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。 (→P. 121)



- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない。



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない。
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない。

⚠ 警告

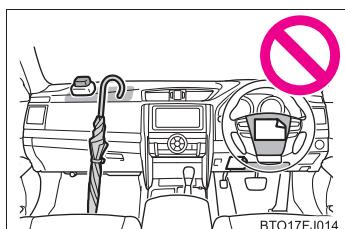
■ SRS エアバッグについて



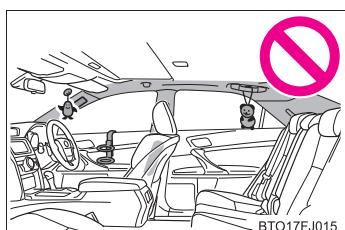
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない。



- 助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない。



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない。



- ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない。(速度制限ラベルを除く (→P. 391))

⚠ 警告

■ SRS エアバッグについて

- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

▲ 警告

■ 改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。

SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRSエアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール等周辺の修理、取りはずし、改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理、改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CDプレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

1-7. 安全にお使いいただくために

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- お子さまの年齢や体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44[※] の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0	: 10kgまで
グループ0 ⁺	: 13kgまで
グループI	: 9 ~ 18kg
グループII	: 15 ~ 25kg
グループIII	: 22 ~ 36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

[※] ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

ベビーシート



ECE R44 基準のグループ 0、0⁺に相当

チャイルドシート



ECE R44 基準のグループ 0⁺、I に相当

ジュニアシート



ECE R44 基準のグループ II、III に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0 (10kgまで)	×	U	UF
0 ⁺ (13kgまで)	×	U	UF
I (9～18kg)	前向き UF うしろ向き ×	U	UF
II (15～25kg)	UF	U	UF
III (22～36kg)	UF	U	UF

● 上記に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向き子供専用シートに適しています。

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

- 子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。
- 表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

シート位置別子供専用シート適合性一覧表
(ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け)

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0 (10kgまで)	E	ISO/R1	IL
0 ⁺ (13kgまで)	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	IL
	C	ISO/R3	IL
I (9~18kg)	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF、IL
	B1	ISO/F2X	IUF、IL
	A	ISO/F3	IUF、IL
II (15~25kg)		(1)	×
III (22~36kg)		(1)	×

● 上表に記入する文字の説明

(1) : サイズ等級表示 (A から G) のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF: この質量グループでの使用を許可された汎用(ユニバーサル)カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL: この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg」に適しています。

×: ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

- 子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認ください。
- 表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0 (10kgまで)	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
0+ (13kgまで)	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	D	ISO/R2		
	C	ISO/R3		
I (9~18kg)	B	ISO/F2	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	B1	ISO/F2X		
	A	ISO/F3		

□ 知識

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■ 子供専用シートの選択・使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」(→P. 114)を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44適合のISOFIX対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」(→P. 115)を確認して、適切なシートを選択してください。

手順 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

(例 1)：体重が 12kg の場合、質量グループは「0⁺」になります。

(例 2)：体重が 15kg の場合、質量グループは「I」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する

手順 1で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。*

(例 1)：質量グループが「0⁺」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例 2)：質量グループが「I」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

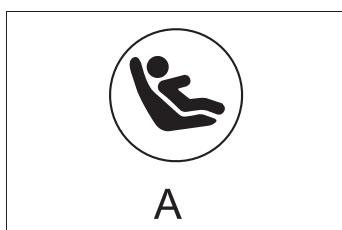
* ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」(→P. 116)で指定されている製品を使用してください。



子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。*

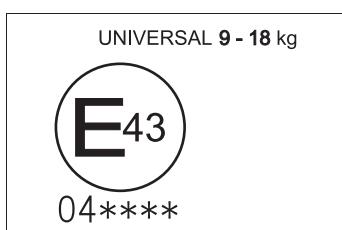
* 表示されている位置・記号などは、商品により異なります。



1 ISOFIX 対応子供専用シートであること
を示す表示

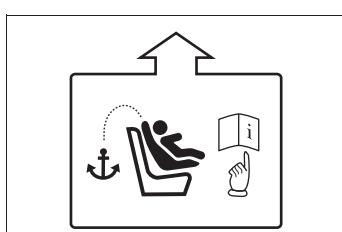
サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。



2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの
認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



3 トップテザー（→P. 121）を示すマーク

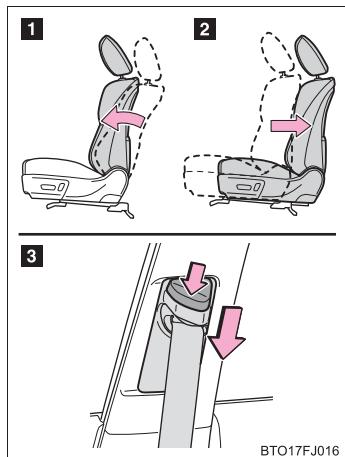
商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (B-ISO/F2 と別形状のもの)
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■ 助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。



- 1 背もたれを直立状態にする
- 2 シートをいちばんうしろに下げる
- 3 シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる

■ キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者におたずねください。

⚠ 警告

■子供専用シートを使用しない場合

- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください (→ P. 122、123)。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

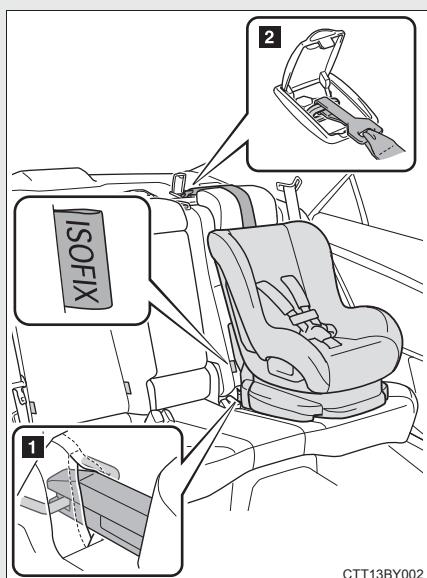
チャイルドシート（子供専用シート）の取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシート外側シートに取り付けてください。

取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。



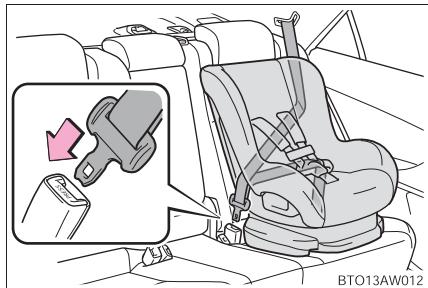
シートベルトによる取り付け
(→ P. 122)



1 ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー (→ P. 123)
リヤシートの外側の座席に装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートについています)

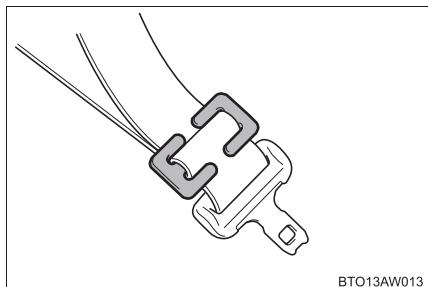
2 トップテザーアンカー
(→ P. 124)
テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはリヤシート後方のパッケージトレイに装備されています。

シートベルトで固定する



チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

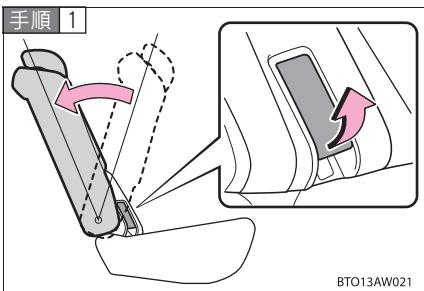


チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ(別売)を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。(ロッキングクリップ品番: 73119-22010)

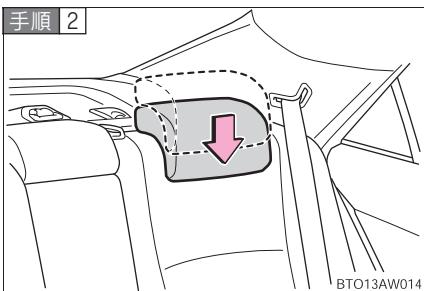
取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

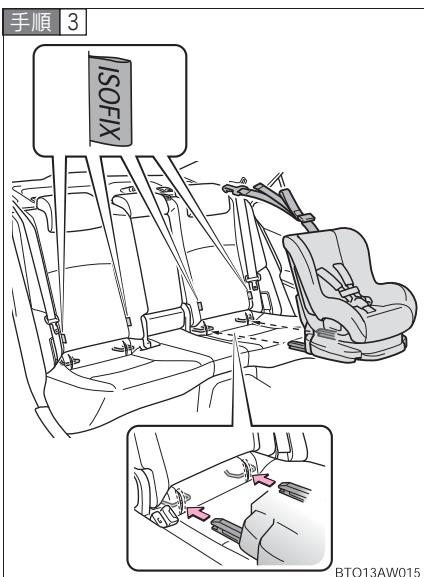


背もたれの角度を調整する

リクライニングレバーを引き上げながらいったん背もたれを前に倒し、一段目の固定位置まで起こします。
(→ P. 59)



上下位置調整が可能なヘッドレスト装着車はヘッドレストをいちばん下まで下げる (→ P. 64)

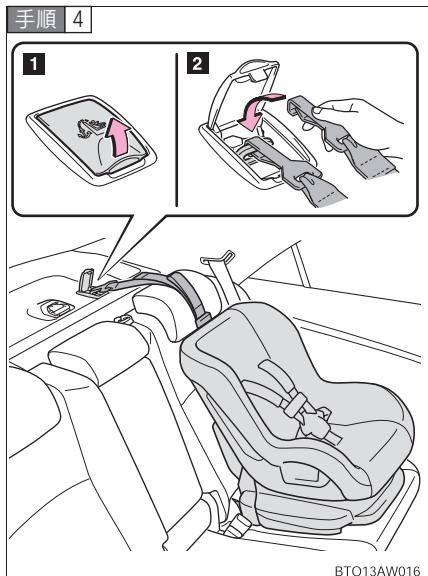


固定専用バーの位置を確認して、チャイルドシートをシートに取り付ける

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

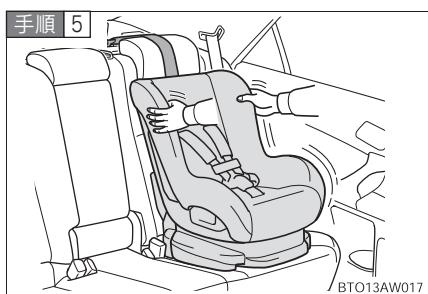
チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれの商品に付属の取扱説明書に従ってください。



1 フタを開けて、**2** トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。



取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、確実に取り付けられていることを確認する

▲ 警告

■ チャイルドシートについて

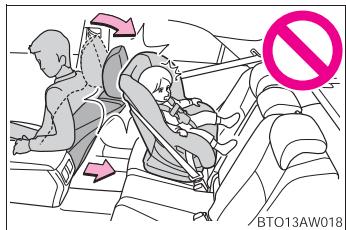
- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないようにしてください。SRSエアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ チャイルドシートを取り付けるときは

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていなか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかりと固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるときは



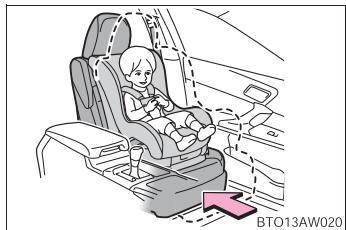
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるときは



- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと供に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物が無いか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

⚠ 注意

■ トップテザーアンカーについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

1-7. 安全にお使いいただくために

運転するときに

2

2-1. 運転のしかた

運転にあたって	130
エンジン (イグニッション) スイッチ (スマートエントリー & スタートシステム 非装着車)	141
エンジン (イグニッション) スイッチ (スマートエントリー & スタートシステム 装着車)	144
オートマチック トランスマッision	149
方向指示レバー	157
パーキングブレーキ	158
ホーン (警音器)	160

2-2. メーターの見方

計器類	161
表示灯／警告灯	165
マルチインフォメーション ディスプレイ	170

2-3. ランプのつけ方・

ワイパーの使い方

ランプスイッチ	177
オートマチック ハイビーム	180

フォグランプスイッチ	185
ワイパー & ウオッシャー (フロント)	186
ワイパー & ウオッシャー (リヤ)	189

2-4. その他の走行装置の 使い方

Toyota Safety Sense	191
PCS (プリクラッシュ セーフティシステム)	197
LDA (レーンディパーザー ^{アラート} [ステアリング 制御機能付き])	210
レーダークルーズ コントロール	222
クルーズコントロール	236
クリアランスソナー	240
LED イルミネーション ビーム	248
運転を補助する装置	249

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意	257
寒冷時の運転	259

2-1. 運転のしかた 運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

■ エンジンをかける (→P. 141、144)

■ 発進する

手順 1] ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする
(→P. 149)

手順 2] パーキングブレーキを解除する (→P. 158)

手順 3] ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

手順 1] シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2] 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にする (→P. 149)

■ 駐車する

手順 1] シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2] パーキングブレーキをかけて (→P. 158)、シフトレバーを P にする (→P. 149)

手順 3] スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “LOCK” にしてエンジンを停止する
(→P. 141)

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしてエンジンを停止する (→P. 144)

手順 4] キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は必要に応じて、輪止め[※] を使用してください。

[※] 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

手順 1] パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを口にする

手順 2] アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3] 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

□ 知識

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→P. 249）

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき
- スポーツモード選択時にブレーキペダルを踏んだとき

■エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→P. 376）

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

- 次のような通常と異なる操作が行われた場合、エンジン出力を抑制する場合があります。

- ・アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D※、D※から R、N から R、P から D※、P から R）とき。この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。（→P. 380）

※D は S ポジションを含みます。

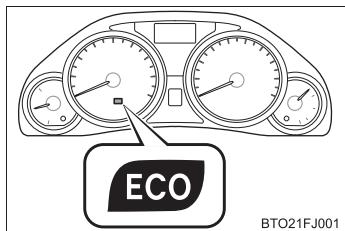
- ・後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。

- ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→P. 251）することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを、樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■環境に配慮した運転をするには



環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。

必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

次の場合、エコドライブインジケーターランプは作動しません。

- 走行モードが通常走行モードまたはエコドライブモード以外のとき
(→P. 151)
- エコドライブインジケーターランプ ユーザーカスタマイズで「ECO OFF」設定時 (→P. 163)
- シフトポジションが D 以外で走行中
(パドルシフトスイッチ装着車は、パドルシフトスイッチ使用時)
- 車速が約 100 km/h 以上のとき

⚠ 警告

■発進するときは

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでいてください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するときは

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

- ・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- ・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■ 運転するときは

- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。
- 車内で排気ガス臭に気付いたら、ドアガラスを開け、トランクが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないとください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないとください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないとください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 429を参照してください。

⚠ 警告

■ 運転するときは

- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。（→P. 150）
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 4WD車：オフロード走行をしないでください。本格的なオフロード走行を目的とした4WD車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- 4WD車：渡河などの水中走行はしないでください。電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するときは

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 停車するときは

- 空ぶかしをしないでください。

シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入っこないことを確認してください。

- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

- 停車中に空ぶかしをしないでください。

排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■ 駐車するときは

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- ・ ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
- ・ プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
- ・ 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■駐車するときは

- ウィンドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてエンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずに、シフトレバーを P にした状態では、車が動き思わず事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジン回転中または停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素 (CO) が含まれているため、排気ガスを吸い込むと、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

- 換気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気管の異常などに気付いた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■仮眠するときは

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■ ブレーキをかけるときは

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとつかないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があります。制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したときは（4WD車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ 運転中は

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- 坡道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。



注意

■駐車するときは

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は、P. 387、404 をご覧ください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスミッション・トランスファー（4WD 車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

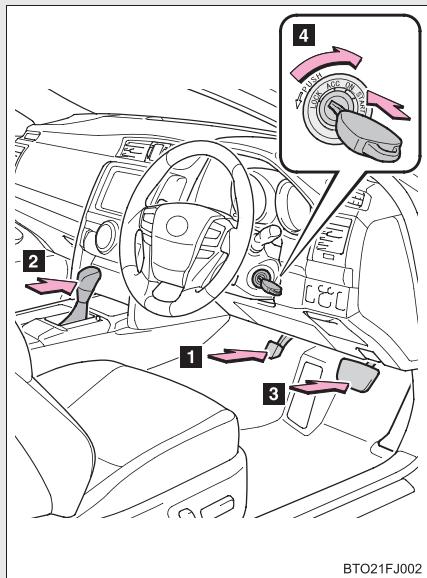
2-1. 運転のしかた

エンジン (イグニッション) スイッチ (スマートエントリー&スタートシステム非装着車)

2

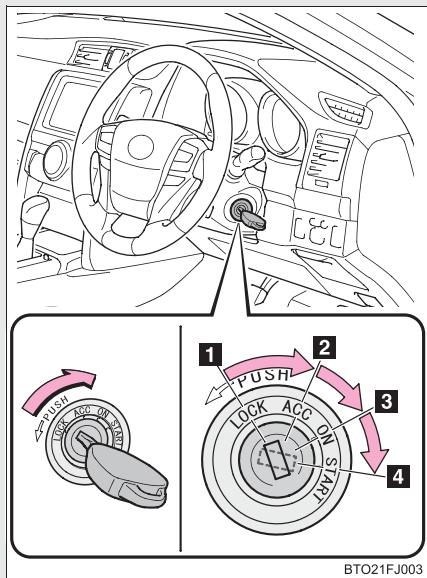
運転するとき

■ エンジンのかけ方



- ① パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- ② シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- ③ 運転席に座ってブレーキペダルをしっかりと踏む
- ④ エンジンスイッチを“START”の位置にまわす

■ エンジンスイッチの位置の切りかえ



- 1 “LOCK” (OFF)
 - ステアリングロックがかかります。
 - シフトレバーの位置がPのとき、キーを抜き挿しすることができます。
- 2 “ACC”

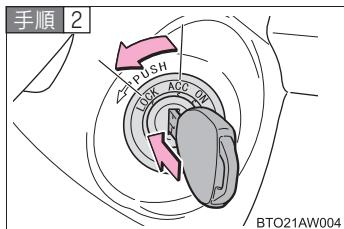
アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

- 3 “ON”
 - すべての電装品が使用できます。
- 4 “START”
 - エンジンが始動できます。

□ 知識

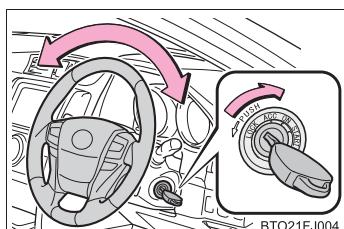
■キーを“ACC”から“LOCK”にまわすには

手順 1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する



キーを押し込みながら“LOCK”までまわす

■ステアリングロックを解除するには



ハンドルを左右に動かしながら、エンジンスイッチをまわしてください。

■エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
(→P. 99)

■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”的とき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

⚠ 警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

走行中はエンジンスイッチを“LOCK”にしないでください。

緊急時は走行中にエンジンを切り、“ACC”にしてください。走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。（→P. 429）

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかるっていないときは、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンを始動するとき

- 一度に30秒以上スターターをまわさないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかしないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

2-1. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動または“エンジン スタート ストップ”スイッチのモードを切りかえることができます。

■ エンジンのかけ方

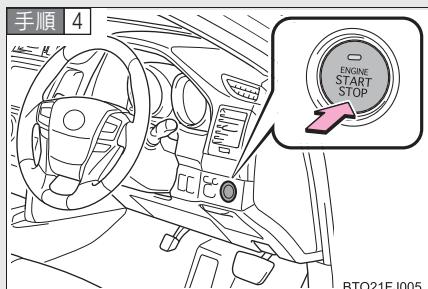
手順 1] パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2] シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3] ブレーキペダルをしっかりと踏む

スイッチ上のインジケーターが緑色に点灯します。

緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。



“エンジン スタート ストップ”
スイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

エンジンが始動するまで最大 25 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

“エンジン スタート ストップ”
スイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。

■ エンジンの停止方法

手順 1] 車両を完全に停止させる

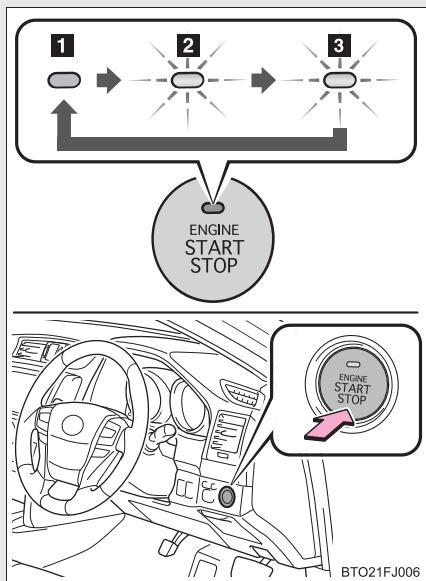
手順 2] パーキングブレーキをかけて（→P. 158）、シフトレバーを P の位置にする（→P. 149）

手順 3] “エンジン スタート ストップ” スイッチを押す

手順 4] ブレーキペダルからゆっくり足を離した状態にして“エンジン スタート ストップ”スイッチのインジケーターが消灯していることを確認する

■ “エンジン スタート ストップ” スイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずに “エンジン スタート ストップ” スイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)



① OFF※

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

③ イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

※ シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF なりません。

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したときは

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、“エンジン スタート ストップ”スイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

手順 1] パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2] シフトレバーを P の位置にする

手順 3] “エンジン スタート ストップ”スイッチのインジケーターが橙色に点灯していることを確認し、“エンジン スタート ストップ”スイッチを 1 回押す

手順 4] “エンジン スタート ストップ”スイッチのインジケーターが消灯していることを確認する

□ 知識

■ 自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上イグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、“エンジン スタート ストップ”スイッチが自動で OFF になります。ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ “エンジン スタート ストップ”スイッチの操作について

スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切り替えやエンジンの始動ができない場合があります。

■ 電子キーの電池の消耗について

→P. 41

■ スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 37

■ ご留意いただきたいこと

→P. 38

■ エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。

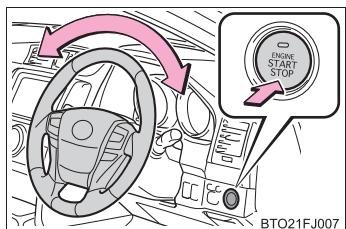
(→P. 99)

トヨタ販売店へご連絡ください。

■ ステアリングロックについて

“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。“エンジン スタート ストップ”スイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ ステアリングロックが解除できないときは



マルチインフォメーションディスプレイに「ステアリングロック未解除」が表示され、“エンジン スタート ストップ”スイッチ上のインジケーターが緑色に点滅します。ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。

■ ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジン始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。2秒程度でもとの状態にもどります。

■ “エンジン スタート ストップ”スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 電子キーの電池が切れたときは

→P. 417

⚠ 警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、“エンジン スタート ストップ”スイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。
(→P. 429)

ただし、緊急時以外は走行中に “エンジン スタート ストップ” スイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかるっていないときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

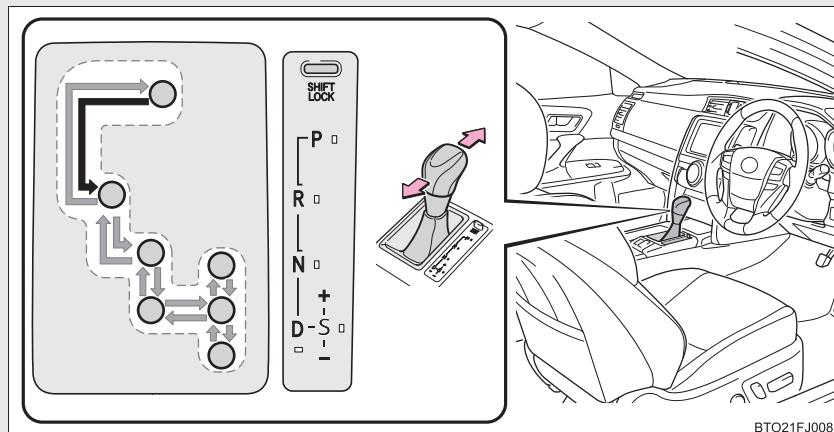
■エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

オートマチックトランスミッション

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方



◀ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

PとDのあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に停めてから行ってください。

■ シフトポジションの使用目的

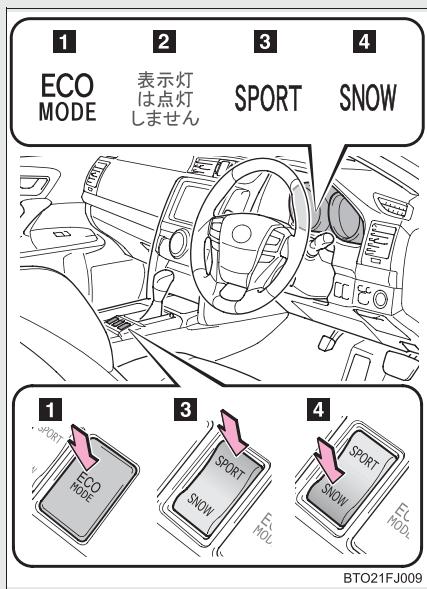
シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジン始動・停止
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ^{※1}
S	S モード走行 ^{※2} (→P. 152)

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※2 S モードではエンジンブレーキ力の選択が可能です。また、D ポジションにくらべエンジン回転数を高く制御するため、加速応答性が向上します。

■ 走行モードの選択

走行・使用条件にあわせて次のモードを選択できます。



1 エコドライブモード

車両駆動力とエアコンの作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

2 通常走行モード

エコドライブモード、スポーツモード、スノーモードのすべてが OFF の状態です。

3 スポーツモード

カーブの多い山道や高速で走行するときに適しています。

4 スノーモード

雪道などすべりやすい路面での発進や走行に適しています。

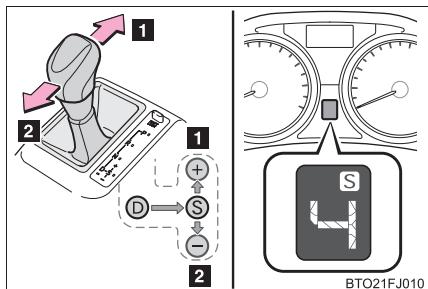
各モードを OFF にするには、もう一度同じモードのスイッチを押します。

また、スポーツモードまたは、エコドライブモードが ON の状態は、エンジンスイッチを “LOCK”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）、または “エンジンスタートストップ” スイッチを OFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にしても記憶されています。

S モードでのシフトレンジ切りかえ

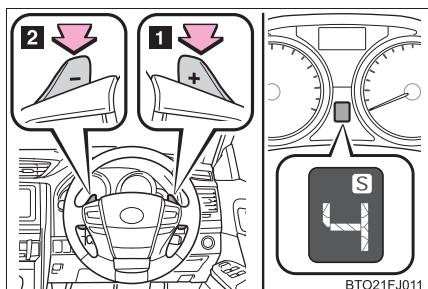
シフトレバーを S の位置にして、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチ*を操作します。

シフトレバー



- ① シフトレンジを上げる
- ② シフトレンジを下げる

パドルシフトスイッチ



- ① シフトレンジを上げる
- ② シフトレンジを下げる

S ポジションへ操作したときの初期シフトレンジは、車速に応じて 5 レンジまたは 4 レンジに設定されます。ただし D ポジションにて AI-SHIFT 制御中はそれに従い、初期のシフトレンジが 3 レンジまたは 2 レンジになる場合があります。 (→P. 150)

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ シフトレンジ機能

シフトレンジ	機能
6	スピードや走行条件に応じて、1速から6速のギヤが自動的にかわります。
5	スピードや走行条件に応じて、1速から5速のギヤが自動的にかわります。
4	スピードや走行条件に応じて、1速から4速のギヤが自動的にかわります。
3	スピードや走行条件に応じて、1速から3速のギヤが自動的にかわります。
2	スピードや走行条件に応じて、1速から2速のギヤが自動的にかわります。
1	ギヤが1速に固定されます。

シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなります。

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■S モード

●4 レンジ以下のとき、シフトレバーを “+” 側へ保持すると、6 レンジに設定されます。

●1 ～ 5 レンジが選択された状態で加速し、エンジン回転数がレッドゾーン付近になると、自動的に 1 レンジずつシフトレンジアップされます。

■シフトダウン制限警告ブザー（S モード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーやパドルシフトスイッチ*を操作してもシフトダウンできない場合があります。シフトダウンが行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

■レーダークルーズコントロール* またはクルーズコントロール* を使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロールまたはクルーズコントロールが解除されないため、エンジンブレーキは効きません。

●D ポジションまたは S モードで走行中に 5 または 4 へシフトダウンしたとき
(→P. 153)

●D ポジションで走行中に走行モードをスポーツモードにしたとき
(→P. 151)

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→P. 132

■スノーモードの自動解除

スノーモードを選択して走行後、エンジンを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。エンジンスイッチが“ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーをPからシフトできません。

■シフトレバーをPからシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

手順 1 パーキングブレーキをかける

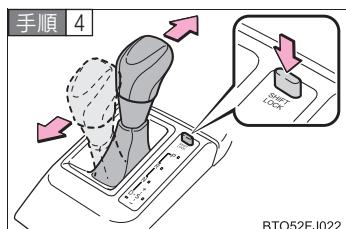
手順 2 **スマートエントリー＆スタートシステム非装着車**

エンジンスイッチを“LOCK”にする

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにする

手順 3 ブレーキペダルを踏む



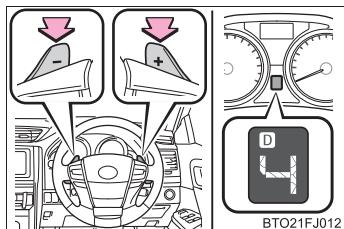
シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押している間はレバーをシフトできます。

■ AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切り替えます。AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに自動的に作動します。(シフトレバーを S にすると、機能が解除されます。)

■ 一時的なパドルシフトスイッチ*の操作について



シフトレバーを D の位置で走行中、パドルシフトスイッチを操作することにより任意の変速段を選択することができます。この場合、シフトレンジ表示灯に D が点灯し、変速段が表示されます。

一時的な S モードは次の状態になると解除されます。

- 同一変速段で、アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- パドルシフトスイッチのシフトアップ側を一定時間以上押し続けたとき
- 車両停止状態のとき

■ シフトレバーを S にしても、シフトレンジ表示部に S が点灯しないときは

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

⚠ 警告

■ すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■ シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキを確実にかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

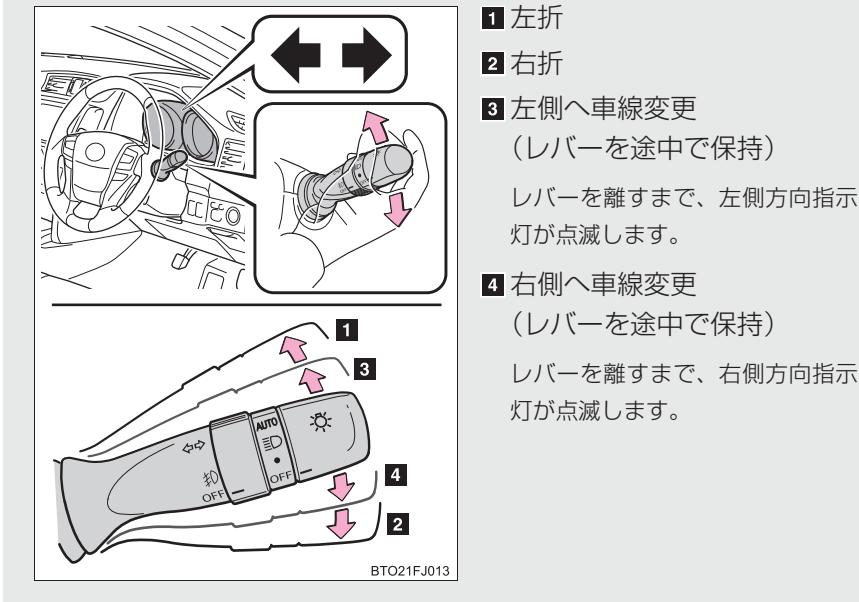
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

2-1. 運転のしかた 方向指示レバー

2

運転するとき

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



① 左折

② 右折

③ 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。

④ 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。

□ 知識

■ 作動条件

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

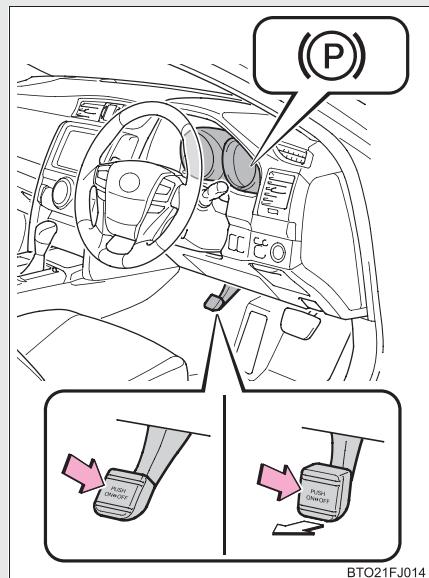
スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

2-1. 運転のしかた パーキングブレーキ



パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）

□ 知識

■ 駐車するとき

→P. 130

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→P. 260

■ パーキングブレーキ未解除警告ブザー

→P. 372

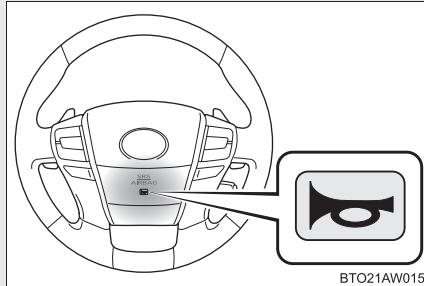
 **警告****■走行前の注意**

パーキングブレーキを完全に解除してください。

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

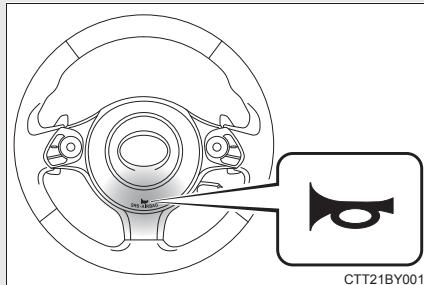
2-1. 運転のしかた ホーン（警音器）

“GR SPORT” を除く



ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。

“GR SPORT”

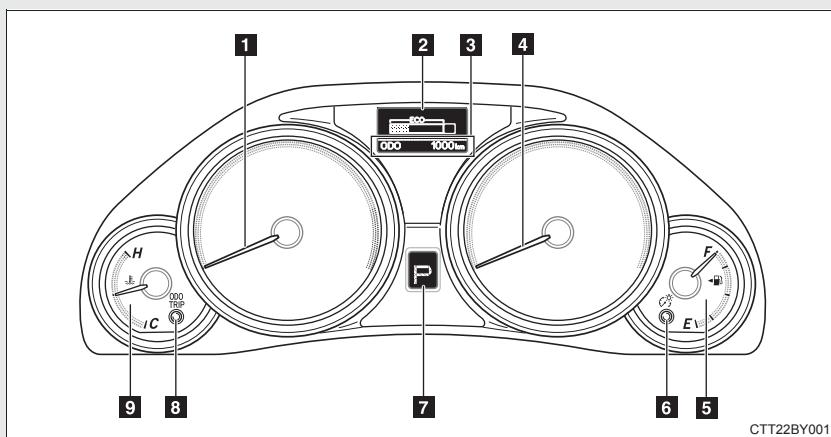


ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ハンドル位置を調整したあとは（マニュアルチルト&テレスコピック装着車）

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→P. 74）



CTT22BY001

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関する様々な情報を表示します。 (→P. 170)

3 オドメーター／トリップメーター／エコドライブインジケーター／ランプユーチューランプ／カスタマイズ**● オドメーター**

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。

区間距離は、トリップA、トリップBの2種類で使い分けることができます。

● エコドライブインジケーター／ランプユーチューランプ／カスタマイズ

エコドライブインジケーター／ランプの点灯／消灯をキャンセルできます。

4 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

5 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

6 メーター明るさ調整ボタン

→P. 163

7 シフトポジション・シフトレンジ表示

選択されているシフトポジションまたはシフトレンジを表示します。

（→P. 152）

8 表示切りかえボタン →P. 163

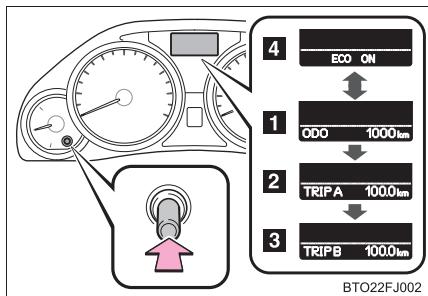
オドメーター／トリップメーター／エコドライブインジケーター／ランプ／ユーザー カスタマイズの切りかえができます。また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離が 0 にもどります。

9 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

表示の切りかえ

ボタンを押すごとに次のように切りかわります。



① オドメーター

② トリップメーター A^{*}

③ トリップメーター B^{*}

④ エコドライブインジケーター^{ランプ}
ユーチューアーカスタマイズ

^{*} 押し続けると 0 にもどります。

■ エコドライブインジケーター^{ランプ}ユーチューアーカスタマイズ

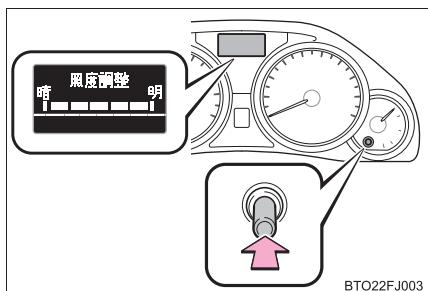


エコドライブインジケーター^{ランプ} (→P. 133) の点灯／消灯をキャンセルするには、エコドライブインジケーター^{ランプ}ユーチューアーカスタマイズ画面表示中に、表示切りかえボタンを押します。

エコドライブインジケーター^{ランプ}ユーチューアーカスタマイズ画面は、オドメーター表示中に、表示切りかえボタンを押すと表示されます。表示が切りかわるまでボタンを押し続けてください。

メーター明るさ調整ボタン

ボタンを押すごとにメーター照明の明るさを 5 段階で調整できます。



ボタンを押すとマルチインフォメーションディスプレイの表示が照度調整に切りかわります。

車幅灯消灯時と点灯時それぞれ 5 段階に、明るさのレベルを調整することができます。

知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき

■メーターの明るさの調整について

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調整することができます。

■メーター照度の減光制御について

●ランプスイッチがONになると、メーター照明が減光されます。ただし、メーター照度が最大状態では、ランプスイッチがONになってもメーター照明は減光されません。

●周囲が暗いときに車幅灯を点灯すると、メーター照明が減光されます。

周囲が明るいとき（昼間など）車幅灯を点灯しても、メーター照明は減光されません。

注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

●タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

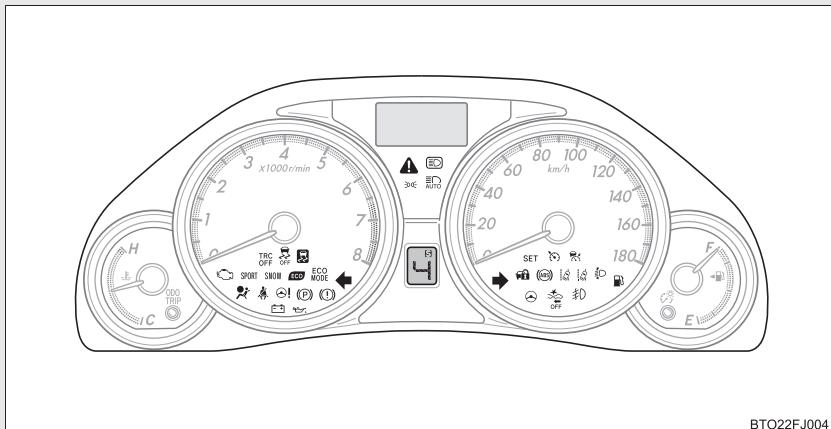
●水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P. 424）

2-2. メーターの見方 表示灯／警告灯

メーター・センター・パネル内の表示灯／警告灯でお車の状況をお知らせします。

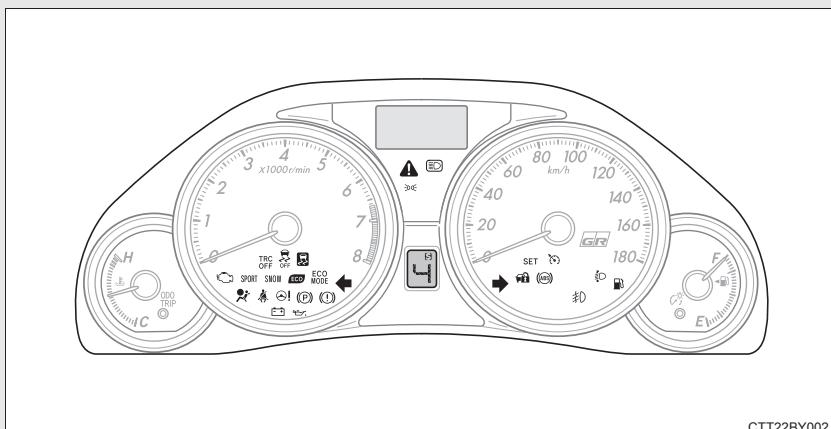
次のイラストは、説明のためすべての表示灯／警告灯を示しています。

メーター（“GR SPORT”を除く）



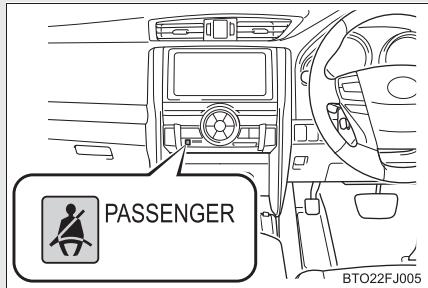
BTO22FJ004

メーター（“GR SPORT”）



CTT22BY002

センター・パネル



■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→P. 157)



尾灯表示灯 (→P. 177)



ハイビーム
表示灯 (→P. 177)

※ エコドライブ



インジケーターランプ
(→P. 133)

※



スリップ表示灯
(→P. 250)



セキュリティ表示灯
(→P. 99)



(黄色点滅
または
緑色点灯)

LDA 表示灯*
(→P. 210)



ステアリング制御表示灯*
(→P. 216)

※



PCS 警告灯*
(→P. 197)

※



オートマチックハイビーム
表示灯* (→P. 180)



ECO MODE 表示灯
(→P. 151)



※ SPORT 表示灯
(→P. 151)



※ VSC OFF 表示灯
(→P. 252)



SNOW 表示灯
(→P. 151)



フロントフォグランプ
表示灯* (→P. 185)



※ TRC OFF 表示灯
(→P. 251)



シフトポジション・シフトレ
ンジ表示灯 (→P. 152)



クルーズコントロール
表示灯
(→P. 222, 236)



レーダークルーズ
コントロール表示灯*
(→P. 222)



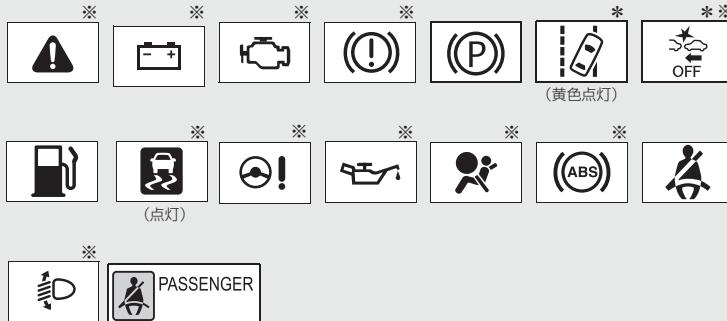
クルーズコントロール
セット表示灯
(→P. 222, 236)

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

※ 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または、“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッションONモード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。（SPORT表示灯はAVS装着車のみ作動確認の点灯を行います）

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。 (→P. 368)



※ 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”(スマートエントリー&スタートシステム非装着車)、または“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッションONモード(スマートエントリー&スタートシステム装着車)にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 警告

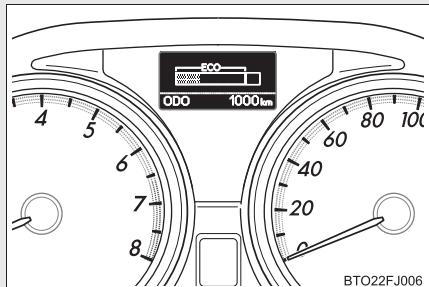
■ 安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABSやSRSエアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンスイッチを“ON”(スマートエントリー&スタートシステム非装着車)、または“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッションONモード(スマートエントリー&スタートシステム装着車)にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、次のような情報を表示します。

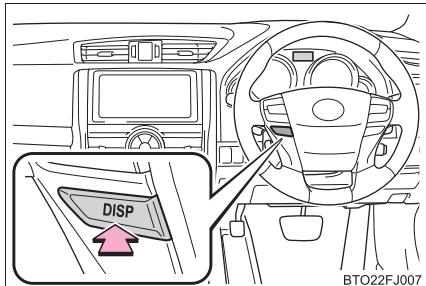


- トリップインフォメーション (→P. 171)
航続可能距離や燃費など走行に関する情報を表示します。
- レーダークルーズコントロール表示* (→P. 222)
レーダークルーズコントロール使用時に自動で表示されます。
- クリアランスソナー表示* (→P. 240)
クリアランスソナー使用時に、障害物を感知すると自動で表示されます。
- 警告メッセージ (→P. 373)
各システムに異常が発生すると自動で表示されます。
- メーター明るさ調整 (→P. 163)
- 設定画面* (→P. 173)
PCS や LDA に関する設定を変更できます。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

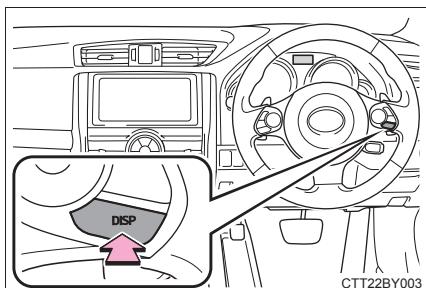
表示の切りかえ

“GR SPORT” を除く



表示を切りかえるには、DISP スイッチを押します。

“GR SPORT”



表示を切りかえるには、DISP スイッチを押します。

■ エコドライブインジケーターゾーン表示



エコドライブインジケーターゾーン表示を表示します。

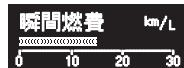
■ 平均燃費



リセットしてからの平均燃費を表示します。

- リセットするには、平均燃費表示中に DISP スイッチを 1 秒以上押します。
- 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 瞬間燃費



現在の瞬間燃費を表示します。

■ 給油後平均燃費



給油してからの平均燃費を表示します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 航続可能距離



現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかかるため、実際に走行できる距離とは異なります。
- 燃料給油量が少量（約 10L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。

■ 平均車速



通算の平均車速を表示します。

リセットするには、平均車速表示中に DISP スイッチを 1 秒以上押します。

■ 走行時間



エンジンを始動してから停止までの間に、走行した時間を表示します。

■ 外気温



外気温を表示します。

– 40 ℃～50 ℃の間で表示します。

■ 設定*



次の内容を設定できます。DISP ボタンを長押しすると、設定画面に切りかわります。

LDA :

- ・ 操舵支援
- ・ 警報感度
- ・ ふらつき検知
- ・ 検知感度

PCS :

- ・ ON / OFF
- ・ 警報感度

● LDA (操舵支援)

操舵支援を「有」・「無」から選択することができます。(\rightarrow P. 221)



BTO22FJ009

● LDA (警報感度)

車線逸脱警報の感度を「高い」・「普通」から選択することができます。
(\rightarrow P. 221)



BTO22FJ010

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

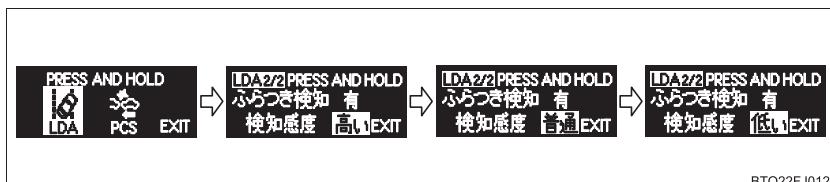
● LDA (ふらつき検知)

ふらつき検知を「有」・「無」から選択することができます。(→P. 221)



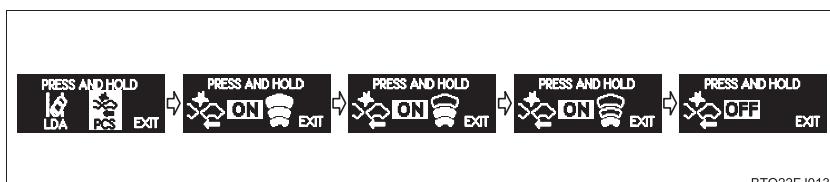
● LDA (検知感度)

ふらつき検知感度を「高い」・「普通」・「低い」から選択することができます。(→P. 221)



● PCS (警報感度／OFF)

警報感度を3段階・「OFF」から選択することができます。(→P. 200)



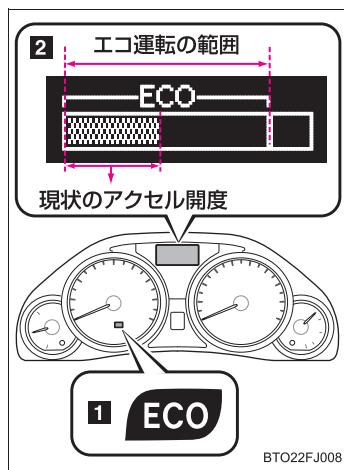
□ 知識

■ 外気温表示について

次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがあります。故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 25 km/h 以下）のとき
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）
- 外気温の測定が正しく行われないときは「-- °C」または、「E °C」と表示されます。

■ エコドライブインジケーターゾーン表示について



環境に配慮したアクセル操作（エコ運転）の範囲と、現状のアクセル開度を表示します。エコ運転中は、エコドライブインジケーターランプ（1）が点灯します。アクセルの踏み過ぎなど、エコ運転の範囲をこえた場合には、エコドライブインジケーターゾーン表示（2）の右側が点滅し、エコドライブインジケーターランプが消灯します。

ただし次の場合、

- シフトポジションが D 以外で走行中（パドルシフトスイッチ装着車は、パドルシフトスイッチ使用時）
- 走行モードが通常走行モードまたはエコドライブモード以外のとき（→P. 151）
- 車速が約 100 km/h 以上のとき

エコドライブインジケーターゾーン表示は左図の表示になります。



■バッテリー端子の脱着をしたときは

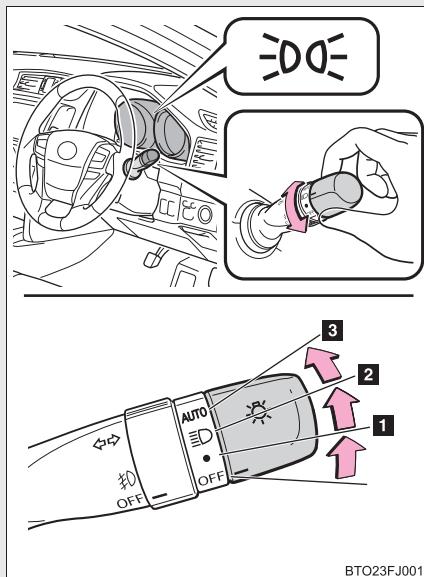
バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

- 平均燃費
- 航続可能距離
- 平均車速

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。

レバーの端をまわすと、次のようにランプが点灯します。



1 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯

2 上記ランプとヘッドライトを点灯

3 ヘッドライト、LED デイライト* (→ P. 178)、車幅灯などを自動点灯・消灯

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

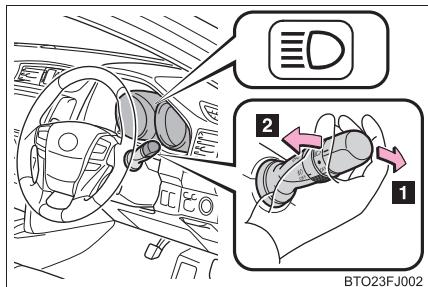
エンジンスイッチが“ON”的とき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ハイビームにする



① ランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

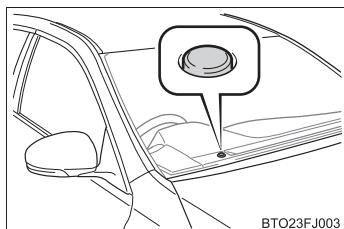
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

□ 知識

■ LED デイライト*

日中の走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、エンジン始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると LED デイライトが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します。） LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■ ライトセンサー



センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ ランプ消し忘れ防止機能

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを“ON”にするか、一度ランプスイッチをOFFにもどし、再度 ● または  の位置にします。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはOFFにして運転席ドアを開けるとヘッドライトと尾灯が消灯します。

再びランプを点灯する場合は、“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッションONモードにするか、一度ランプスイッチをOFFにもどし、再度

● または  の位置にします。

ドアまたはトランクが開いている場合、20分後にすべてのランプが自動消灯します。

■ オートレベルリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■ 販売店で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。

(カスタマイズ機能一覧 → P. 442)



注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。

2-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

オートマチックハイビーム*

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置されたカメラセンサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

⚠ 警告

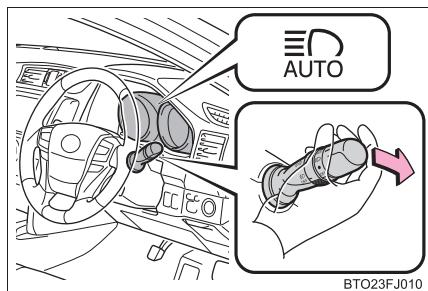
■安全にお使いいただくために

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

オートマチックハイビームの使い方



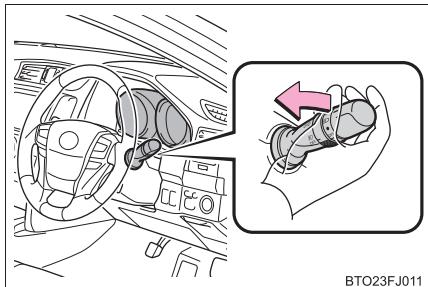
ランプスイッチをAUTOの位置にしたあと、レバーを前方へ押す

ヘッドライトが点灯しているとき、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

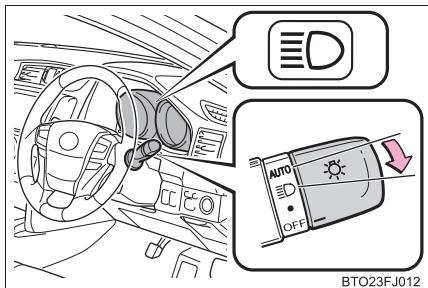
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ



レバーをもとの位置にもどす
オートマチックハイビーム表示灯が
消灯します。
オートマチックハイビームにもどす
には、再度レバーを前方に押します。

■ ハイビームへの切りかえ



ランプスイッチを AUTO から
にして

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯し、ハイビーム表示灯が点灯しま
す。

オートマチックハイビームにもどす
には、再度ランプスイッチを AUTO
にします。

知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

- ・車速が約 30 km/h 以上
- ・車両前方が暗い
- ・前方にランプを点灯した車両がない
- ・前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

- 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- ・車速が約 25 km/h 以下
- ・車両前方が明るい
- ・前方車両がランプを点灯している
- ・前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■カメラセンサーの検知について

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

- ・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
- ・他車が前方を横切ったとき
- ・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- ・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- ・前方車両が無灯火のとき

- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームからロービームに切りかわる場合があります。

- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

- ・前方車両のランプの明るさ
- ・前方車両の動きや向き
- ・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
- ・前方車両が二輪車のとき
- ・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
- ・乗車人数や荷物の量

- ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

- ・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- ・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
- ・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
- ・カメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
- ・カメラセンサーが極端に高温になっているとき
- ・周囲にヘッドライトや尾灯などに似た光があるとき
- ・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があつたり光軸がずれているとき
- ・先行車から水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
- ・急激な明るさの変化が連続するとき
- ・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- ・カーブが多い道路を走行しているとき
- ・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- ・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
- ・自車のヘッドライトが破損または汚れているとき
- ・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき

- ・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
- ・マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されているとき

■マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

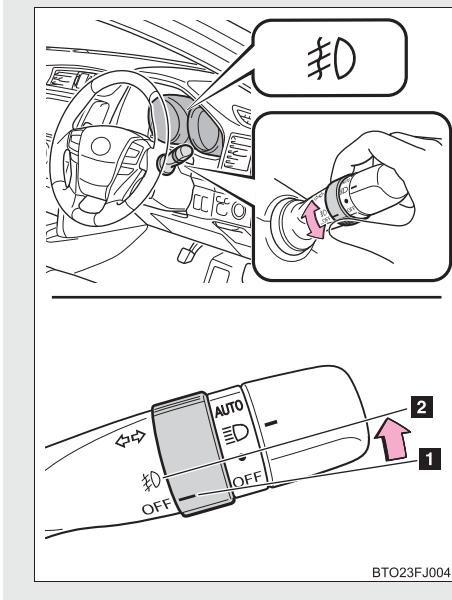
オートマチックハイビームの作動を変更できます。
(カスタマイズ一覧: → P. 442)

2-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

フォグランプスイッチ*

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

フロントフォグランプ



2

運転するとき

知識

■点灯条件

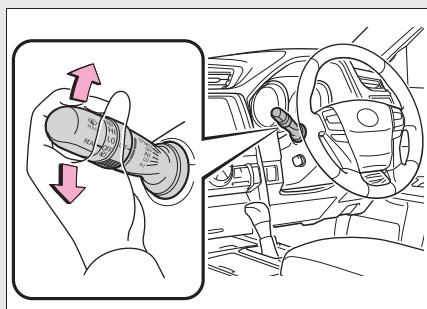
ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

2-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方 ワイパー & ウォッシャー（フロント）

“INT”を選択しているとき、間欠作動の時間を調整することができます。

次のようにレバーをまわして、ワイパーの作動を選択します。
ワイパーの間欠時間も調整できます。

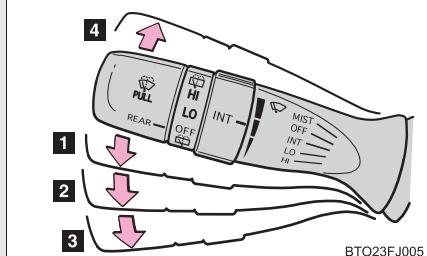


① 間欠作動 (INT)

② 低速作動 (LO)

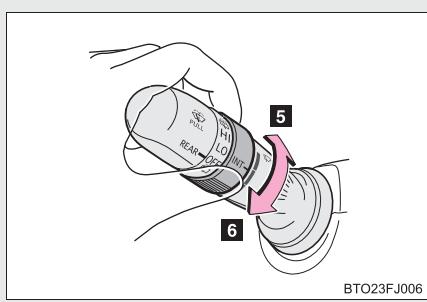
③ 高速作動 (HI)

④ 一時作動 (MIST)



⑤ 間欠ワイパーの作動頻度(減)

⑥ 間欠ワイパーの作動頻度(増)





7 ウオッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

□ 知識

■ 作動条件

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき

■ ウオッシャー液が出ないとときは

ウオッシャー液量が不足していないのにウオッシャー液が出ないとときは、ノズルのつまりを点検してください。

⚠ 警告

■ ウオッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウオッシャー液を使用しないでください。ウオッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■ フロントガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウオッシャー液が出ないときは

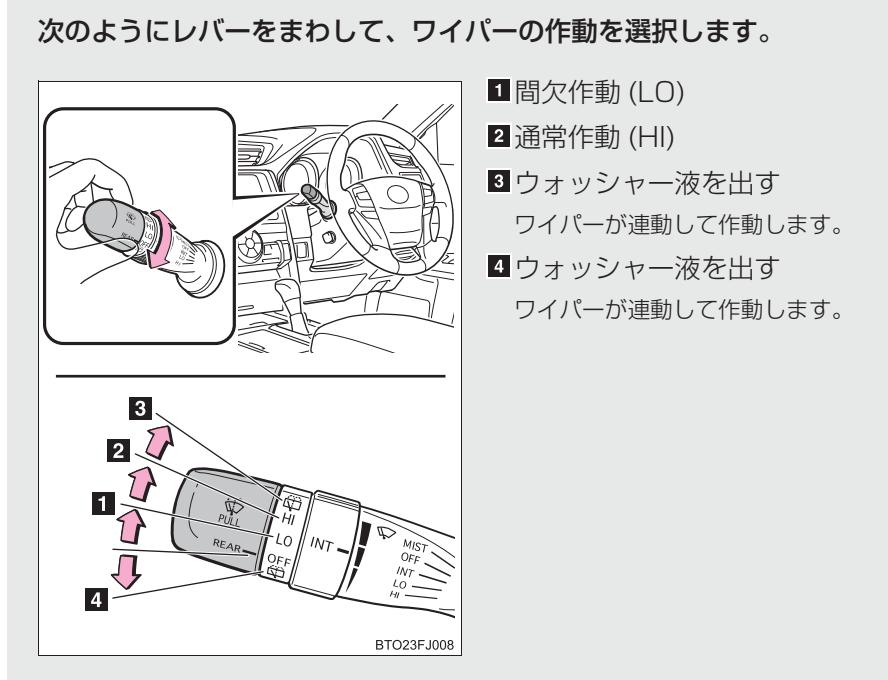
ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまつたときは

ノズルがつまつたときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。

2-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ワイパー & ウォッシャー (リヤ) *



知識

■作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 **注意**

■ リヤウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。

ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウオッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまつたときは

ノズルがつまつたときはトヨタ販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。

Toyota Safety Sense *

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

■ PCS (プリクラッシュセーフティシステム)

→P. 197

■ LDA (レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き])

→P. 210

■ オートマチックハイビーム

→P. 180

■ レーダークルーズコントロール

→P. 222

 **警告**

■ Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

車両データの記録について

プリクラッシュセーフティシステムには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・アクセルペダルの操作状況
- ・ブレーキペダルの操作状況
- ・車速
- ・プリクラッシュセーフティシステムの各機能の作動状況
- ・先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報
- ・カメラセンサーの画像情報（プリクラッシュブレーキ作動時のみ）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することができます。

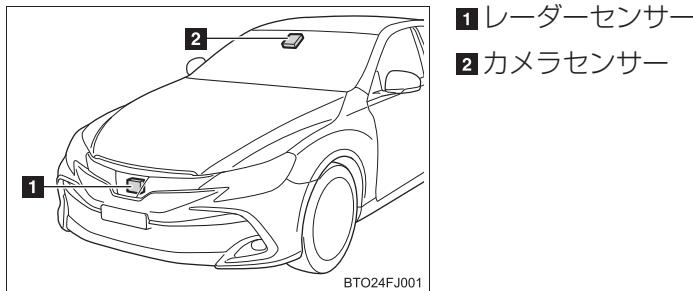
なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・トヨタが訴訟で使用する場合
- ・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティシステム作動時のデータは残りません。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。



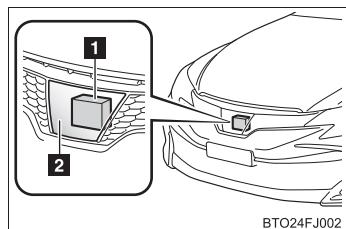
⚠ 警告

■ レーダーセンサーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、レーダーセンサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- レーダーセンサーとフロントグリルエンブレムは常にきれいにしておく。



1 レーダーセンサー

2 フロントグリルエンブレム

レーダーセンサー前面やフロントグリルエンブレム前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーセンサー やフロントグリルエンブレムを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

- レーダーセンサー やフロントグリルエンブレム周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- レーダーセンサー周辺への強い衝撃を避ける
レーダーセンサー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。
- レーダーセンサーを分解しない
- レーダーセンサー やフロントグリルエンブレムを改造したり、塗装したりしない
- レーダーセンサー・フロントグリル・フロントバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

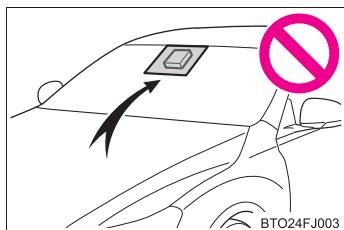
■ カメラセンサーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください

お守りいただかないと、カメラセンサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害のおよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく。

- ・ フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
- ・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、カメラセンサー前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
- ・ フロントウインドウガラス内側のカメラセンサー取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。



- カメラセンサー前部のフロントウインドウガラス（図に示す範囲）にアンテナを取り付けたり、ステッカー（透明なものも含む）などを貼ったりしない

- カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、フロントデフロスターで取り除く（→ P. 270）

- カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパープレードを交換する
ワイパーゴムまたはワイパープレードの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する

フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

- カメラセンサーに液体をかけない
- カメラセンサーに強い光を照射しない
- カメラセンサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはぶれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- カメラセンサーに強い衝撃を加えない
- カメラセンサーの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- カメラセンサーを分解しない
- カメラセンサー付近に電子機器や、強い電波を発信する機器を取り付けない
- インナーミラーなどのカメラセンサー周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、カメラセンサーの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、カメラセンサーの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドライトなどのランプ類を改造しない

□ 知識

■ レーダーセンサーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

2-4. その他の走行装置の使い方

PCS (プリクラッシュセーフティシステム) *

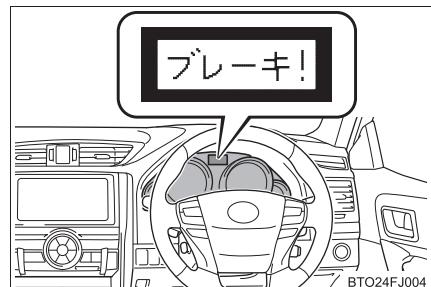
道路上の車両や歩行者を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティシステムの ON / OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。(\rightarrow P. 200)

2

運転するとき

■ 衝突警報



衝突の可能性が高いとシステムが検知したとき、“ピピピピ”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。

■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに衝突警報を行い、さらに衝突の可能性が高まったと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突速度の低減に寄与します。

■ サスペンションコントロール*

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、AVS (\rightarrow P. 249) によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- プリクラッシュセーフティシステムは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：

→P. 203

・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→ P. 206

- お客様ご自身でプリクラッシュセーフティシステムの作動テストを行わないでください。状況によってシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約 2 秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

▲ 警告

- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■ プリクラッシュセーフティシステムを OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないととき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

プリクラッシュセーフティシステムの設定変更

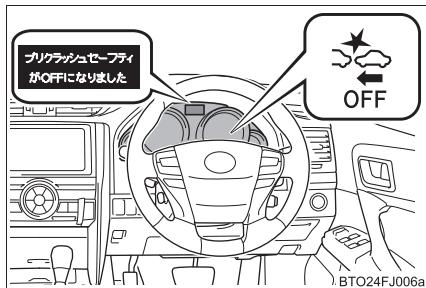
■ プリクラッシュセーフティシステムの ON / OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの



(→ P. 170) から、プリクラッシュセーフティシステムの ON (作動) / OFF (非作動) を変更することができます。

エンジンスイッチ(スマートエントリー&スタートシステム非装着車)が“ON”または“エンジンスタートストップ”スイッチ(スマートエントリー&スタートシステム装着車)がイグニッションONモードになるたびシステムはONになります。



システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

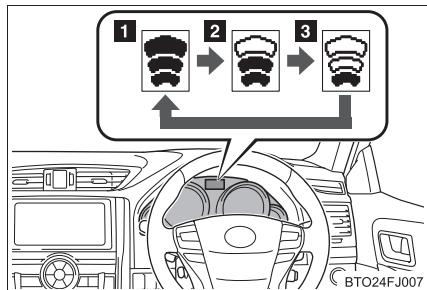
■ プリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの



(→ P. 170) から、プリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更することができます。

エンジンスイッチ (スマートエントリー&スタートシステム非装着車) または “エンジンスタートストップ” スイッチ (スマートエントリー&スタートシステム装着車) を OFF にしても選択した警報タイミングは継続します。



① 遠い

「中間」より警報タイミングが早くなる

② 中間

初期設定

③ 近い

「中間」より警報タイミングが遅くなる

知識

■システムの作動条件

プリクラッシュセーフティシステムが ON で、前方の車両や歩行者と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。各機能の作動速度は次のとおりです。

●衝突警報

- ・自車速度約 10 ~ 180 km/h (検出対象が歩行者のときは、自車速度約 10 ~ 80 km/h)
- ・自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 10 km/h 以上

●プリクラッシュブレーキアシスト

- ・自車速度約 30 ~ 180 km/h (検出対象が歩行者のときは、自車速度約 30 ~ 80 km/h)
- ・自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 30 km/h 以上

●プリクラッシュブレーキ

- ・自車速度約 10 ~ 180 km/h (検出対象が歩行者のときは、自車速度約 10 ~ 80 km/h)
- ・自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 10 km/h 以上

ただし、次のときシステムは作動しません。

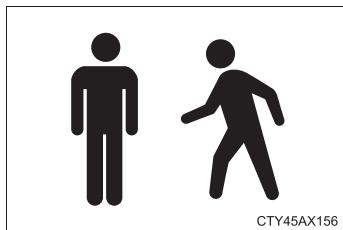
●バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

●シフトレバーが R のとき

●VSC が OFF のとき (衝突警報のみ作動可能状態になります)

●PCS 警告灯が点滅または点灯しているとき

■歩行者検出について



対象となる歩行者の大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、歩行者の動き・姿勢・角度などによっては、歩行者を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。(→ P. 206)

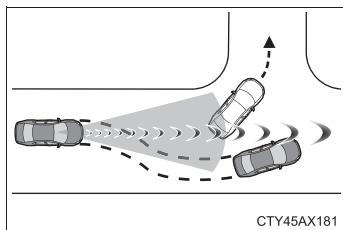
■プリクラッシュブレーキの作動解除

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

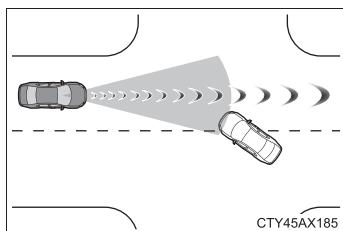
- アクセルペダルを強く踏み込む
- ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

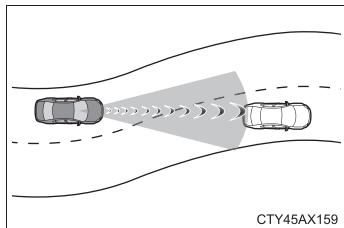
- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性があると判断し、作動するおそれがあります。
 - ・車両や歩行者のすぐそばを通過するとき
 - ・車線を変更して先行車を追いこすとき
 - ・車線変更している先行車を追い抜くとき
 - ・右左折する先行車を追いこすとき



- ・右左折する先行車を追いこすとき

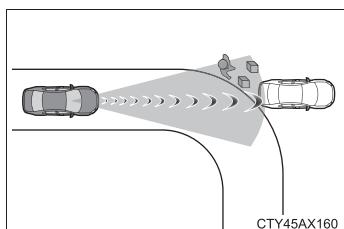


- ・右左折待ちの対向車とすれ違うとき



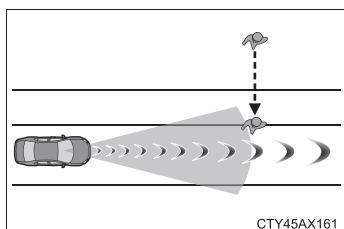
- ・隣の車線の前方車両との位置関係がずれる道（曲がりくねった道など）を走行するとき

- ・前方車両に急接近したとき
- ・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- ・道路脇の構造物（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき

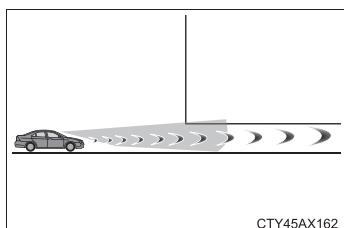


- ・カーブ入り口の道路脇に車両・歩行者・構造物が存在するとき

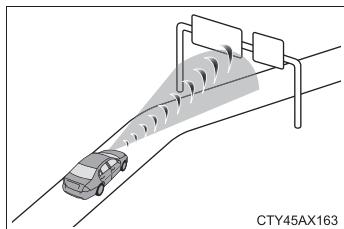
- ・道路脇が構造物に囲まれた狭い道（狭いトンネル・鉄橋など）を走行するとき
- ・路上または道路脇に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき



- ・横断する歩行者が車両のすぐそばに近付いたとき

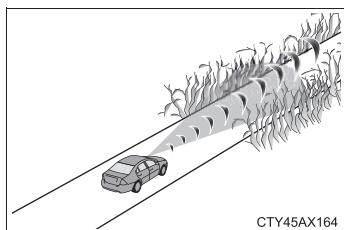


- ・道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識など）がある場所を走行するとき



- ・上り坂で道路上方に構造物（看板など）がある場所を走行するとき

- ・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに急速に接近したとき
- ・洗車機を使用するとき



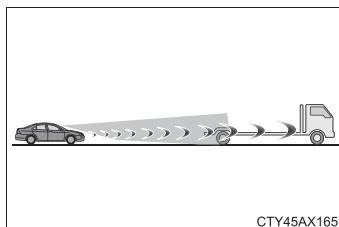
- ・車両に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

- ・前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- ・車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・路面または壁面に車両や歩行者との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
- ・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
- ・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

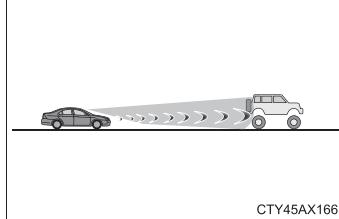
- 例えば次のような状況では、前方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- ・ 前方から自車に向かって車両が近付いてくるとき
- ・ 前方車両がオートバイ・自転車のとき
- ・ 車両の側面または前面に近付いたとき
- ・ 先行車の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）



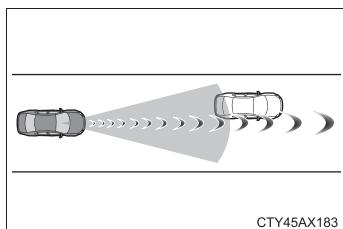
- ・ 先行車の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）

- ・ 前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき



- ・ 前方車両の最低地上高が極端に高いとき

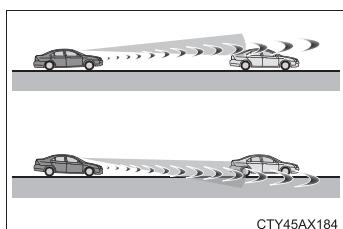
- ・ 前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- ・ 前方車両が太陽光などを強く反射しているとき
- ・ 車両が横から割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・ 前方車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・ 自車が車線変更を行い、変更した車線の先行車に急接近したとき



CTY45AX183

- ・前方車両と自車の中心がずれているとき

- ・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
- ・前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- ・車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
- ・強い光（太陽光や対向車のヘッドライト光など）がカメラセンサーに直接あたっているとき
- ・薄暗いとき（朝方・夕方など）、および夜間やトンネル内
- ・エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・右左折中および右左折後の数秒間
- ・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
- ・自車が横すべりしているとき



CTY45AX184

- ・車両姿勢が変化しているとき

- ・ホイールアライメントがずれているとき
- ・ワイパー・ブレードがカメラセンサーの視界をさえぎっているとき
- ・ふらつき運転をしているとき
- ・過度な高速走行をしているとき
- ・坂道を走行しているとき
- ・前方センサーの向きがずれているとき

- 例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。

- ・ ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
- ・ 車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
- ・ 砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

- 例えば次のような歩行者は、前方センサーが検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- ・ 身長が約 1 m 以下、または約 2 m 以上の歩行者
- ・ 合羽・ロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
- ・ 大きな荷物を抱えていたり、傘をさしていたりして、体の一部が隠れている歩行者
- ・ 前かがみになっている、またはしゃがんでいる歩行者
- ・ ベビーカー・車いす・自転車などを押している歩行者
- ・ 集団でいる歩行者
- ・ 白っぽい服を着ていて、極端に明るく見える歩行者
- ・ 夜間やトンネル内など、暗闇にいる歩行者
- ・ 服装の色合いや明るさなどが背景に溶け込んでいる歩行者
- ・ 壁際や車両・フェンス・ガードレールなどのそばにいる歩行者
- ・ 路面の金属物（マンホール・鉄板など）上にいる歩行者
- ・ 歩く速度が速い歩行者
- ・ 歩く速度を急激に変化させている歩行者
- ・ 物陰から飛び出してきた歩行者
- ・ 車両の側端（ドアミラーなど）すれすれの位置にいる歩行者

■PCS 警告灯が点滅、およびマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。

- 次のときは、状況が改善されると PCS 警告灯・警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

- ・炎天下などで、前方センサーや前方センサー周辺の温度が高いとき
- ・極寒の環境などで、前方センサーや前方センサー周辺の温度が低いとき
- ・レーダーセンサーやフロントグリルエンブレム周辺に雪や汚れなどが付着しているとき
- ・カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりしているとき
(フロントウインドウガラスの曇りを取りには：→P. 270)
- ・ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスのカメラセンサー付近にシールが貼り付けられているときなど、カメラセンサーの前方がさえぎられているとき

- PCS 警告灯が点滅したままのときは、および警告メッセージが表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

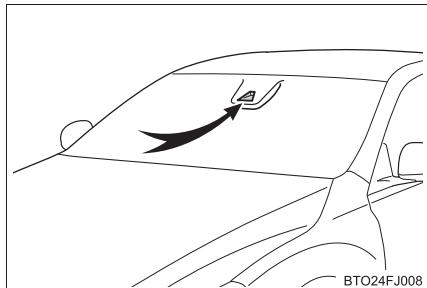
■VSC を停止したとき

- VSC の作動を停止（→ P. 252）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。
- PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が OFF の為プリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

2-4. その他の走行装置の使い方

LDA (レーンディパーチャーラート[※] [ステアリング制御機能付き]) *

白（黄）線が整備された、高速道路または自動車専用道路を走行中、車線からの逸脱の可能性を運転者に警告するとともに、逸脱を回避するためのハンドル操作の一部を支援します。



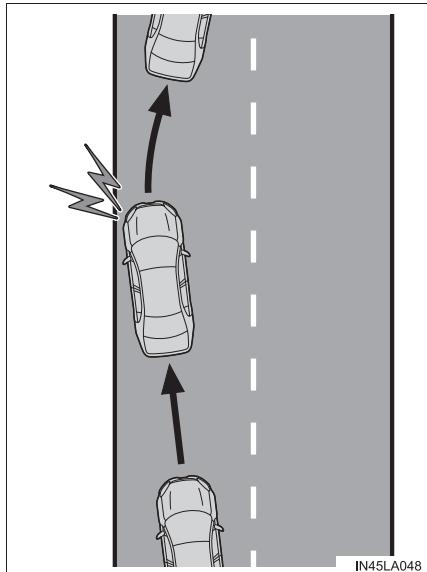
LDA はフロントウインドウガラス上部のカメラセンサーで、白（黄）線を認識します。

[※] : 車線逸脱警報

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

LDA に含まれる機能

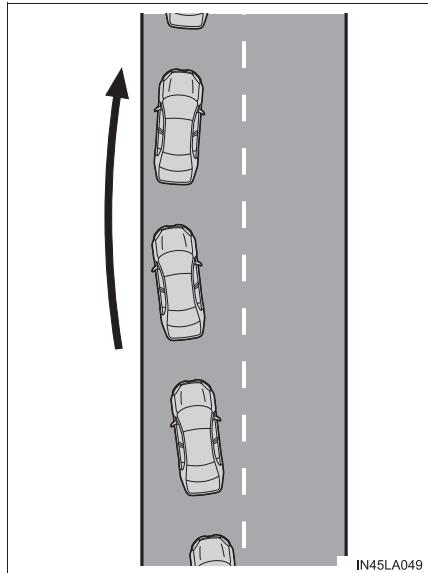
■ 車線逸脱警報機能



車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線内の中央付近にもどってください。

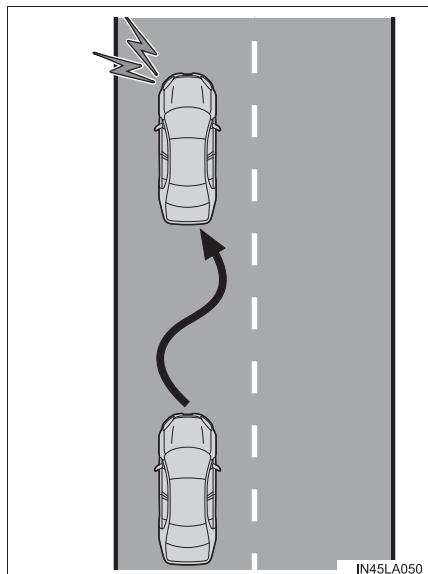
■ ステアリング制御機能



車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるのに必要なハンドル操作の一部を支援します。

一定のあいだハンドルを操作しなかったり、ハンドルをしっかりと握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、機能が一時的に解除されます。

■ ふらつき検知機能



車両がふらついて走行しているとき、または車線から何度もはみだしそうになった場合に、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。



警告

■ LDA をお使いになる前に

LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 誤操作を防ぐために

LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ LDA を使用してはいけない状況

次の状況では、LDA を使用しないでください。

システムが適切に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分ないとき、または空気圧が不足しているとき
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- 路側側に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ポールなど）
- 雪道を走行しているとき
- 雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡などが残っているとき
- 工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき
- 雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき
- 高速道路または自動車専用道以外の車線を走行しているとき
- 工事区間を走行しているとき
- トレーラーまたは車両けん引時



警告

■LDA の故障、または誤操作を防ぐために

- ヘッドライトランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

設定のしかた



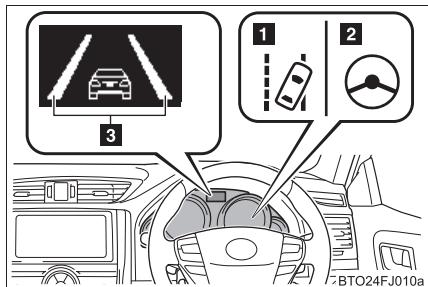
LDA を ON にするには LDA スイッチを押す

LDA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

いったんLDA をON／OFF すると、次回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。

マルチインフォメーションディスプレイ表示



1 LDA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

緑色に点灯：車線逸脱監視中もしくは
ステアリング制御機能の
ハンドル操作支援が作動
中

黄色に点滅：車線逸脱警報中

2 ステアリング制御表示灯／ハンドル操舵支援の作動表示

ステアリング制御機能のハンドル操舵支援が作動中のとき、表示灯が点灯するとともに、マルチインフォメーションディスプレイの作動画面が表示されます。

3 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

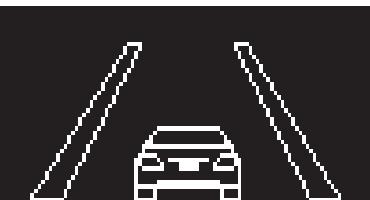
白線表示の内側が白いとき



BTO24FJ011a

システムが白（黄）線を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が点滅します。

白線表示の内側が黒いとき



BTO24FJ012a

システムが白（黄）線を認識できていない、またはシステムが一時的に解除していることを示しています。

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報機能

次の条件をすべてみたしたとき作動します。

- ・LDA を ON にしているとき
- ・車速が約 50 km/h 以上のとき
- ・システムが白（黄）線を認識しているとき
- ・車線の幅が約 3 m 以上のとき
- ・方向指示レバーを操作していないとき
- ・直線路または半径が約 150 m よりゆるいカーブを走行しているとき
- ・システムの異常が検知されていないとき（→P. 373）

●ステアリング制御機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・マルチインフォメーションディスプレイの「設定」で「操舵支援」を「有」に設定しているとき（→ P. 170）
- ・一定以上の加減速がないとき
- ・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
- ・TRC または VSC を停止していないとき
- ・手放し運転警告（→ P. 219）が表示されていないとき

●ふらつき検知機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・マルチインフォメーションディスプレイの「設定」で「ふらつき検知」を「有」に設定しているとき（→ P. 170）
- ・車速が約 50 km/h 以上のとき
- ・車線の幅が約 3 m 以上のとき
- ・システムの異常が検知されていないとき（→ P. 373）

■機能の一時解除

作動条件（→ P. 218）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

ステアリング制御機能作動中に、作動条件（→ P. 218）が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音が鳴り、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

■ステアリング制御機能について

車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、ステアリング制御機能の作動を感じなかつたり、ステアリング制御機能が作動しなかつたりすることがあります。

■車線逸脱警報機能について

外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

■手放し運転警告について

ステアリング制御機能の作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、警告メッセージが表示され、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様です。ただし路面状況などにより、作動が中断しない場合があります。

■白（黄）線が片側しかないとき

白（黄）線が認識できない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、カメラセンサーが白（黄）線を正しく検知できず、各機能が正しく作動しないおそれがあります。

- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャットアイ（道路錆）や置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき

- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドライト光・太陽光などがカメラに入射しているとき
- 分岐・合流路などを走行しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 急カーブを走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間にヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 冬用タイヤなどを装着しているとき

■警告メッセージ

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージで注意をうながします（→ P. 373）

■ カスタマイズ機能

次の設定を変更できます。

機能	設定内容
車線逸脱警報機能	警報感度
ステアリング制御機能	機能の ON / OFF
ふらつき検知機能	機能の ON / OFF
	検知感度

設定変更のしかたは、P. 170 を参照してください。

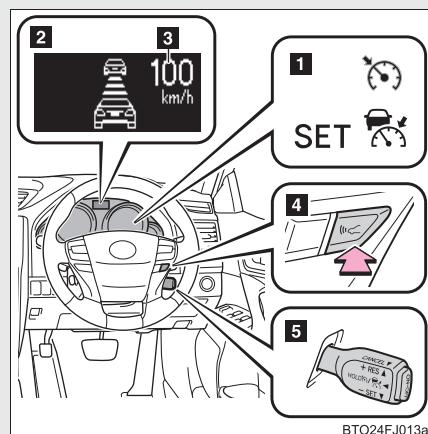
2-4. その他の走行装置の使い方

レーダークルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化にあわせた追従走行を行い、自動的に加速・減速をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード (→ P. 225)
- 定速制御モード (→ P. 231)



①表示灯

②マルチインフォメーションディスプレイ

③設定速度

④車間距離切りかえスイッチ

⑤クルーズコントロールスイッチ

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は運転者が行う必要があります。

システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

⚠ 警告

■誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときは ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。

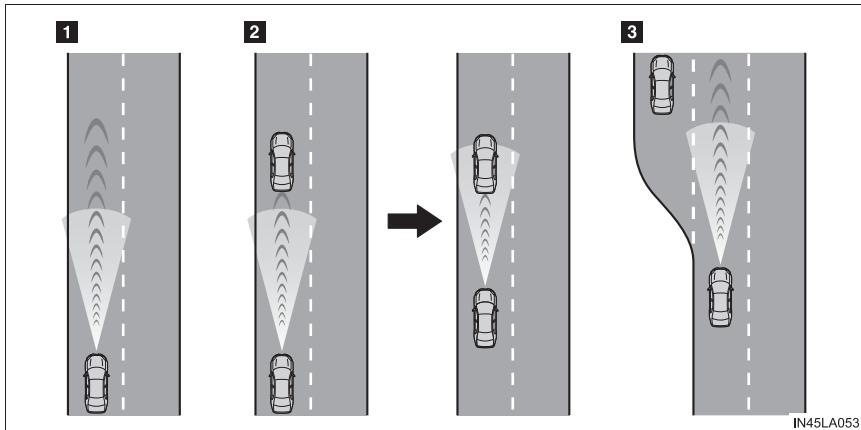
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- レーダーセンサー前面または、カメラセンサー前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- 頻繁に加速・減速を繰り返すような交通状況のとき
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーセンサーにより車両前方約100m以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。



①定速走行：

先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

②減速走行—追従走行：

設定した速度より、車速が遅い先行車が現れたとき

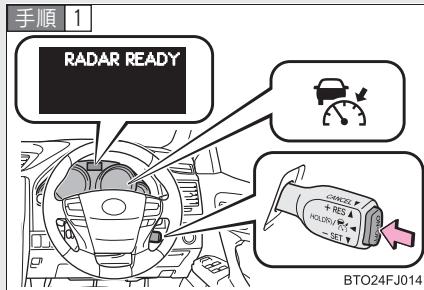
先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化にあわせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

③加速走行：

設定した速度より、車速が遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

■ 速度を設定する（車間制御モード）

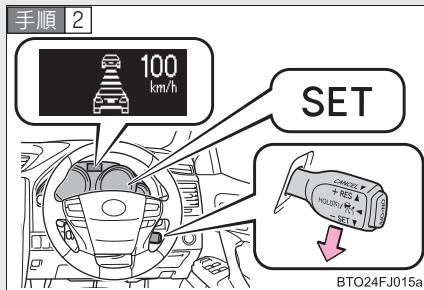


ON-OFFスイッチを押してシステムをONにする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFFにするには、再度スイッチを押します。

ON-OFFスイッチを1.5秒以上押し続けると定速制御モードでシステムがONします。（→P. 231）



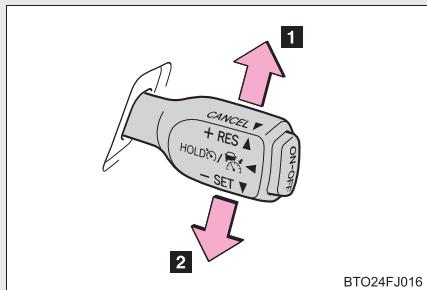
希望の車速（約50km/h以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げる速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。

■ 設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

大幅調整：レバーを上または下に保持して速度をかえ、希望の速度で手を離す

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます。：

微調整：レバー操作をするごとに
1 km/h

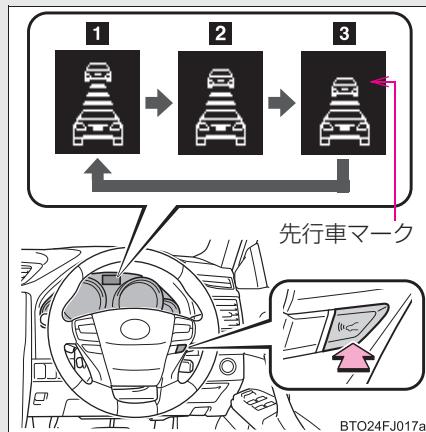
大幅調整：レバーを保持している
あいだ、5 km/h ずつ

定速制御モード（→ P. 231）では、設定速度は、次のとおりに増減されます。

微調整：レバー操作をするごとに
1 km/h

大幅調整：レバーを保持している
あいだ連続して変化

■ 車間距離を変更する（車間制御モード）



スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

①長い

②中間

③短い

エンジンスイッチを“ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッションONモード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にするたびに車間距離は①にもどります。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

■ 車間距離選択の目安（車間制御モード）

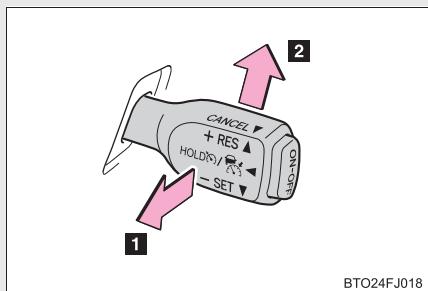
次の目安を参考に車間距離を選択してください。

（速度 80 km/h で走行している場合）

なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50 m
中間	約 40 m
短い	約 30 m

■ 制御を解除する・復帰させる



1 制御を解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

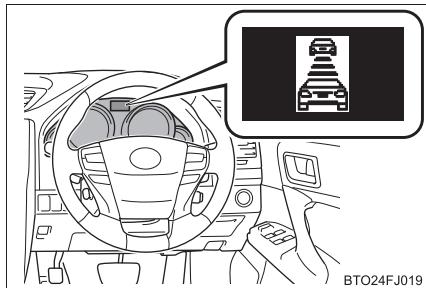
2 制御を復帰させるには、レバーを上げる

ただし、車速が約 40 km/h 以下のときは復帰しません。

2

運転するとき

接近警報（車間制御モード）



追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

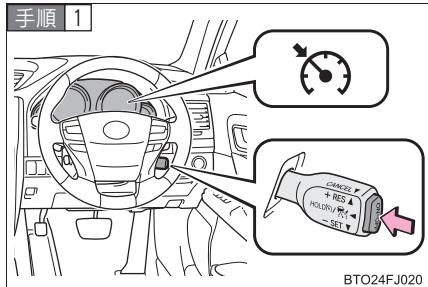
■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

定速制御モードでの走行

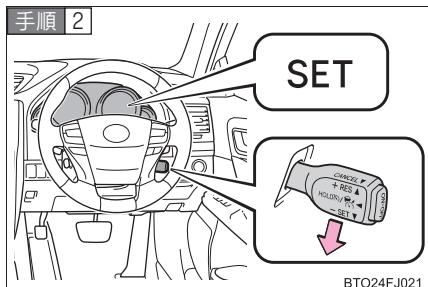
定速制御モードでは、先行車の車速変化にあわせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーセンサーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。



クルーズコントロールが OFF の状態で、ON-OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続ける

ON-OFF スイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切り替えが可能です。



希望の車速（約 40 km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げる速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる

→P. 227

制御を解除する・復帰させる

→P. 229

知識

■設定条件について

- シフトレバーが D または S の 4 レンジ以上のとき設定できます。
- パドルシフトスイッチで 4 レンジ以上を選択したとき設定できます。
(パドルシフトスイッチ装着車)
- 車速は約 50 km/h 以上のとき設定できます。

■速度設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- 車速が約 40 km/h 以下になったとき
- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき
- 走行モードをスノーモードにセットしたとき
- センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき
- ブリクラッシュブレーキが作動したとき

その他の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

- 設定速度より車速が約 16 km/h 以上低下したとき
- 車速が約 40 km/h 未満になったとき
- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき
- プリクラッシュブレーキが作動したとき

その他の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。(→ P. 373)

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

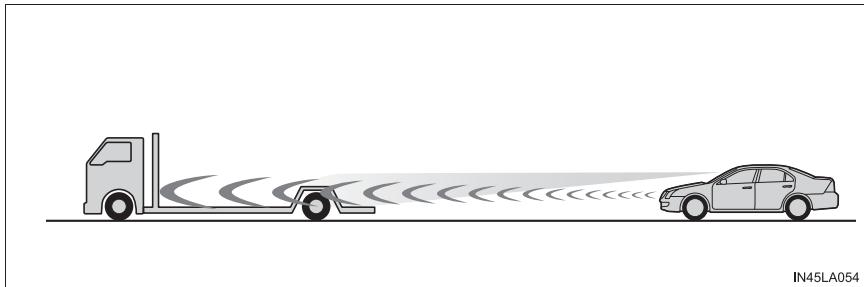
次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報(→ P. 230)も作動しないおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき

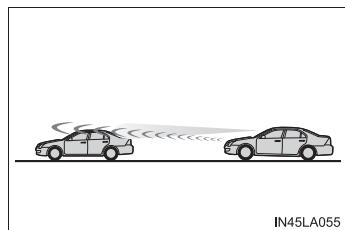
2-4. その他の走行装置の使い方

- 先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）

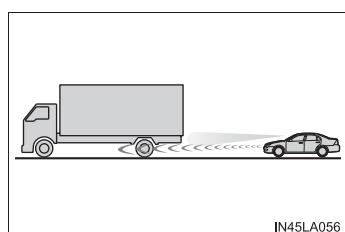


- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの検知のさまたげになる場合



- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）

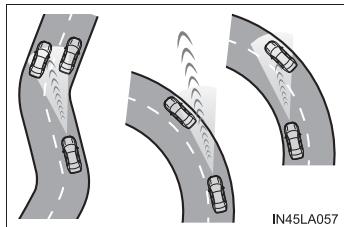


- 先行車の車高が極端に高いとき

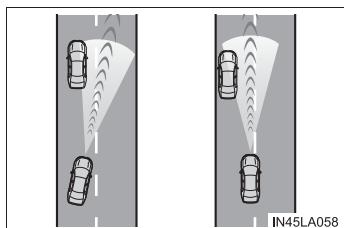
■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。



- カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



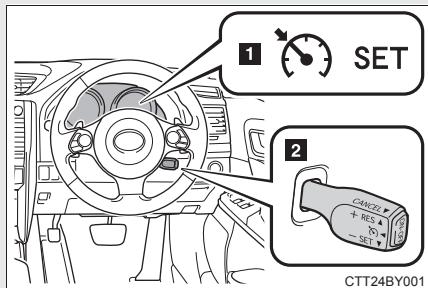
- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合

- 先行車が急ブレーキをかけた場合

2-4. その他の走行装置の使い方

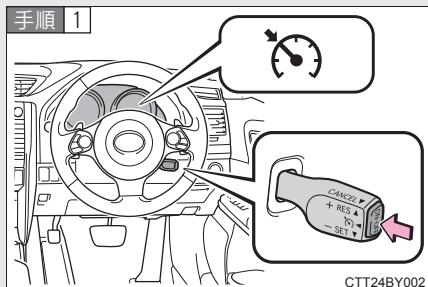
クルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。



- ① クルーズコントロール表示灯
- ② クルーズコントロールスイッチ

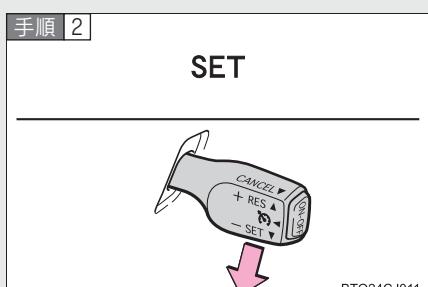
■ 速度を設定する



ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFF にするには、再度スイッチを押します。



希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げる速度を設定する

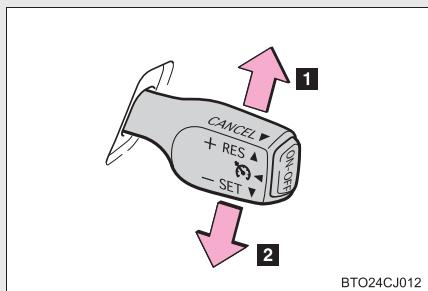
メーター内のクルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの速度で定速走行できます。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。



1 速度を上げる

2 速度を落とす

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

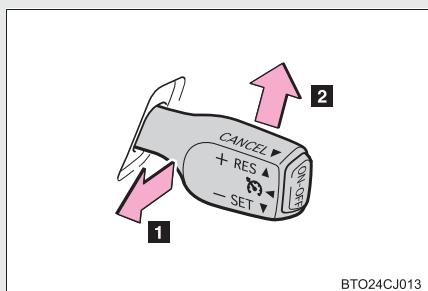
調整：希望の車速になるまでレバーを保持する

設定速度は、次のとおりに増減されます。

微調整：レバー操作するごとに約 1 km/h

調整：レバーを保持する間

■ 定速走行を解除する・復帰させる



1 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約 40 km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

知識

■設定条件について

- シフトレバーが D または S の 4 レンジ以上のとき設定できます。
- パドルシフトスイッチで 4 レンジ以上を選択したとき設定できます。
- 車速は約 40 ~ 約 100 km/h の範囲で設定できます。

■車速設定後の加速について

- 通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。
- クルーズコントロールを解除しなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げるにより設定車速を変更することができます。

■定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- 実際の速度が約 40 km/h 以下になった
- VSC が作動した
- TRC が一定時間作動した
- TRC または VSC を OFF にした

■定速走行中にクルーズコントロール表示灯が消灯し、警告メッセージが表示されたときは

ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■ 誤操作を防ぐために

クルーズコントロールを使用しないときはON-OFFスイッチでシステムをOFFにしてください。

■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。

車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

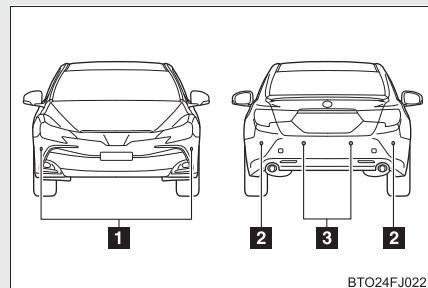
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- 車両けん引時

2-4. その他の走行装置の使い方

クリアランスソナー*

クリアランスソナーは、車両と障害物とのおおよその距離を超音波センサーによって感知して、メーター内の表示とブザー音で運転者にお知らせします。

■ センサーの種類

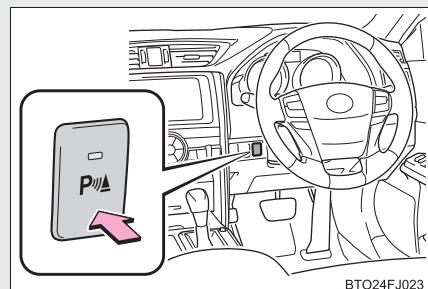


① フロントコーナーセンサー

② リヤコーナーセンサー

③ バックセンサー

■ クリアランスソナースイッチ



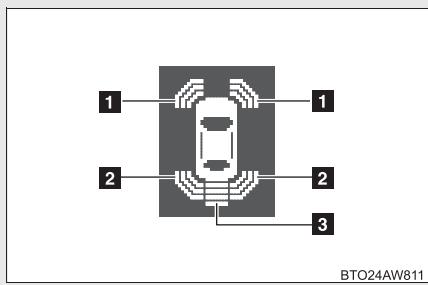
ON / OFF

スイッチを押すとクリアランスソナーはONになり、インジケーターが点灯します。

OFFにするには再びスイッチを押します。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ マルチインフォメーションディスプレイの表示



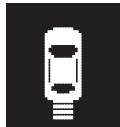
- ① フロントコーナーセンサー作動表示
- ② リヤコーナーセンサー作動表示
- ③ バックセンサー作動表示

距離表示の見方

■ コーナーセンサー

障害物までのおおよその距離	マルチインフォメーションディスプレイ表示
フロント 約 50 ~ 40 cm リヤ 約 60 ~ 45 cm	 (点灯)
フロント 約 40 ~ 30 cm リヤ 約 45 ~ 30 cm	 (点灯)
約 30 cm 以下	 (点滅)

■ バックセンサー

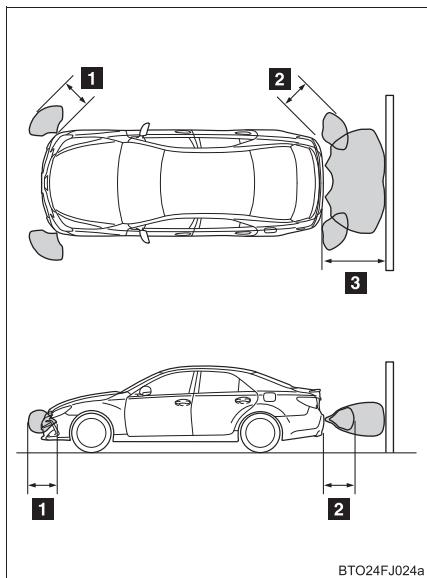
障害物までのおおよその距離	マルチインフォメーションディスプレイ表示
約 150 ~ 60 cm	 (点灯)
約 60 ~ 45 cm	 (点灯)
約 45 ~ 35 cm	 (点灯)
約 35 cm 以下	 (点滅)

音声案内とブザー音

障害物を感知すると、ブザーが鳴ります。

- 障害物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が次のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
 - ・ フロントコーナーセンサーが感知した障害物との距離が 30 cm 以下
 - ・ リヤコーナーセンサーが感知した障害物との距離が 30 cm 以下
 - ・ バックセンサーが感知した障害物との距離が 35 cm 以下
- 複数のセンサーが同時に障害物を感知しているときは、もっとも近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
ただし、感知した障害物のどちらかが上記の距離より近付くと、ブザーは断続音「ピピピピピ」から連続音「ピー」をくり返します。また、両方が上記の距離より近付くと、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」をくり返します。
- ブザーの音量と鳴るタイミングは、変更することができます。
(→P. 443)

障害物を感知する範囲



①約 50 cm (約 0.5 m)

②約 60 cm (約 0.6 m)

③約 150 cm (約 1.5 m)

感知できる範囲は左図のとおりです。
ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると感知できません。

障害物の形状・条件によっては感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。

知識

■作動条件

●フロントコーナーセンサー：

- ・ “エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき
- ・ シフトレバーがP以外にあるとき
- ・ 車両の速度が約10km/h以下のとき

●リヤコーナーセンサー・バックセンサー：

- ・ “エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき
- ・ シフトレバーがRにあるとき

■クリアランスソナーに異常があるときは

マルチインフォメーションディスプレイに異常を知らせる画面が表示されます。(→P. 373)

■センサーについて

次のときクリアランスソナーが正常に作動しないことがあります、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- センサーに氷、雪、泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（とければ、正常に復帰します）
- 特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。
- センサーを手などで覆ったとき
- 炎天下や寒冷時
- 凸凹道、坂道、砂利道、草むら走行時など
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 市販のフェンダーポール、無線機アンテナを車に付けたとき
- けん引フックを取り付けたとき
- 標識などの物体によっては感知距離が短くなります
- バンパー真下付近は感知しません
- センサーより低い物体や細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
- ソナーに障害物が近付きすぎたとき
- バンパーやセンサー部付近に物をぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

障害物の形状・条件によっては感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

■正確に感知できないことがある障害物

次のような物は感知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金、フェンス、ロープなどの細いもの
- 綿、雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的なもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

■販売店で設定可能な機能

ブザー音量やバックソナーの検知開始距離などの設定を変更できます。

(カスタマイズ機能一覧 →P. 443)



警告

■クリアランスソナーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車両の速度が 10 km/h をこえないようにしてください
- センサーの感知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）センサー感知範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください
- センサーが感知する範囲にはアクセサリー用品などを取り付けないでください



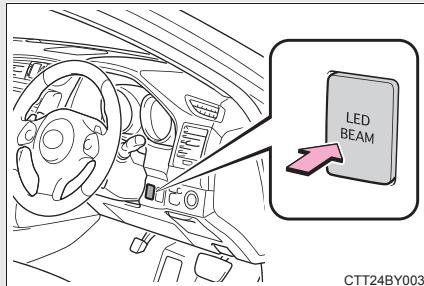
注意

■洗車時の注意

高压洗車機を使用して洗車するときは、ソナー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

2-4. その他の走行装置の使い方

LED イルミネーションビーム*



ON / OFF

ON になるとフロントバンパーの
LED イルミネーションビームが
点灯します。

□ 知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションON モードのとき

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でLED イルミネーションビームを長時間点灯しないで
ください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS (アンチロックブレーキシステム)

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC (ビーグルスタビリティコントロール)

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ TRC (トラクションコントロール)

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ EPS (エレクトリックパワーステアリング)

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ PCS (プリクラッシュセーフティシステム) *

→P. 197

■ VDIM (ビーグルダイナミクスインテグレイテッドマネジメント) *

ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・EPS を総合的に制御します。

すべりやすい路面の走行などで急な運転操作をした際に、ブレーキ・エンジン出力を制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

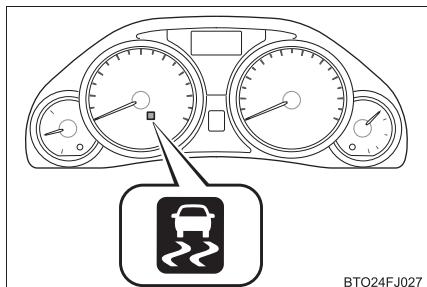
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ AVS(アダプティブルサスペンションシステム) *

路面の状態や走行状況にあわせてショックアブソーバーの減衰力を4輪独立に制御するシステムです。走行モード制御スイッチ(→P. 151)の選択モードに従い、なめらかな乗り心地と優れた安定感の確保に貢献し、車両の姿勢維持に寄与します。

スポーツモードを選択すると、ノーマルモードに比べて硬めの減衰力に切りかわります。カーブの多い山道や高速で走行するときに適しています。

■ TRC・VSC が作動しているとき

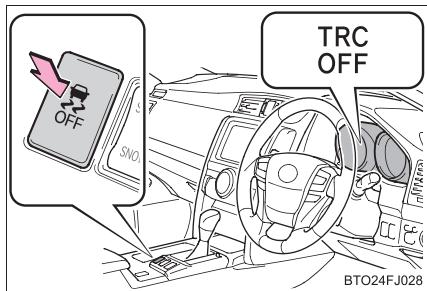


TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。



TRC を停止するには  を押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

知識

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に  を押し 3 秒以上保持する。

TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。※

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。(→ P. 249)

■ VSC OFF スイッチを押さなくても TRC OFF 表示灯が点灯したとき

TRC が作動できない状態になっています。トヨタ販売店にご相談ください。

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

●エンジンスイッチを“LOCK”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）、または“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にしたとき

●(TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき

ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがあります、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがあります
が、異常ではありません。
 - ・車体やハンドルに振動を感じる
 - ・車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥にはいる

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ ウィーン ” という音）が聞こえることがあります、異常ではありません。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーを P または N の位置にした
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

■ EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

⚠ 警告

次の状況では、事故が起き、その結果重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だらみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 437）異なるタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC・4WD *など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

2-5. 様々な状況での運転 荷物を積むときの注意

2

運転するとき

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

- できるだけ荷物はトランクに積む
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする

⚠ 警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むときは

次の警告をお守りください。お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はトランクに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。

お守りいただかない、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ・ 運転席足元
- ・ 助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
- ・ パッケージトレイ
- ・ インストルメントパネル
- ・ ダッシュボード
- ・ フタのない小物入れ／トレイ

▲ 警告

■荷物を積むときは

- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで荷物を積むときは、荷物を積み重ねないでください。急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- トランクに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員には適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいたうえで適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウオッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4輪）やタイヤチェーン※（後部タイヤ用）を使用してください。
- タイヤは4輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーン※はタイヤサイズに合ったものを用意してください。
(タイヤについて：→P. 437)

*19インチタイヤ装着車を除く

■ 運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷がついているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底についた雪をよく落としてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

■ 駐車するときは

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、必ず輪止め^{*1}をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーを P に入れた状態でシフトレバーが動かないこと^{*2}を確認してください。

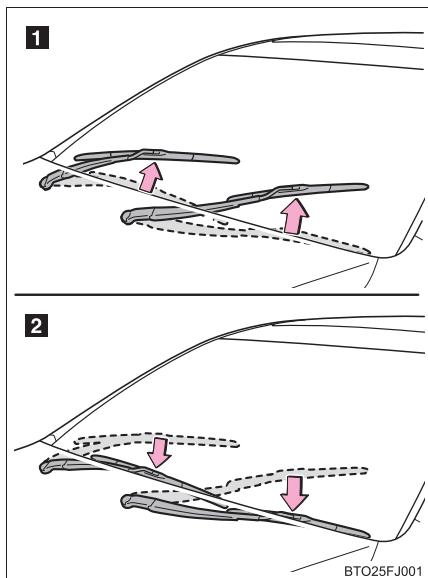
^{*1} 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

^{*2} ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。
シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ワイパー停止位置の切りかえ（寒冷地仕様車）

積雪や凍結のおそれがある場合は、あらかじめフード下に格納されているワイパーを積雪時の停止位置に切りかえておきます。

ワイパー・アームのフック部をしっかり持ってワイパーの停止位置の切りかえを行ってください。



1 積雪時の停止位置にする

ガラス面にそって引き上げます。

2 通常の停止位置にもどす

フック上部を手で押します。

ワイパーを立てるときは、積雪時の停止位置に切りかえてから立ててください。

知識

■タイヤチェーンについて

19 インチタイヤ装着車を除く

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 後2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱書に従う
- 取り付け後0.5～1.0km走行したら締めなおしを行う

19 インチタイヤ装着車

タイヤとボディの隙間が狭いため、この車にはタイヤチェーンを装着できません。

■寒冷地用ワイパープレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパープレードは雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆っています。トヨタ販売店で各車指定のプレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパープレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

⚠ 警告

■ 冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず4輪とも装着する

■ タイヤチェーン装着時の警告 (19インチタイヤ装着車を除く)

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは30 km/h のどちらか低いほうをこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ
- LDA (レーンディパーチャーアラート) *を使用しない

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 **注意**

■ **タイヤチェーンの使用について (19インチタイヤ装着車を除く)**

- 必ずマーク X 指定のトヨタ純正品を使用してください。
上記のチェーン以外のタイヤチェーンを使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- アルミホイール*にタイヤチェーンを取り付けるとホイールに傷が付くことがあります。

■ **フロントウインドウガラスについた氷を除去するときは**

- たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

室内装備の使い方

3-1. エアコン・

デフォッガーの使い方

オートエアコン	266
リヤウインドウ	
デフォッガー	
(曇り取り)	276
フロントウインドシールド	
デアイサー	278

3-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	279
・フロント	
パーソナルランプ	280
・ルームランプ	280

3-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧	282
・グローブボックス	283
・コンソールボックス	284
・ボトルホルダー	286
・カップホルダー	287
・小物入れ	288
・フロントドアポケット	290

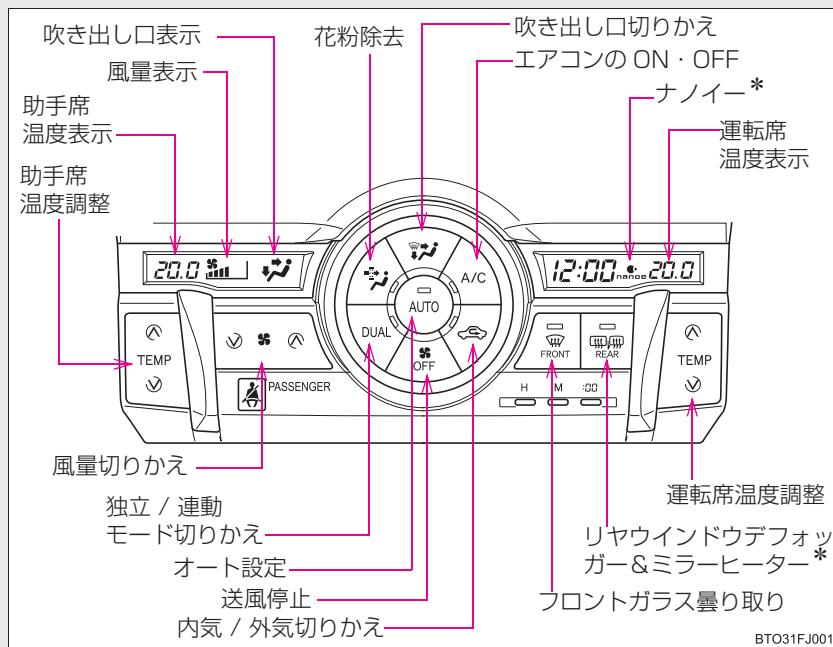
3-4. その他の室内装備の 使い方

サンバイザー	291
バニティミラー	292
時計	293
アクセサリーソケット	294
シートヒーター	295
リヤセンター	
アームレスト	297
フロアマット	298
トランク内装備	300
アシストグリップ	
(回転式)	301
ステアリングスイッチ	302

3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

オートエアコン

設定温度にあわせて吹き出し口と風量を自動で調整します。



オート設定を使うとき

■ 連動モード

運転席と助手席の設定温度を同じにします。(助手席の設定温度が運転席と同じになります)

手順 1  を押す

エアコンが作動し吹き出し口と風量を自動で調整します。

連動モード時は  の作動表示灯が消灯します。

手順 2 設定温度を上げるときは運転席の  を押す のへを、下げるときは  を押す

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

■ 独立モード

運転席と助手席の設定温度を独立してかえることができます。

手順 1  を押す

エアコンが作動し、吹き出し口と風量を自動で調整します。

手順 2  を押す（作動表示灯が点灯）または、助手席の  を押す

手順 3 運転席側は  、助手席側は  を押し、温度を調整する

再び  を押すと、作動表示灯が消灯し連動モードになります。

独立モード時、後席の吹き出し温度は、助手席側に連動しています。

お好みの設定で使うとき

■ エアコンの ON・OFF を切りかえるには

 を押す

スイッチを押すたびにエアコンの ON・OFF が切りかわります。

■ 設定温度をかえるには

運転席側は  、助手席側は  を押し、温度を調整する

連動モード使用時、助手席側の  を押すと独立モードに切りかわります。

■ 風量をかえるには

風量切りかえスイッチの  (増) か  (減) を押す

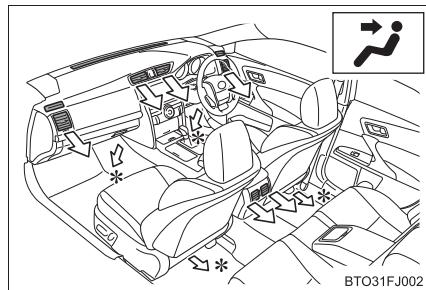
風量は7段階に調整できます。

送風を止めるときは  を押す

■ 吹き出し口を切りかえるには

 を押す

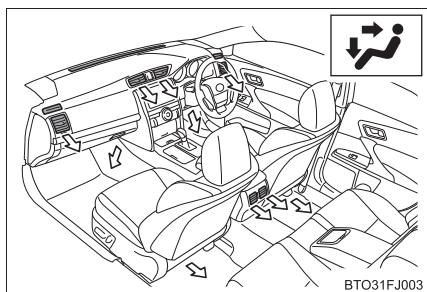
押すたびに吹き出し口が切りかわります。



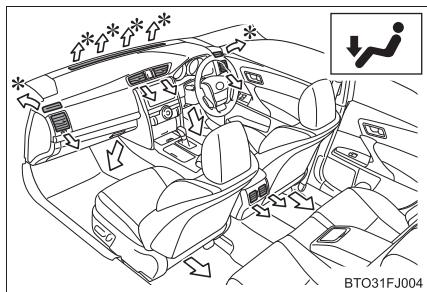
上半身に送風

* 冷房時に、AUTO スイッチを ON にすると送風されることがあります。

上半身と足元に送風



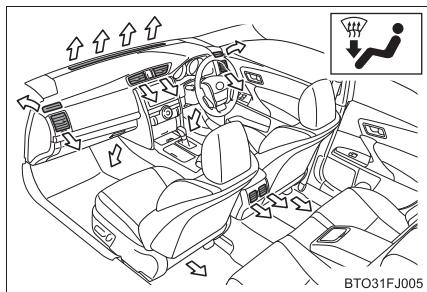
足元に送風



* 室内温度などの条件によっては、送風される場合があります。

また、AUTO スイッチが ON のとき、送風されます。

足元に送風・ガラスの曇りを取る



■ 外気導入・内気循環を切りかえるには



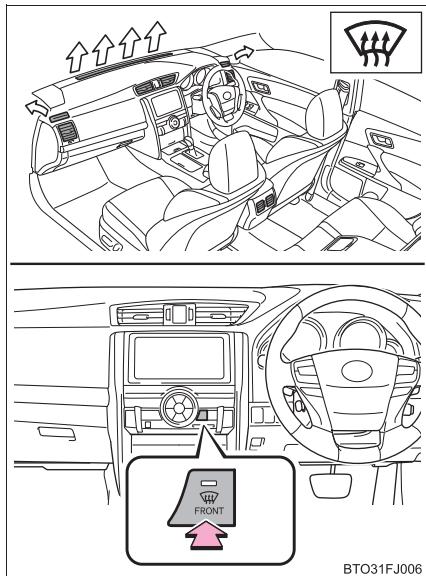
を押す

スイッチを押すたびに、外気導入・内気循環が切りかわります。



の作動表示灯が点灯します。

フロントウインドウガラスの曇りを取るには



を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。
内気循環にしている場合は、外気導入
にしてください。(自動的に切りかわ
る場合もあります)

風量を強くし、設定温度を上げると、
より早く曇りを取ることができます。



を

曇りが取れたら再度

押すと前のモードにもどります。

花粉除去機能を使うには



を押す

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。通常約3分後に（外

気温が低いときは 約1分後に）  を押す前のモードにもどります。

途中で動作を止めるときは再度  を押すと前のモードにもどります。

「ナノイー」*を使うには



か



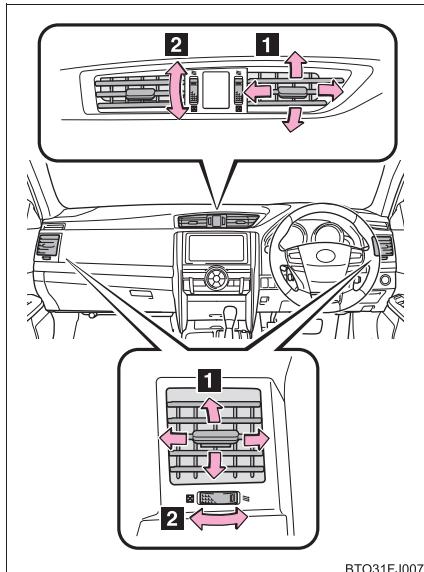
を押してファンを作動させる

ファンが作動すると自動的に「ナノイー」が作動し、表示部に「nanoe」が表示されます。

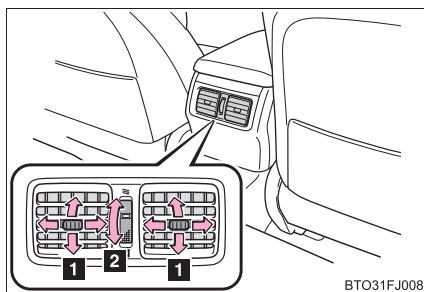
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

風向きの調整と吹き出し口の開閉

フロント吹き出し口（中央吹き出し口／左右吹き出し口）



リヤ吹き出し口



□ 知識

■ エコドライブモードのエアコン作動について

エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

- エンジン回転数やコンプレッサーの作動を抑制し、暖房／冷房の能力を抑制します。
- オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

空調の効きをより良くしたいときは、次の操作を行ってください。

- 風量を調整する。
- エコドライブモードを解除する。

■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されます。次のような制御をする場合があります。

-  を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する
- 暖房時、冷風を上半身に向けて送る

■ 内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 内外気切り替えについて

設定温度や室内温度により、自動的に内気循環または外気導入へ切り替わる場合があります。

■ 外気導入・内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切りかわる場合があります。

■ 外気温度が0°C以下のとき



を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■花粉除去モードについて

- 外気温が低いときは、フロントガラスの曇りを防止するために次のような制御をする場合があります。
 - ・ 内気循環に切りかわらない
 - ・ エアコンの電源が自動的にに入る
 - ・ 1分後作動が停止する

- 雨天時は窓が曇るため、 を押してください。

- 湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。
- 花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■「ナノイー」※¹について（「ナノイー」装着車）

エアコンには「ナノイー」技術が搭載されています。この技術は中央吹き出し口（右側）を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気で満たします※²。

- ファンが作動すると、自動的に「ナノイー」が作動します。
- 「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

- ・ 吹き出し口が  、  または  のとき
- ・ 中央吹き出し口（右側）の吹き出し口が開いているとき

- 「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがあります。森林など自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

- 作動中、かすかに作動音が聞こえることがあります。故障ではありません。

※¹ 「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※² 車室内の環境（温度・湿度）・風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■水加熱ヒーターシステムについて（寒冷地仕様車）

エンジン冷寒時の暖房効果を高めます。

エコドライブモード OFF (→P. 151) で最大暖房時に、コンピューターが急速暖房を必要と判断した場合、自動的に水加熱ヒーターシステムが作動します。エンジンが暖まると自動的に作動が停止します。

■換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

⚠ 警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは



を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り視界をさまたげる場合があります。

■「ナノイー」について（「ナノイー」装着車）

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はエアコンを使用しないでください。

■「ナノイー」の損傷を防ぐために（「ナノイー」装着車）

中央吹き出し口（右側）の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かないおそれがあります。

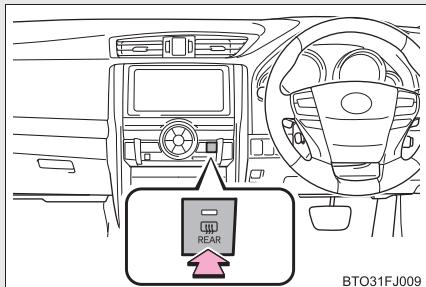
3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）

リヤウインドウの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取る^{*}ときにお使いください。

^{*} ミラーヒーター装着車のみ

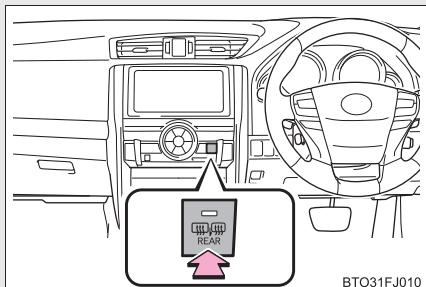
ミラーヒーター非装着車



ON / OFF を切りかえる

リヤウインドウデフォッガーは、約 15 分で自動的に OFF になります。ただし、外気温や車速などの条件により最大約 60 分間作動することがあります。

ミラーヒーター装着車



ON / OFF を切りかえる

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、約 15 分で自動的に OFF になります。ただし、外気温や車速などの条件により最大約 60 分間作動することがあります。

□ 知識

■ 作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき

■ ミラーヒーターについて（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォッガーをONになると、ミラーヒーターも同時に作動します。

▲ 警告

■ ミラーヒーター作動中の警告（ミラーヒーター装着車）

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

△ 注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

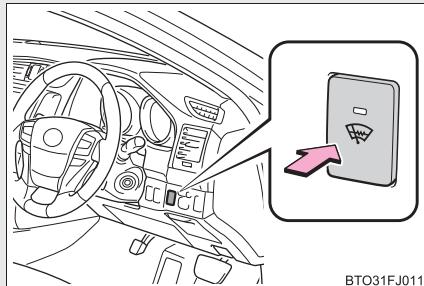
連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

フロントウインドシールドデアイサー*

フロントガラスとワイパークリアードの凍結を防ぐためにお使いください。

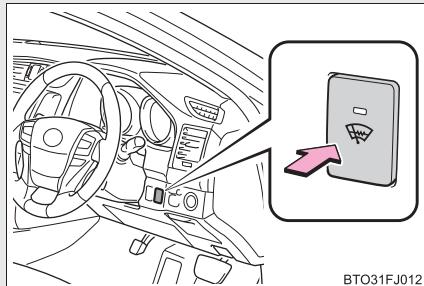
スマートエントリー＆スタートシステム非装着車



ON / OFF を切りかえる

フロントウインドシールドデアイサーは、約 15 分で自動的に OFF になります。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車



ON / OFF を切りかえる

フロントウインドシールドデアイサーは、約 15 分で自動的に OFF になります。



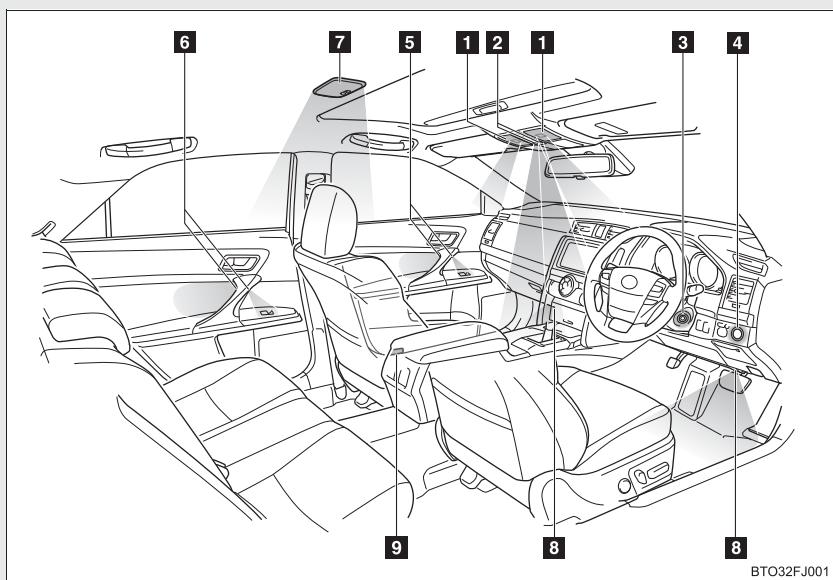
警告

■ 作動中の警告

フロントウインドウガラス下部、およびフロントピラー横の表面が熱くなっています。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

室内灯一覧



① フロントパーソナルランプ (→P. 280)

② インパネ・シフト照明

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”的とき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのとき

③ エンジンスイッチ照明

(スマートエントリー&スタートシステム非装着車)

④ “エンジンスタートストップ”スイッチ照明

(スマートエントリー&スタートシステム装着車)

⑤ フロントドアトリム照明*

⑥ リヤドアトリム照明*

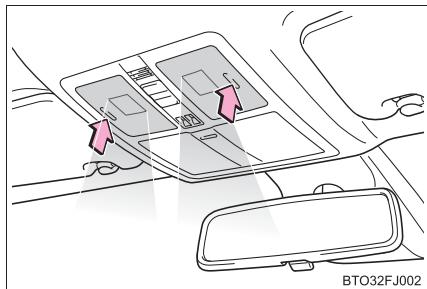
⑦ ルームランプ (→P. 280)

⑧ フロント足元照明*

⑨ ドアカーテシランプ*

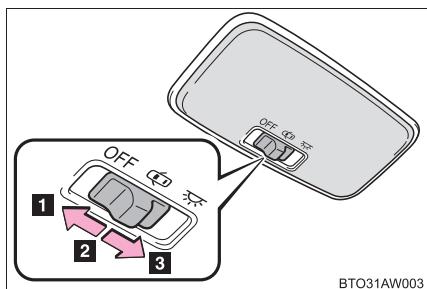
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

フロントパーソナルランプ



ランプを点灯・消灯する

ルームランプ



①ランプを消灯する

②ドアの開閉作動に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる
(ドアポジション)

③ランプを点灯する

□ 知識

■ イルミネーテッドエントリーシステム

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

ドアの解錠／施錠・ドアの開閉・エンジンスイッチの位置により、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

電子キーの検知・ドアの解錠／施錠・ドアの開閉・“エンジンスタートストップ”スイッチの状態により、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間点灯しないでください。

フロントパーソナルランプ・ルームランプ

■自動消灯機能

半ドア状態でルームランプスイッチがドアポジションのときに、次の照明が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

- フロント足元照明*
- エンジン スイッチ照明*
- “エンジン スタート ストップ” スイッチ照明*
- インパネ・シフト照明
- ルームランプ
- フロントドアトリム照明*
- リヤドアトリム照明*

■販売店で設定可能な機能

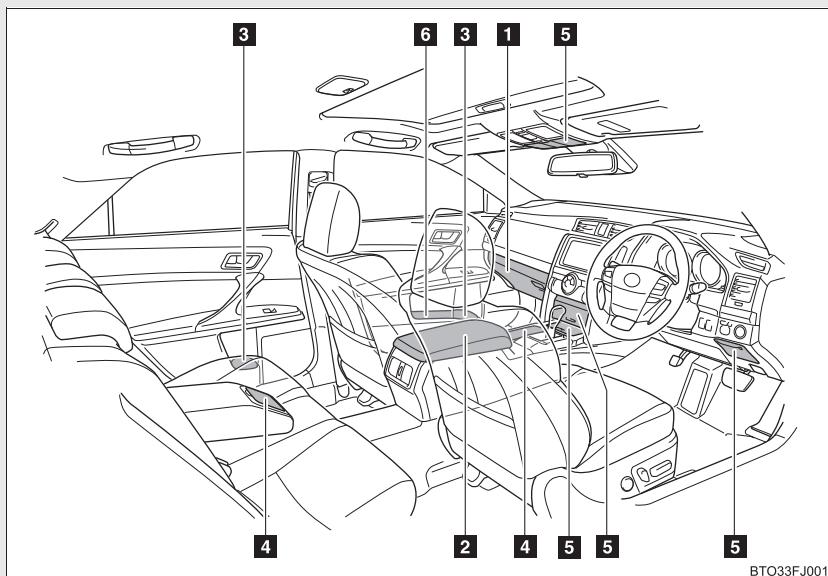
キャンセルや室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。

(カスタマイズ機能一覧 →P. 443)

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

3-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧



① グローブボックス

② コンソールボックス

③ ボトルホルダー

④ カップホルダー

⑤ 小物入れ

⑥ フロントドアポケット

⚠ 警告

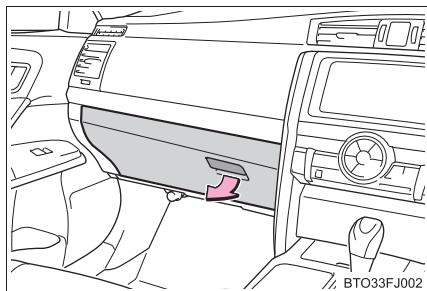
■ 収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

グローブボックス



グローブボックスを開けるには、レバーを引き上げる

□ 知識

■ グローブボックスランプについて

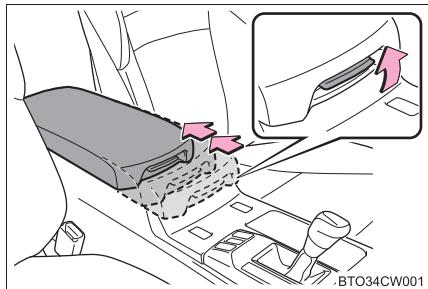
車幅灯が点灯しているときにグローブボックスを開くとランプが点灯します。

⚠ 警告

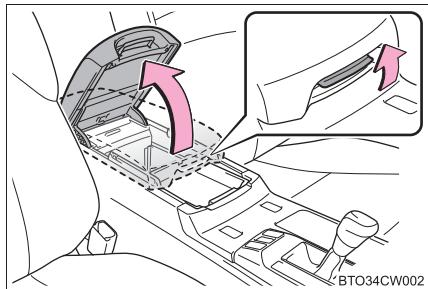
■ 走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキ時や急旋回時などに、開いたグローブボックスが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながり、けがをするおそれがあり危険です。

コンソールボックス**■スライドさせる**

ノブを持ち上げてロック解除し、アームレストをスライドする

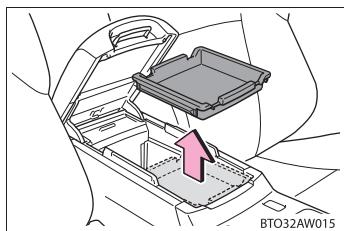
■開ける

ノブを持ち上げてロック解除し、アームレストをいちばんうしろまでスライドして開く

コンソールボックス

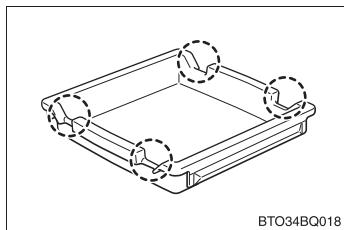
□ 知識

■ コンソールボックス内のトレイについて



中のトレイをはずすことができます。

■ コンソールボックス内のトレイ前後の切り欠きについて



アクセサリーソケットに接続した機器をコンソールボックス内トレイに置いたまま使用する際は、機器の配線を切り欠きに通します。

コンソールボックスのフタを閉めても機器の配線がつぶれずに使用できます。

使用する機器や配線の太さによっては、配線がつぶれてしまうものもあります。

! 警告

■ 走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたコンソールボックスが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

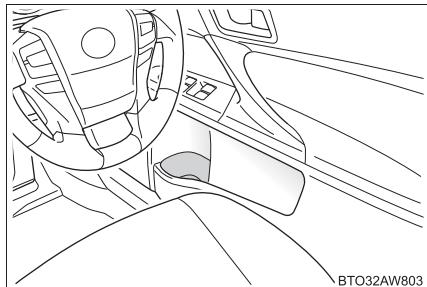
! 注意

■ コンソールボックス内のトレイについて

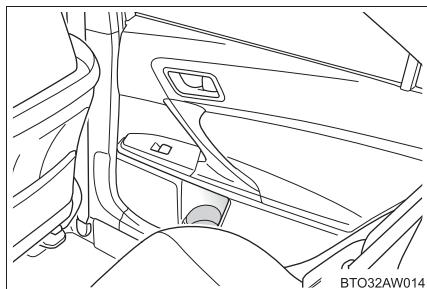
トレイの高さ以上にものを入れないでください。フタの開閉のさまたげになるおそれがあります。

ボトルホルダー

フロント



リヤ



□ 知識

■ ボトルホルダーについて

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

⚠ 注意

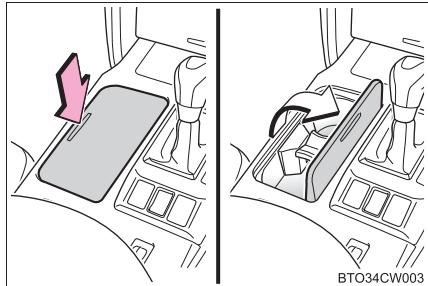
■ 収納してはいけない物

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

カップホルダー

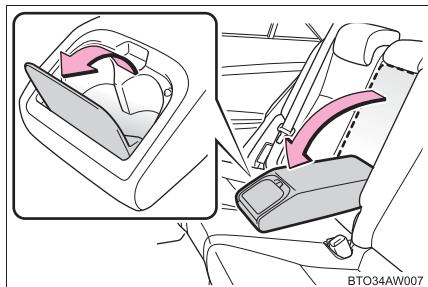
カップホルダー

フロント



フタを押して開ける

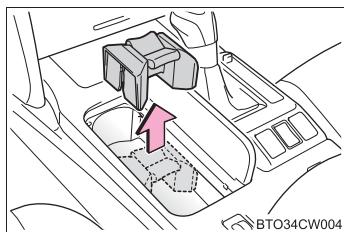
リヤ



リヤセンターームレストを手前に倒して、フタを上げて開ける

□ 知識

■ フロントカップホルダーの仕切りについて



仕切りをはずし、小物入れとして使用できます。

⚠ 警告

■ 収納してはいけない物

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。

急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

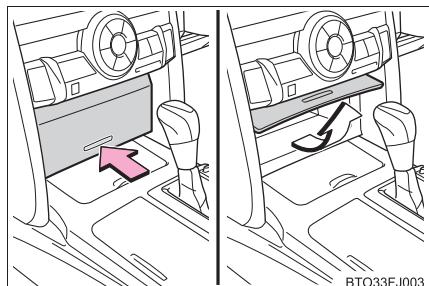
■ 使わないときは

フタを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたカップホルダーが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

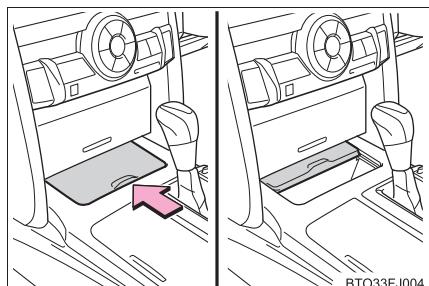
小物入れ

小物入れ



フタを押して開ける

アクセサリーボックス

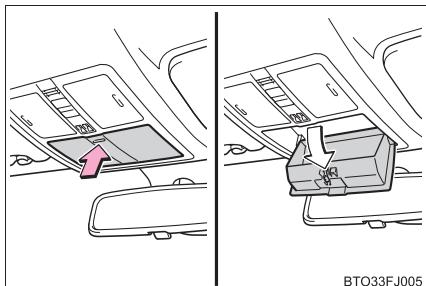


フタを押して開ける

ロックするまでフタをスライドさせます。

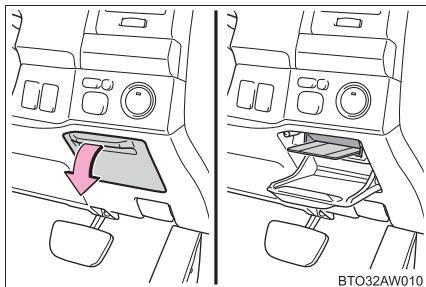
フタを閉じるにはフタをもう一度前方に押すと閉じることができます。

オーバーヘッドコンソール



フタを押して開ける

運転席小物入れ



フタを引いて開ける

上部にカードを収納することができます。



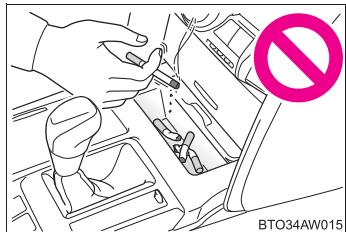
警告

■走行中の警告

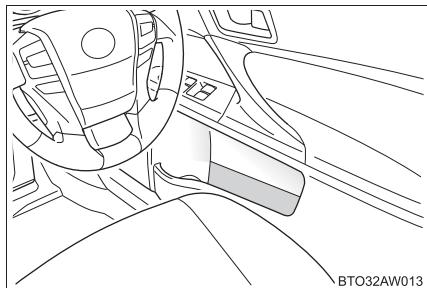
小物入れを開けたままにしないでください。急ブレーキ時などに、開いた小物入れが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■収納してはいけないもの（オーバーヘッドコンソールのみ）

200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れると、オーバーヘッドコンソールが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

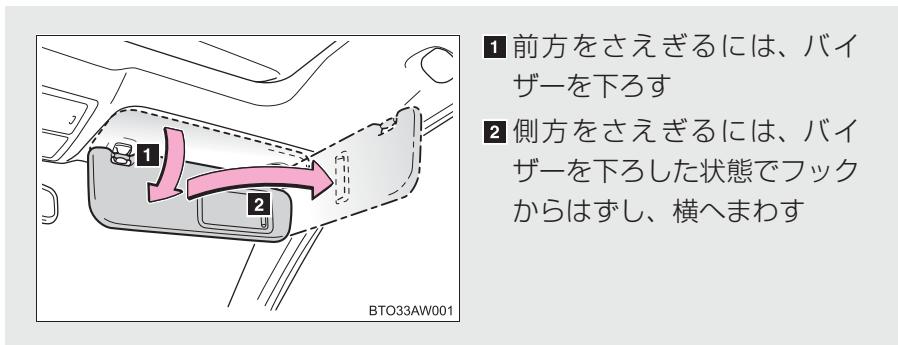
⚠ 警告**■ アクセサリーボックスについて**

アクセサリーボックスは灰皿ではありません。マッチ・タバコの吸いがらなどを入れないでください。

フロントドアポケット

3-4. その他の室内装備の使い方

サンバイザー

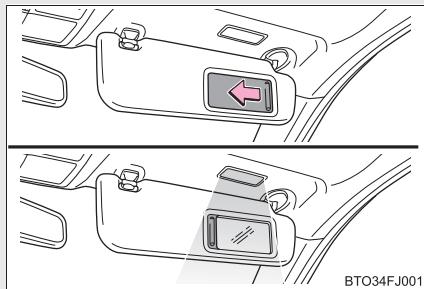


① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

3-4. その他の室内装備の使い方

バニティミラー



カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとランプが点灯します。

図では運転席側で説明していますが、グレードなどにより助手席側のみ設定の車種もあります。

⚠ 注意

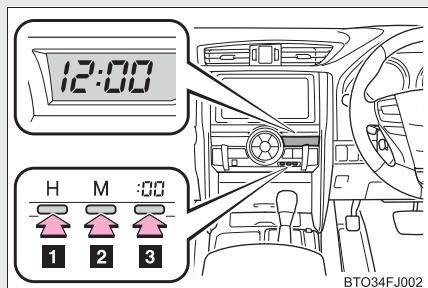
■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

3-4. その他の室内装備の使い方

時計

ボタンを押して時刻を調整することができます。



1 “時”を調整する

2 “分”を調整する

3 “分”を00にする※

※(例) 1:00～1:29→1:00

1:30～1:59→2:00

知識

■時刻が表示されるとき

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”的とき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッションONモードのとき

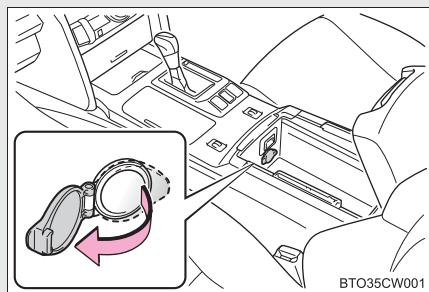
■バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

3-4. その他の室内装備の使い方

アクセサリーソケット

DC12V/10A (消費電力 120W) 未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。



フタを手前に引いて開ける

□ 知識

■ 使用条件

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”的とき

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッションONモードのとき

⚠ 注意

■ ショートや故障を防ぐために

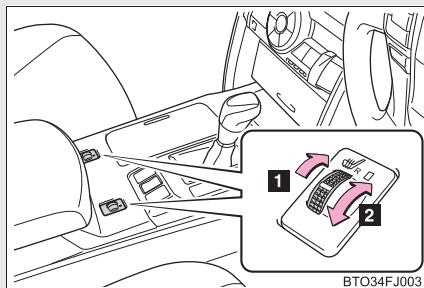
挿し込み口に異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でアクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

3-4. その他の室内装備の使い方

シートヒーター*



1 ON

シートヒーターが ON のときは、インジケーターが点灯します。

2 温度を調整する

ダイヤルを上にまわすほど高温になります。

知識

■作動条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき

■使用しないときは

ダイヤルをいっぱいまで下にまわしてください。インジケーターが消灯します。

警告

■やけどについて

●低温やけどを負うおそれがあるため、次の方は特に注意してください。

- ・乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- ・皮膚の弱い方
- ・疲労の激しい方
- ・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

●シートに毛布・クッションなどを使用しないでください。

シートヒーターの使用により保温性が高まり、異常過熱の原因になります。

●シートヒーターを必要以上に使用しないでください。

低温やけどを負ったり、シートヒーターの異常過熱の原因になるおそれがあります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 **注意**

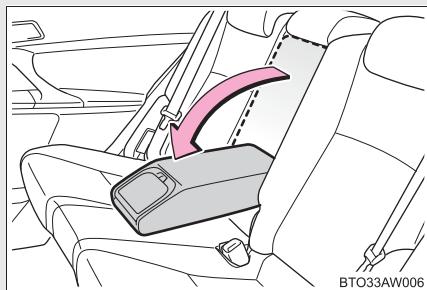
■ **シートヒーターの故障を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ **バッテリーあがりを防止するため**

エンジンが停止しているときは、シートヒーターを使用しないでください。

3-4. その他の室内装備の使い方 リヤセンターアームレスト



手前に倒して使用します。

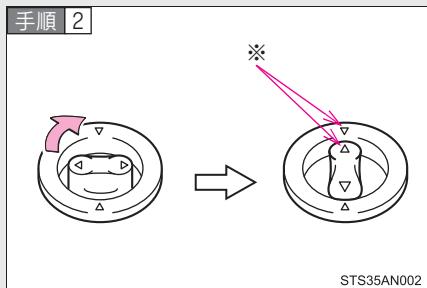
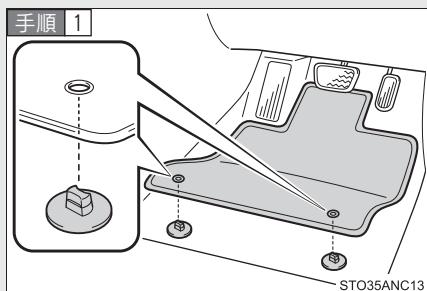
⚠ 注意

- リヤセンターアームレストの破損を防ぐために
過度の負荷をかけないでください。

3-4. その他の室内装備の使い方

フロアマット

お車（年式）専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。



固定フック (クリップ) の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

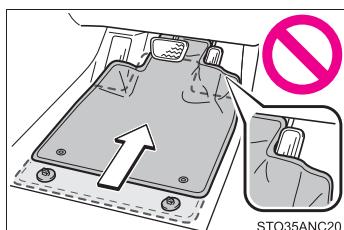
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかない場合、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 運転席にフロアマットを敷くときは

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■ 運転する前に

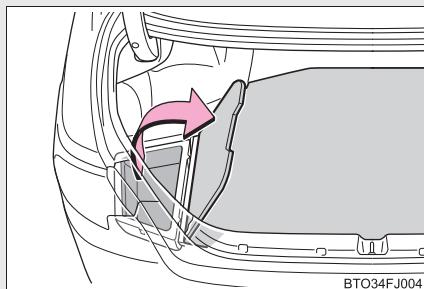


- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

3-4. その他の室内装備の使い方

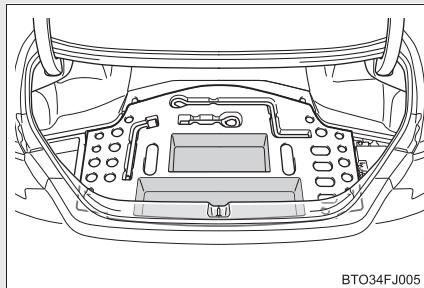
トランク内装備

■ トランク内小物入れ



トランク内左側に小物入れがあります。

■ ラゲージアンダートレイ



ラゲージマットの下にラゲージアンダートレイがあり、停止表示板※などを収納することができます。

※ 停止表示板は、トヨタ販売店で購入することができます。

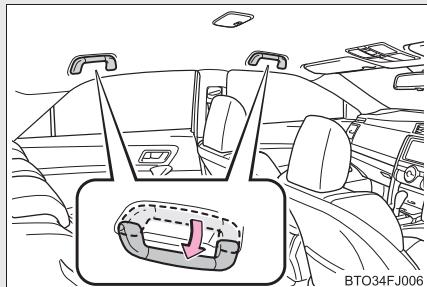
□ 知識

■ ラゲージアンダートレイについて

停止表示板を収納する場合、停止表示板のケースの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

3-4. その他の室内装備の使い方 アシストグリップ（回転式）

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



3

室内装備の使い方

⚠ 警告

■アシストグリップについて

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

⚠ 注意

■破損を防ぐために

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

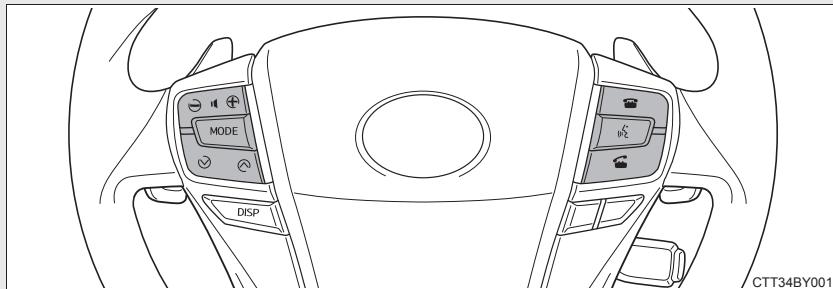
3-4. その他の室内装備の使い方

ステアリングスイッチ

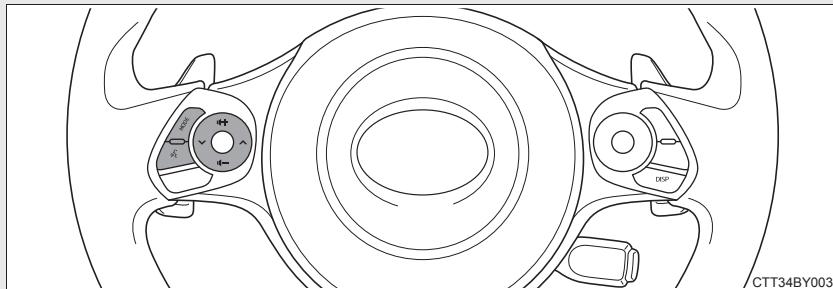
ハンドルのスイッチでオーディオ・ナビゲーションシステムを操作することができます。

装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の各取扱説明書をご覧ください。

“GR SPORT” を除く



“GR SPORT”



警告

■ 事故を防ぐために

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	304
内装の手入れ.....	308
タイヤについて.....	312
タイヤ空気圧について.....	316

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	318
ガレージジャッキ	321
エンジンルームカバー	324
電球（バルブ）の交換	326
ヒューズの点検、交換	336
キーの電池交換	344
ウォッシャー液の補給	348
エアコンフィルターの 交換	350

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックス掛けを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなどトヨタケミカル商品を施行された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

□ 知識

■セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から5～8年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。
なお、お湯をかけて塗装を温めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。
- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- リヤスピライダー*がひっかかり、洗車できない場合や、傷付いたりするおそれがあります。
- エアコンの送風を止める、または内気循環にしてください。

■高圧洗車機を使うときは

- 車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。
- エアコンの送風を止める、または内気循環にしてください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■アルミホイール*

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次の事を必ずお守りください。
 - ・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・硬いブラシを使用しない
 - ・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキキャリパーの塗装について（“GR SPORT”）

- 洗剤を使用する場合は中性洗剤を使用してください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- ブレーキキャリパーが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーについて

中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤でこすらないようにしてください。硬いブラシは使用しないでください。強力な化学洗剤は使用しないでください。塗料に使用されているのと同様に刺激の少ない洗剤やワックスを使用してください。

⚠ 警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより熱くなりますので、エンジンがかかっているときや、停止直後などにふれないでください。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 注意

■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの落下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックス掛けを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。
- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、
コネクター類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
 - ・ 駆動系部品
 - ・ ステアリング部品
 - ・ サスペンション部品
 - ・ ブレーキ部品

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

■ 室内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぶり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぶり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を水で約5%に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぶり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

□ 知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパーUVカットガラス*について

- フロントドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- フロントドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

⚠ 警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRSエアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。(→P. 103) 電気の不具合により、エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備



注意

■清浄するとき使用する溶剤について

- 変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革にはりつくおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは（Toyota Safety Sense 装着車）

カメラセンサーのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。

また、レンズにはふれないでください。（→P. 193）

 **注意****■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは**

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■スーパーUVカットガラス*を清掃するときは

フロントドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

4-1. お手入れのしかた

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務づけられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命を延ばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）をFR車は10,000kmごとに、4WD車は5,000kmごとに行ってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

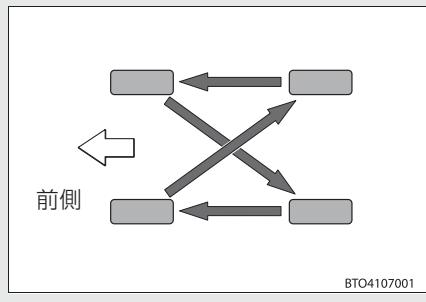
空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた



図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

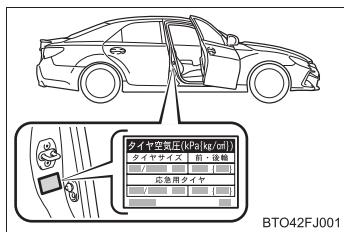
タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、トヨタは定期点検毎のタイヤローテーションを推奨します。

□ 知識

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ タイヤ空気圧の数値



タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

タイヤサイズ	空気圧 ※ [kPa(kg/cm ²)]
	前後輪
215/60R 16 95H	250 (2.5)
235/45R 18 94W	240 (2.4)
235/40R 19 92Y	240 (2.4)

応急用タイヤ* : 420 kPa (4.2 kg/cm²)[※]

* タイヤが冷えているときの空気圧

■ 低偏平タイヤについて (235/45R18 94W または 235/40R19 92Y 装着車)

雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤかタイヤチェーン*を使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようしてください。

* 235/40R19 92Y 装着車には、タイヤチェーンを装着できません。冬用タイヤを使用してください。

■ 低偏平タイヤの空気圧点検(235/45R18 94Wまたは235/40R19 92Y装着車)

低偏平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2週間に1回(最低でも1ヶ月に1回)、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

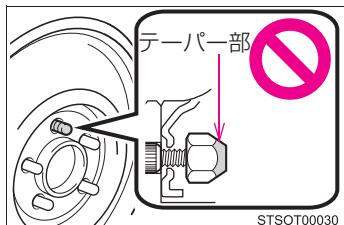
■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

⚠ 警告

■ タイヤ交換時の注意



- 必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。
テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しそれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。

ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。

またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

⚠ 注意

■ 走行中に空氣もれが起きたら

走行を続けないでください。タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 低偏平タイヤ (235/45R18 94W または 235/40R19 92Y) について

低偏平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことにご注意ください。

- 適切なタイヤ空気圧で使用する

空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。

- 段差や凹凸のある路面、路上に開いた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避けてください。タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。

タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

4-1. お手入れのしかた タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。低偏平タイヤの場合、2週間に1回、または長距離ドライブの前には必ず空気圧を点検してください。
(→P. 437)

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

⚠ 警告

■ タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

⚠ 注意

■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

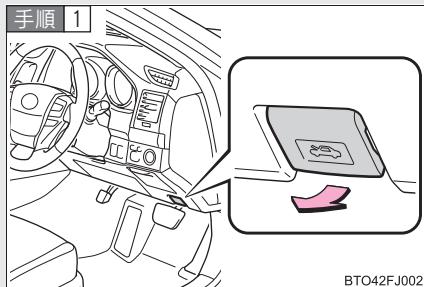
タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

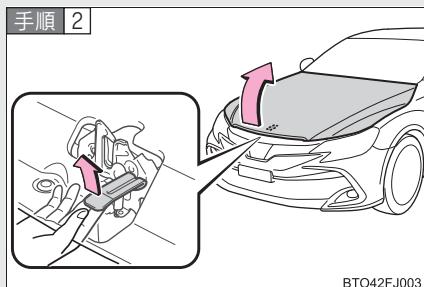
4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。



ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がりま
す。



レバーを引き上げて、ボンネット
を開ける

□ 知識

■ バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去され
ます。バッテリー端子をはずすときはトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりとロックされていることを確認してください。

ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■けがを防ぐために

●走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

●ボンネットを開ける前にエンジンスイッチを“LOCK”にしてください。作動中の部品に巻き込まれてけがなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。しばらくたってからボンネットを開けてください。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

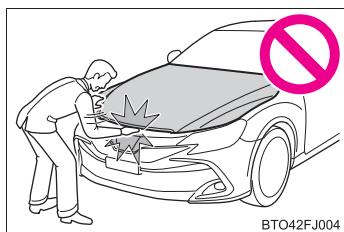
●ボンネットを開ける前に“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにしてください。作動中の部品に巻き込まれてけがなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。しばらくたってからボンネットを開けてください。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。

点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは



ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 **注意**

■ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットにはボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。
 - ・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
 - ・ロッド部を軍手などでふれない
 - ・ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
 - ・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

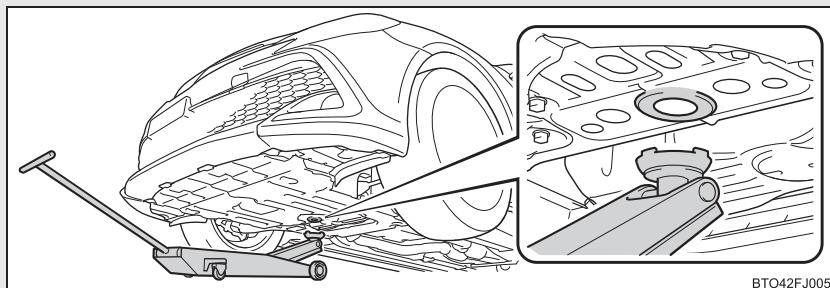
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

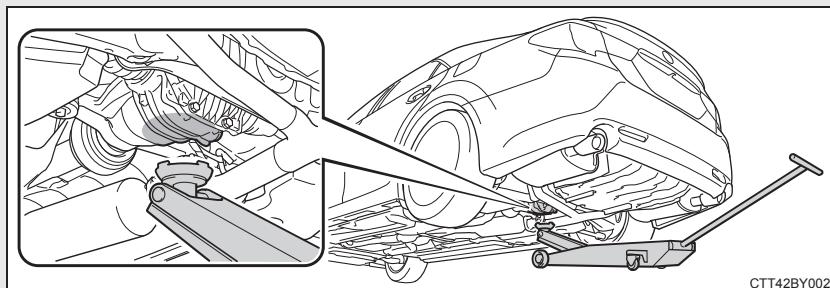
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

■ FR 車（後輪駆動）

フロント側

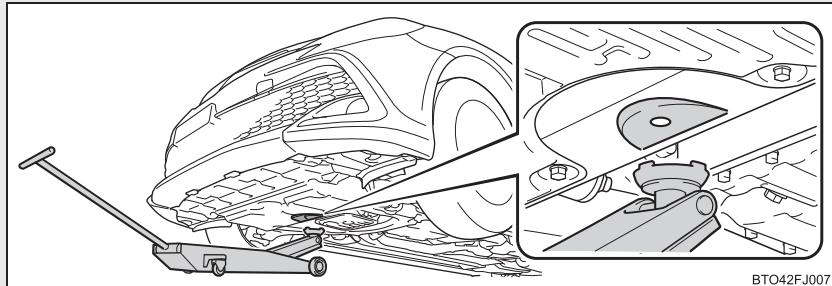


リヤ側

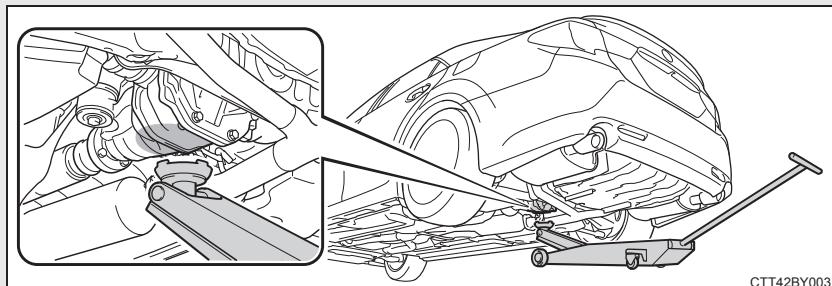


■ 4WD 車 (4 輪駆動)

フロント側



リヤ側

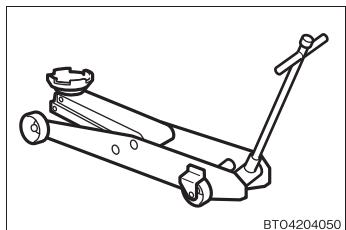


⚠ 警告

■車両を持ち上げるときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



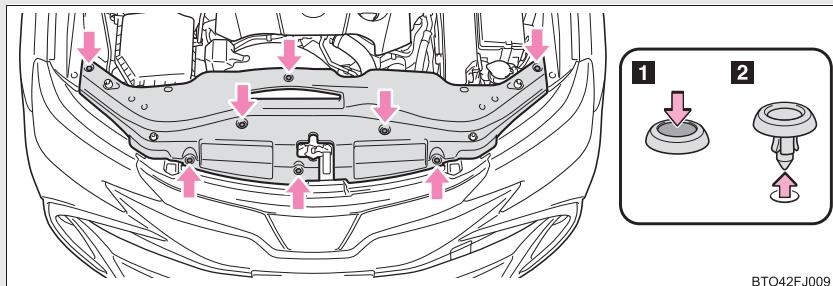
●図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げる

- ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用する
- 車に搭載されているジャッキを使用しない
車両が落下するおそれがあります。
- ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしない
- ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりと傾きのない平坦な床面で使用する
- 車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しない
- 平らで硬い地面に車両を停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにする
- ガレージジャッキは、必ずジャッキアップポイントに正しくセットする
ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。
- 車内に乗員がいるときは車両を持ち上げない
- 車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下にものを置かない

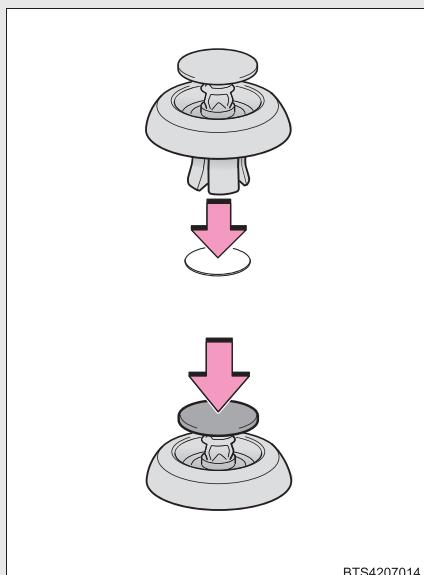
4-2. 簡単な点検・部品交換 エンジンルームカバー

ヒューズや電球（バルブ）の点検・交換などを行うときに取りはずします。

■ エンジンルームカバーの取りはずし方



■ クリップの取り付け方



 **警告****■けがを防ぐために**

エンジンルームカバーを取りはずす前に、エンジンスイッチを“LOCK”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または、“エンジンスタートストップ”スイッチをOFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 **注意****■エンジンルームカバーを取り付けたあとは**

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

4-2. 簡単な点検・部品交換 電球（バルブ）の交換

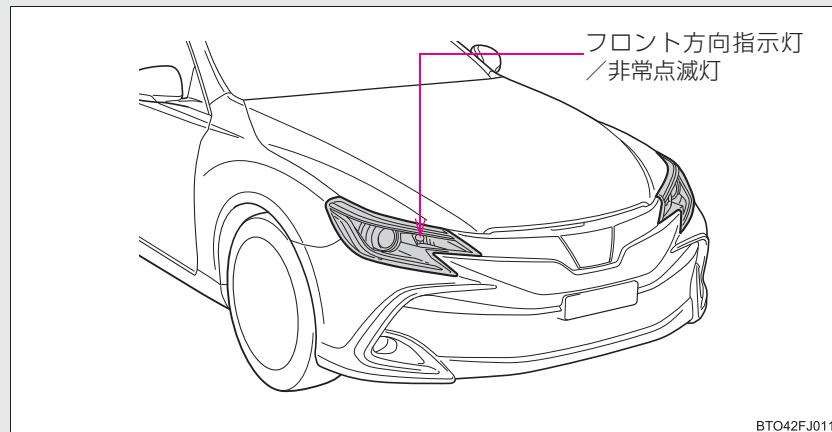
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球により異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

■ 電球の用意

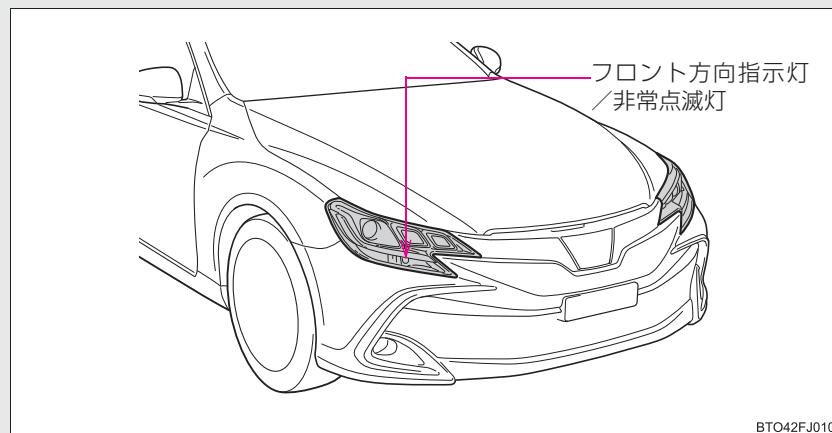
切れた電球のW(ワット)数を確認してください。（→P. 438）

■ フロントのバルブ位置

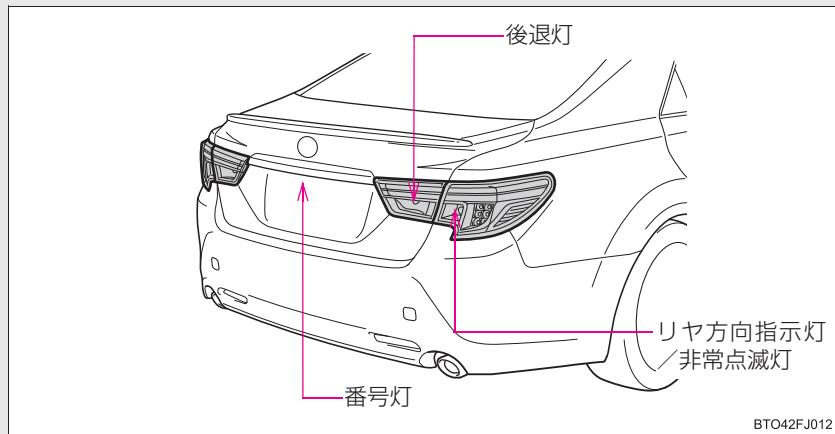
ディスチャージヘッドライト装着車



LED ヘッドライト装着車



■ リヤのバルブ位置



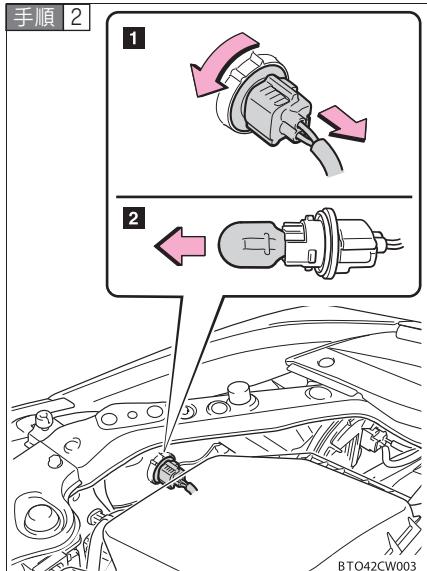
電球交換のしかた

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

手順 1 エンジンルームのカバーをはずす (→P. 324)

ディスクチャージヘッドライト装着車

手順 2

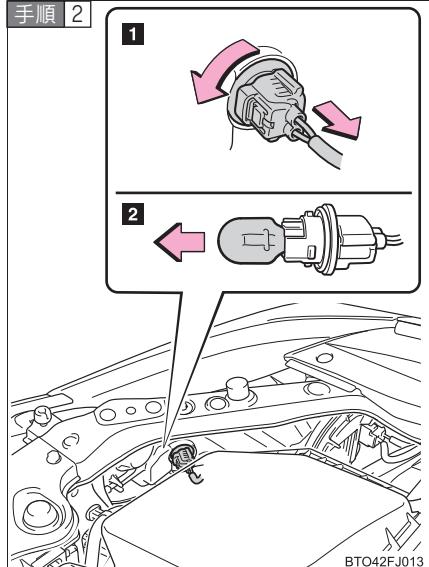


1 ソケットを取りはずす

2 電球を取りはずす

LED ヘッドライト装着車

手順 2

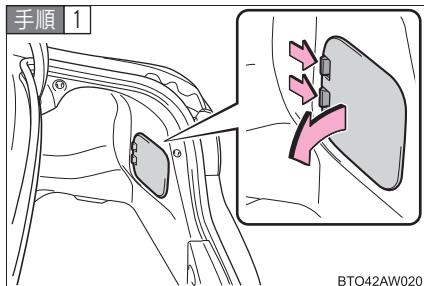


手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

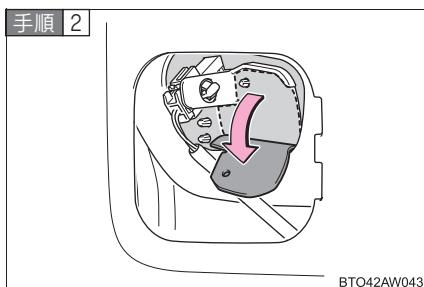
4

お手入れのしかた

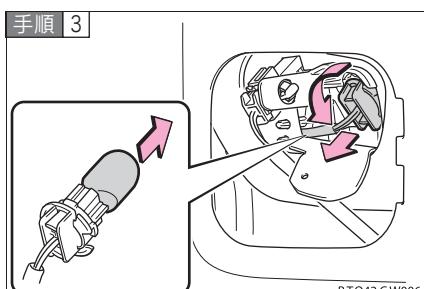
■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯



トランクを開け、カバーを取りはずす



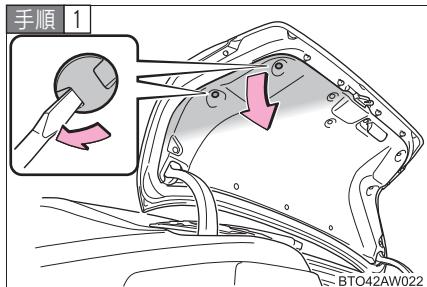
パッキンをめくる



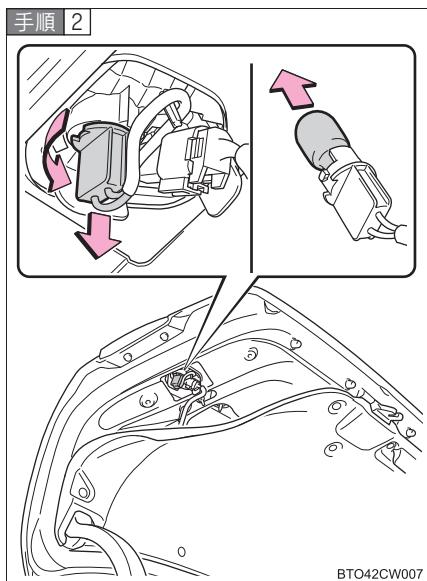
ソケットを取りはずし、電球を取りはずす

手順 4] 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 後退灯



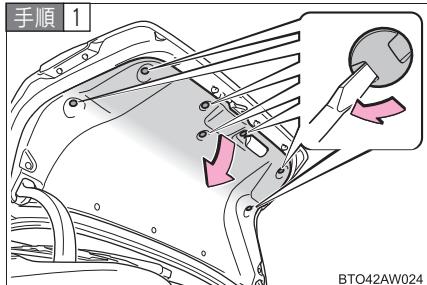
トランクを開け、クリップを取りはずし、カバーをめくる



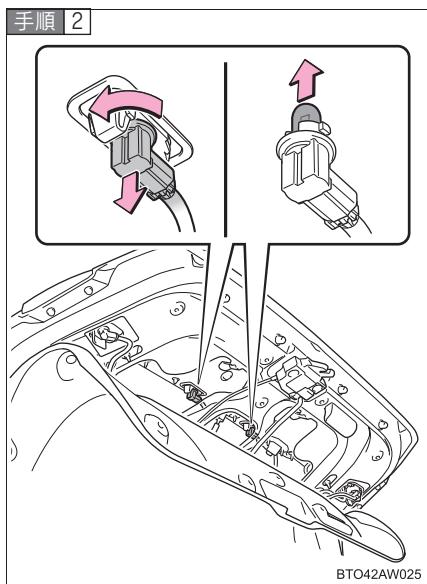
ソケットを取りはずし、電球を取りはずす

手順 3] 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 番号灯



トランクを開け、クリップを取りはずし、カバーをめくる



ソケットを取りはずし、電球を取りはずす

手順 3] 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 次の電球を交換するには

次の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- LED ヘッドライト*
- ディスチャージヘッドライト*
- フロントフォグランプ*
- サイド方向指示灯／非常点滅灯（ドアミラー部）
- 制動灯
- 尾灯
- 車幅灯／LED デイライト*
- ハイマウントストップランプ
- LED イルミネーションビーム*

□ 知識

■ LED ランプについて

LED ヘッドライト*・フロントフォグランプ*・サイド方向指示灯／非常点滅灯・制動灯・尾灯・車幅灯／LED デイライト*・ハイマウントストップランプ・LED イルミネーションビーム*は数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ 電球の交換について

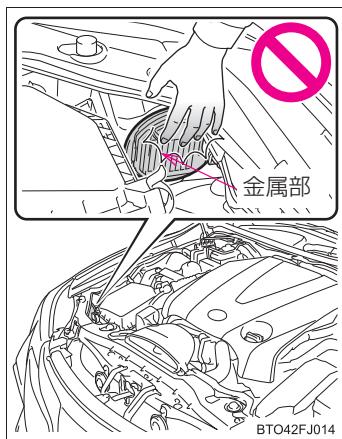
電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■電球を交換するときは

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。
やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。



- ディスチャージヘッドライト装着車：
ディスチャージヘッドライト点灯中および消灯直後はヘッドライト裏の金属部が高温となっているため、さわらないでください。
やけどをすることがあります。

⚠ 警告

■ ディスチャージヘッドライト*について

- 交換するとき（電球交換含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
- 点灯中は、高電圧ソケットにふれないでください。
瞬間に3万ボルトの電圧が発生するため、感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

■ お車の故障を防ぐために

電球を交換するときに取りはずした部品は、もとどおりに取り付けてください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

4-2. 簡単な点検・部品交換 ヒューズの点検、交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が動かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

手順 1

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

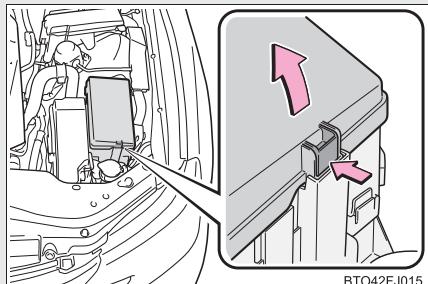
エンジン スイッチを “LOCK” にする

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にする

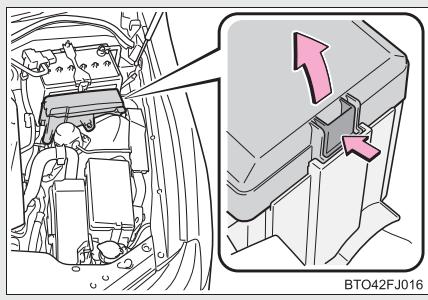
手順 2] ヒューズボックスを開ける

エンジルーム（ヒューズボックス A）



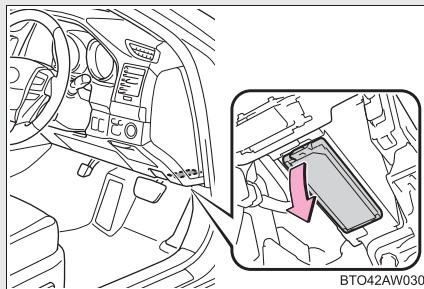
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

エンジルーム（ヒューズボックス B）



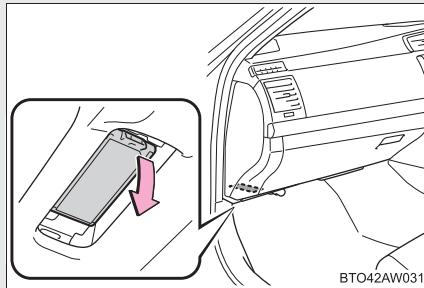
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

運転席足元



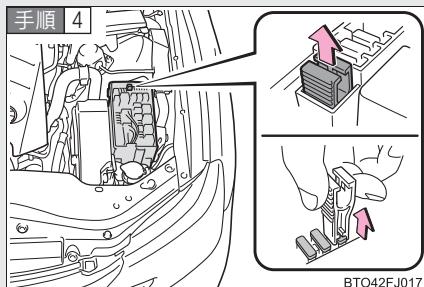
カバーを取りはずす

助手席足元



カバーを取りはずす

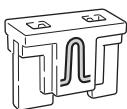
手順 3] 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」(→P. 339) で確認する



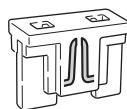
ヒューズはずしてヒューズを引き抜く

手順 5 引き抜いたヒューズが切れていないか点検する

1



2



1 正常

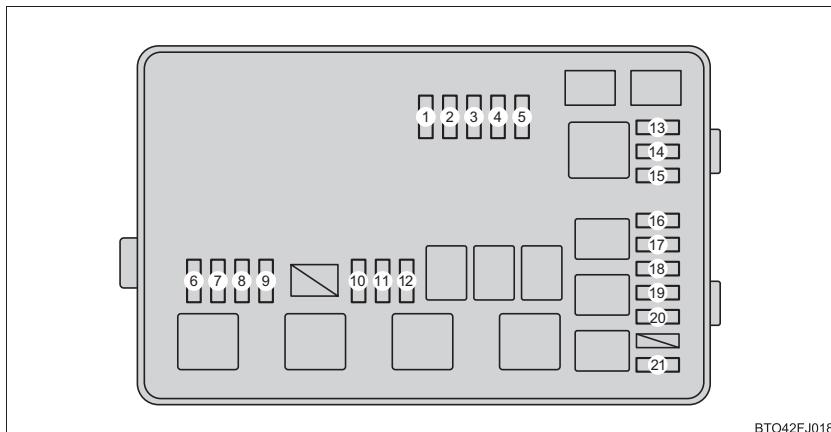
2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

CTN43AE066

ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム（ヒューズボックス A）

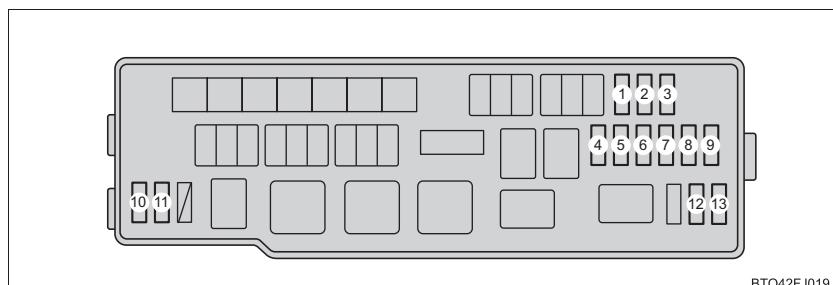


BTO42FJ018

ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1 EFI NO.2	10 A	エンジンコントロールシステム
2 HORN	10 A	ホーン
3 A/F	15 A	排気システム
4 WASHER-S	5 A	ワイパー、ウォッシャー
5 FUEL PMP	20 A	フューエルポンプ
6 INJ	20 A	エンジンコントロールシステム
7 EFI- MAIN	25 A	エンジンコントロールシステム
8 GATEWAY	7.5 A	各 ECU
9 ETCS	10 A	エンジンコントロールシステム
10 H-LP LH-LO	15 A	ヘッドライト (ロービーム) 左
11 H-LP RH-LO	15 A	ヘッドライト (ロービーム) 右
12 WIP-S	7.5 A	ミリ波レーダー、パワーマネジメント
13 SPARE	—	スペア
14 SPARE	—	スペア
15 SPARE	—	スペア
16 H-LP LH-HI	15 A	ヘッドライト (ハイビーム) 左

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
17	H-LP RH-HI	15 A	ヘッドライト (ハイビーム) 右
18	TAIL	15 A	尾灯、車幅灯
19	A/C COMP	7.5 A	エアコン
20	FOG FR	15 A	フロントフォグランプ
21	IG2	10 A	点火系

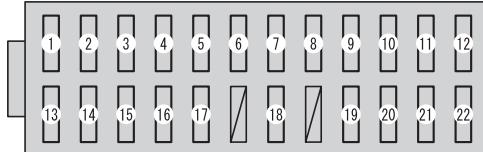
■ エンジンルーム (ヒューズボックス B)



BTO42FJ019

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	IG2-MAIN	20 A	各 ECU 電源
2	D/C CUT	20 A	室内灯、各 ECU 電源
3	ECU-B	10 A	EPS
4	TRUNK OPN	7.5 A	トランクオープン
5	DRL	7.5 A	LED デイライト
6	RAD NO.1	15 A	オーディオ
7	AMP	30 A	オーディオ
8	ALT-S	5 A	充電回路
9	MIR HTR	10 A	ミラーヒーター
10	DEICER	25 A	フロントウインドシールドデアイサー
11	FOG RR	10 A	リヤフォグランプ
12	DOME	10 A	室内照明
13	MPX-B	10 A	各 ECU 電源

■ 運転席足元

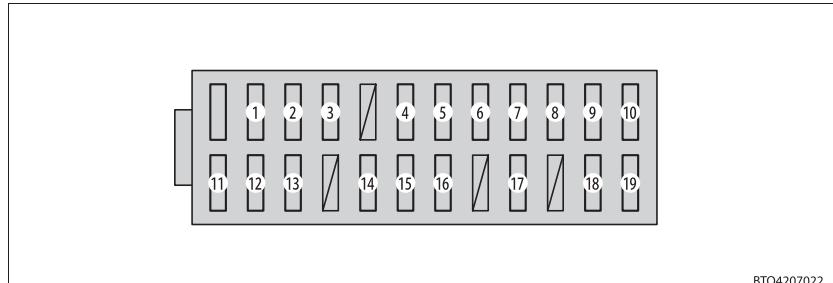


BTO4207023

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	STOP	7.5 A	制動灯
2	TV	10 A	ナビゲーションシステム
3	P/SEAT FR	30 A	フロントパワーシート右側
4	TI & TE	20 A	マイコンプリセッタステアリング
5	ACC	7.5 A	アクセサリー電源
6	P/ OUTLET	15 A	アクセサリーソケット
7	WASHER	20 A	ウォッシャー
8	WIP	30 A	ワイパー
9	AVS	20 A	AVS
10	S/HTR FR	15 A	フロントシートヒーター右側
11	RH IG	10 A	各 ECU 電源
12	RH ECU-IG	10 A	各 ECU 電源
13	DOOR FR	20 A	フロントパワーウィンドウ右
14	DOOR RR	20 A	リヤパワーウィンドウ右
15	AM2	7.5 A	EFI コンピューター
16	SECURITY	7.5 A	EFI コンピューター
17	STRG LOCK	20 A	ステアリングロック
18	IGN	10 A	EFI コンピューター、エアバッグ
19	S/ROOF	20 A	ムーンルーフ
20	P/W-B	5 A	パワーウィンドウ
21	MULTIMEDIA	10 A	オーディオ、ナビゲーションシステム

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
22	OBD	7.5 A	故障診断コネクター

■ 助手席足元



BTO4207022

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	LH J/B-B	7.5 A	ボデー系システム
2	AM1	7.5 A	装備系全般
3	P/SEAT FL	30 A	フロントパワーシート左
4	D/L NO,1	25 A	ドアロック
5	S/HTR FL	15 A	シートヒーター左
6	WIP RR	15 A	リヤワイパー
7	AFS	—	—
8	BKUP LP	7.5 A	後退灯
9	LH ECU-IG	10 A	各 ECU 電源
10	LH IG	10 A	各 ECU 電源
11	DOOR RL	20 A	リヤパワーウィンドウ左
12	DOOR FL	20A	フロントパワーウィンドウ左
13	D/L NO,2	25 A	ドアロック
14	HAZ	15 A	非常点滅灯
15	RAD NO,2	20 A	オーディオ
16	GAUGE	7.5 A	メーター
17	PANEL	7.5 A	イルミネーション
18	A/C	7.5 A	エアコン

ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
19 SHADE RR	—	—

□ 知識

■ヒューズを交換したあと

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
(→P. 326)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

⚠ 警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

⚠ 注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

4-2. 簡単な点検・部品交換

キーの電池交換

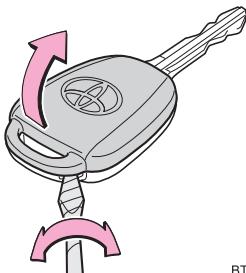
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいプラスドライバー
- リチウム電池
 - ・CR2016 (スマートエントリー&スタートシステム非装着車)
 - ・CR1632 (スマートエントリー&スタートシステム装着車)

■電池交換のしかた (スマートエントリー&スタートシステム非装着車)

手順 1

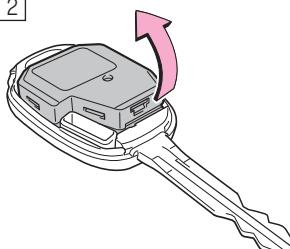


カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

BTO42CW011

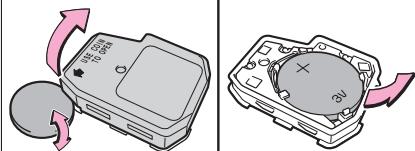
手順 2



モジュールを取り出す

BTO42CW012

手順 3]



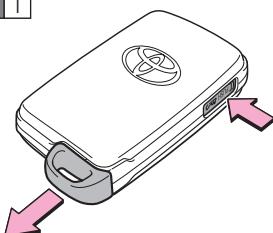
BTO42CW013

コインなどを使用して、モジュールカバーをはずし、消耗した電池を取り出す
新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

手順 4] 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 電池交換のしかた（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

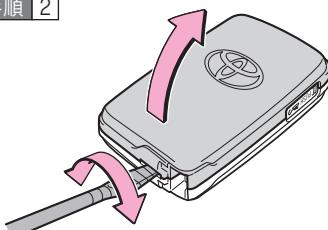
手順 1]



BTO42AL043

メカニカルキーを抜く

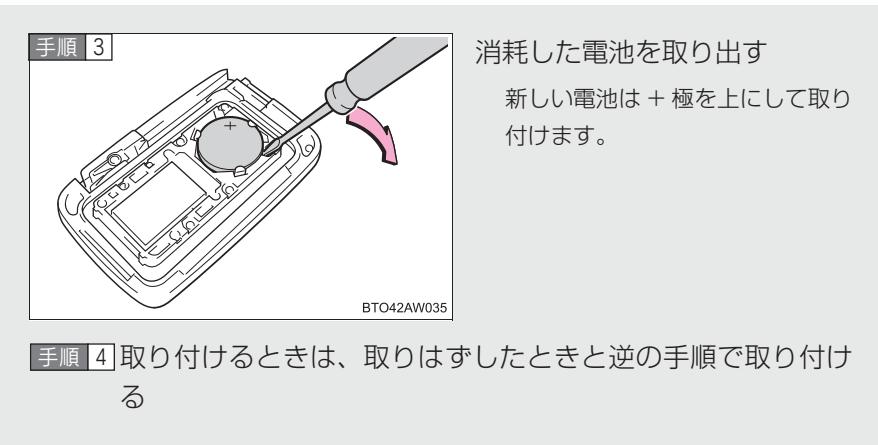
手順 2]



BTO42AL044

カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



□ 知識

■ 電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム（装着車のみ）、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

■ リチウム電池の入手

リチウム電池はトヨタ販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

- スマートエントリー&スタートシステム非装着車：CR2016
- スマートエントリー&スタートシステム装着車：CR1632

■ キーの電池を交換したときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

キーのスイッチを押し、本体の LED が点灯することを確認します。

⚠ 警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

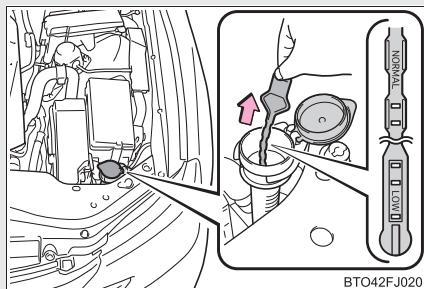
⚠ 注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

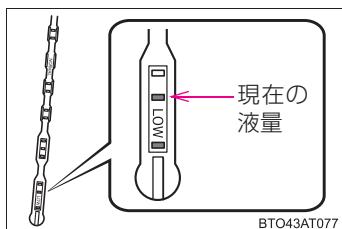
4-2. 簡単な点検・部品交換 ウォッシャー液の補給



液面がLOWの位置に近付いたら
ウォッシャー液を補給してください。

知識

■ ゲージの使い方



ウォッシャー液の膜が張っているゲージの
穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の
残量を判断します。
残量がゲージの先端から2つめの穴部より
下まわった(LOWの位置まで低下した)ら、
ウォッシャー液を補給してください。

⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給
しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、工
エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

 **注意****■ ウオッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

4-2. 簡単な点検・部品交換

エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

■ エアフィルターの交換

手順 1 内外気切りかえスイッチを押し、内気循環にする

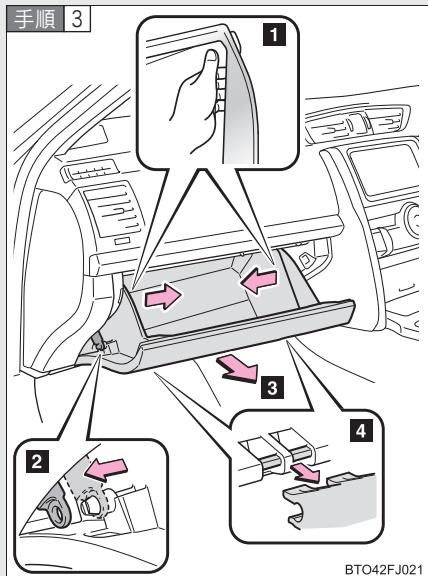
外気導入のままだと、内外気ドアによりフィルターケースを取りはずすことができません。

手順 2 スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチを“LOCK”にする

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにする



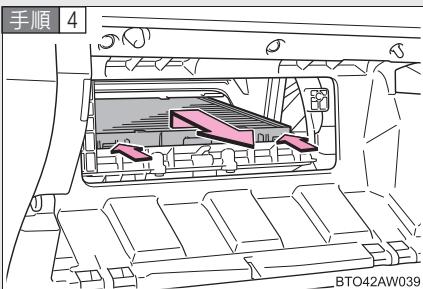
グローブボックスを取りはずす

①グローブボックスの内側に指をかけ、側面を引っ張ってたわませながら、上部のツメを片側ずつはずします

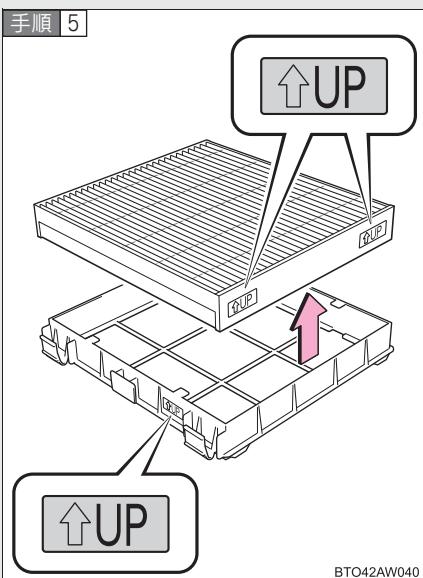
②グローブボックスのダンパーステーのピンをはずします

③グローブボックスを手前に引き出します

④グローブボックス下部のツメをはずします



ツメを押してロックをはずし、
フィルターケースを取りはずす



フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向く
ように取り付けます

手順 6] 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

交換：15,000 km [7,500 km[※]] ごと

※ 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因となることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。
水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

トラブルが起きたら

5

5-1. まず初めに

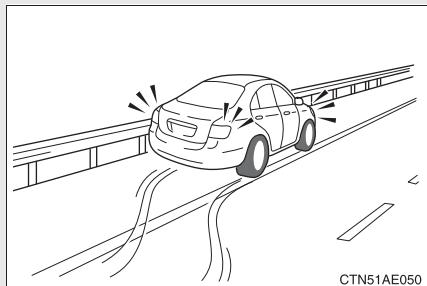
故障したときは	354
非常点滅灯 (ハザードランプ)	356
発炎筒	357
けん引について	359

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは	368
警告メッセージが 表示されたときは	373
パンクしたときは (タイヤパンク 応急修理キット装着車)	387
パンクしたときは (応急用タイヤ装着車)	404
エンジンが かかるないときは	414
キーを無くしたときは	416
電子キーが 正常に動かないときは	417
バッテリーが あがったときは	420
オーバーヒートした ときは	424
スタックしたときは	427
車両を 緊急停止するには	429

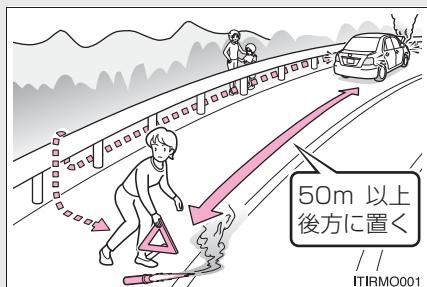
5-1. まず初めに 故障したときは

故障のときは速やかに次の指示に従ってください。



非常点滅灯（→P. 356）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

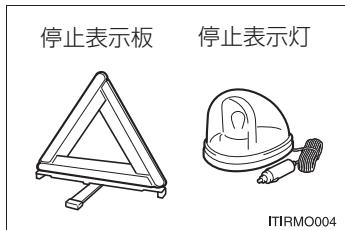


高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の 50 m 以上後方に発炎筒（→P. 357）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

□ 知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

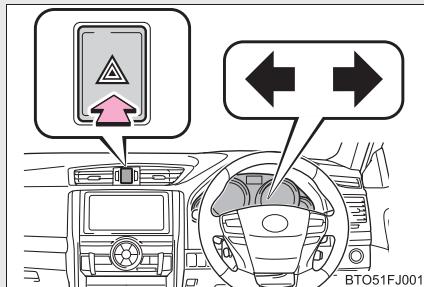


- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

5-1. まず初めに

非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。



スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。

もう一度押すと消灯します。

□ 知識

■ 非常点滅灯について

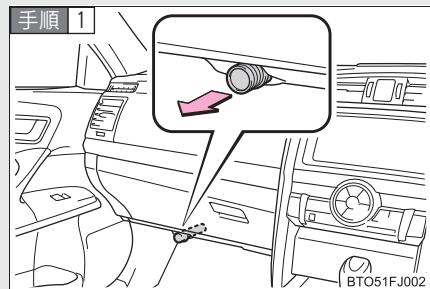
エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

5-1. まず初めに

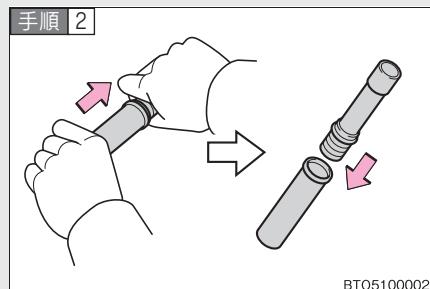
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください。)

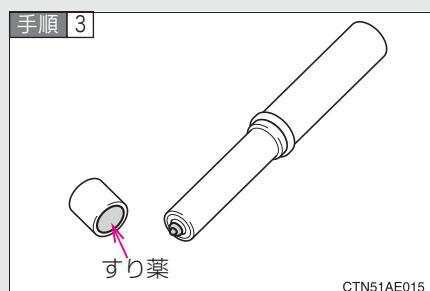
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。



助手席足元の発炎筒を取り出す



本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に
向けないでください。

知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期間が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。
有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

5-1. まず初めに けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

レッカー車でけん引するとき

前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

BTO51FJ003

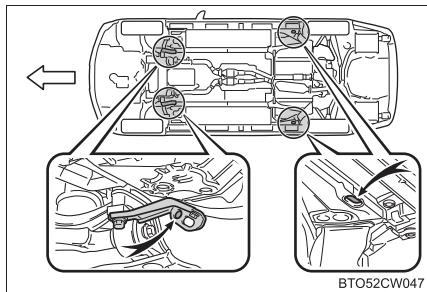
うしろ向きにけん引するときは



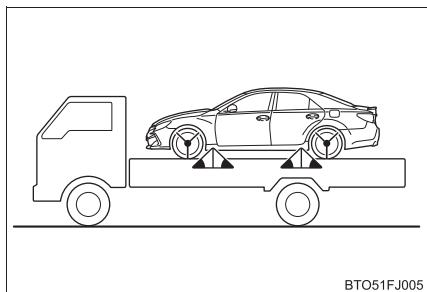
台車を使用して前輪を持ち上げる

BTO51FJ004

車両運搬車を使用するとき



車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する

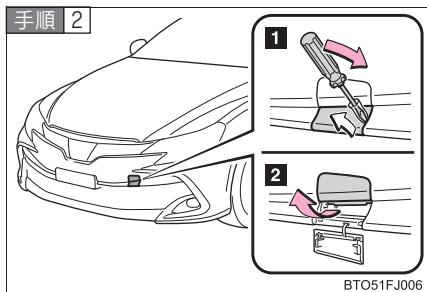


鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する

他車にけん引してもらうとき

“GR SPORT” を除く

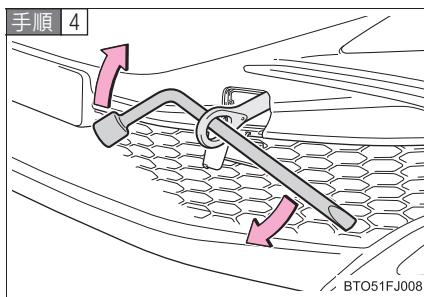
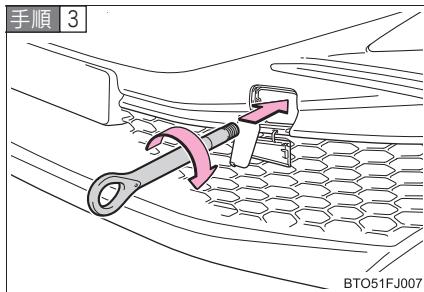
手順 1 けん引フックを取り出す (→P. 404)



1 マイナスドライバーを使って下側のフタをはずす

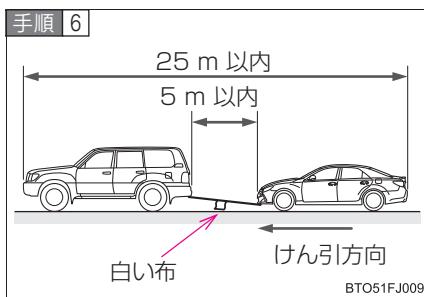
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

2 上側のフタをはずす



手順 5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。



手順 7スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：運転者はけん引される車両に乗り、エンジンを始動する

エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチを“ON”にしてください。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車：運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける

エンジンがかからないときは、“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッションONモードにしてください。

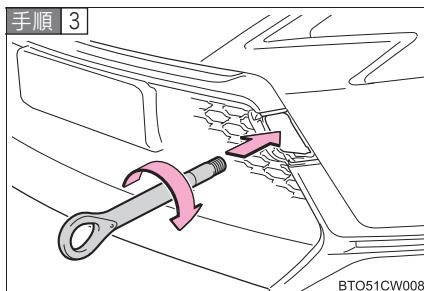
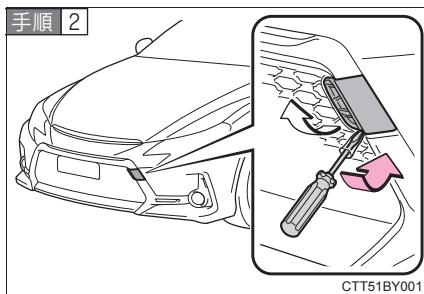
手順 8けん引される車両のシフトレバーをNにしてから、パーキングブレーキを解除する

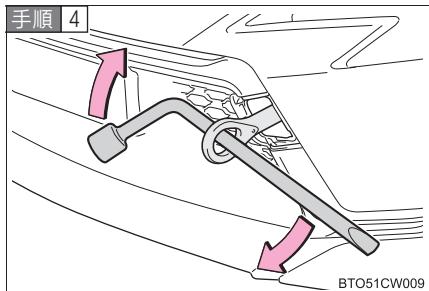
けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→P. 155

“GR SPORT”

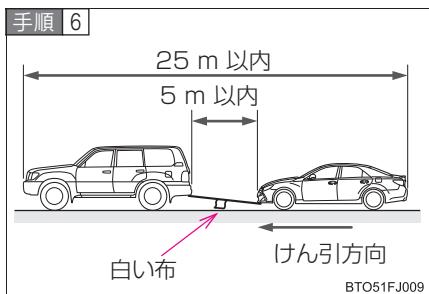
手順 1けん引フックを取り出す（→P. 404）





手順 5] 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。



手順 7] 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける

エンジンがかからないときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにしてください。

手順 8] けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→P. 155

□ 知識

■ けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

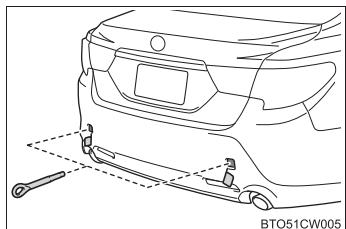
■ 他車にけん引してもらうときに

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ ホイールナットレンチについて

ラゲージアンダートレイに搭載されています。（→P. 389、404）

■ リヤ側フックについて



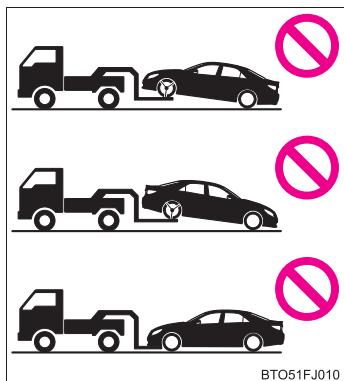
このフックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用することができます。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかない場合、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき



2WD 車

必ず4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、車の向きがかわり事故につながったりするおそれがあります。

4WD 車

4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。

■ 他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：エンジンスイッチを“LOCK”にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。
- スマートエントリー＆スタートシステム装着車：“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

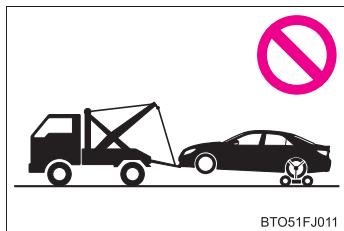
■ けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。

指定の位置にしっかりと取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠ 注意

■ レッカー車でけん引するとき



車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

■ 車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■ 車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤーロープは使用しない
 - ・ 速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ リヤ側フックについて

やむを得ない場合以外は使用しないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	ブレーキ警告灯（警告ブザー ^{※1、2)} ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常

※¹ ブレーキ警告ブザー：

ブレーキ液が不足しているときに車速が約 5 km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

※² パーキングブレーキ未解除警告ブザー：

パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5 km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。（→P. 378）

ただちに停車してください。

次の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電系統の異常
	油圧警告灯 エンジンオイルの圧力異常

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置するとシステムが正しく動かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスマッision電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステム（フロント席）の異常
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
	PCS 警告灯* 警告灯が点滅した場合（ブザーあり）： プリクラッシュセーフティシステムの異常
	ヘッドラランプオートレベルリング警告灯* 自動光軸調整システムの異常
	スリップ表示灯 次のいずれかの機能の異常 <ul style="list-style-type: none"> ・VSC ・TRC ・ヒルスタートアシストコントロール VSC・TRC システムの作動時は点滅します。（→P. 250）

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告灯	警告灯名・警告内容
 (黄色点灯)	LDA 表示灯* <ul style="list-style-type: none"> ・LDA（ステアリング制御機能付き）の異常 ・システムが一時的に使用不可 車線逸脱警報時には、点滅します。 (→P. 211)

□ 知識

■パワーステアリング警告灯について

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に点灯することがあります。

▲ 警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドル操作が非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

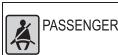
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

次の警告は、それぞれの対処方法に従って処置し、警告灯／警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	PCS 警告灯*	—
	<p>警告灯が点滅した場合（ブザーなし）：</p> <p>次の原因などによりプリクラッシュセーフティシステムが一時停止している可能性があります。</p> <p>前方センサー周辺に汚れや付着物がある</p>	汚れや付着物を取り除いてください。
	<p>警告灯が点滅した場合（ブザーなし）：</p> <p>次の原因などによりプリクラッシュセーフティシステムが一時停止している可能性があります。</p> <p>前方センサーが作動条件範囲外（温度など）</p>	走行は可能です。（温度など）作動条件を満たせば、プリクラッシュセーフティシステムが利用可能になります。
	<p>警告灯が点灯した場合：</p> <p>VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムまたはプリクラッシュセーフティシステム、もしくは両方が OFF になっています。</p>	VSC システムとプリクラッシュセーフティシステムを ON にすると、プリクラッシュセーフティシステムが利用可能になります。 (→P. 200, 251)
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 11 L 以下になった	燃料を補給する
	運転席シートベルト 非着用警告灯 (警告ブザー *) 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
 PASSENGER	助手席シートベルト非着用警告灯 (警告ブザー※) 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
 (P)	パーキングブレーキ未解除警告灯 パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性があります。	パーキングブレーキを解除する
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーとともに点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。	→P. 373

※ **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー :**

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約20 km/h以上になると警告ブザーが30秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音がかわり90秒間鳴ります。

 **知識**

■ **助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について**

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

5-2. 緊急時の対処法

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。



① マスター ウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

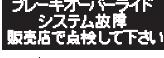
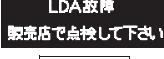
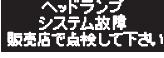
処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容
4WD システムチェック 	4WD システム*の異常 警告ブザーが鳴ります。
ステアリングロック システムチェック 	ステアリングロックシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。
プリクラッシュセーフティ 故障 販売店で点検して下さい  	PCS (プリクラッシュセーフティシステム) *の異常 警告ブザーが鳴ります。
クルーズ システムチェック 	クルーズコントロールシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。 メインスイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容
 	クリアランスソナー*の異常 异常のあるソナーの位置が点滅し、警告ブザーが鳴ります。
 	ドライブスタートコントロールの異常 警告ブザーが鳴ります。
 	ブレーキオーバーライドシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。
 (黄色点灯) 	LDA（レーンディバーチャーラート [ステアリング制御機能付き]）*の異常 警告ブザーが鳴ります。
 	ヘッドランプシステム（オートレベリングシステム・オートマチックハイビーム*など）の異常 警告ブザーが鳴ります。

*:車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
	フロントグリルエンブレム周辺の汚れ・氷などの付着 [PCS (プリクラッシュセーフティシステム) *]	グリルまたはレーダーセンサーの汚れを取り除く
	レーダーセンサーの軸ずれにより、PCS (プリクラッシュセーフティシステム) * が現在機能していない	トヨタ販売店でレーダーセンサーの点検を受けてください
	レーダーセンサーの作動条件 (温度など) が満たされていない [PCS (プリクラッシュセーフティシステム) *]	レーダーセンサーの作動条件 (温度など) が満たされると、使用可能になります
	アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれているため、ブレーキオーバーライドシステムが作動した	アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください
	LDA (レーンディィパーチャーラート [ステアリング制御機能付き]) * 車線逸脱警報 <ul style="list-style-type: none"> 車両が車線から逸脱すると、逸脱している側の表示が点滅します。 警告ブザーが鳴ります。 	周囲の安全を確認してから、ハンドルを操作して車両を車線内にみどす

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
<p>LDA ハンドルを保持して下さい</p>	<p>LDA（レーンディバーチャーアラート【ステアリング制御機能付き】）*操舵支援「有」中にシステムが手放し運転と判断</p> <p>運転者のハンドル操作が小さいとき、システムがハンドル操作を検知できず、警告が表示される場合があります。</p>	ハンドルをしっかりと持ちなおしてください
<p>LDA 操舵支援停止 ハンドルを保持して下さい</p> 	<p>LDA（レーンディバーチャーアラート【ステアリング制御機能付き】）*操舵支援「有」中にシステムが手放し運転と判断したため、操舵支援が一時停止</p> <ul style="list-style-type: none"> 運転者のハンドル操作が小さいとき、システムがハンドル操作を検知できず、警告が表示される場合があります。 警告ブザーが鳴ります。 	ハンドルをしっかりと持ちなおしてください
<p>前方カメラシステム 一時利用不可 少々お待ち下さい</p> 	<p>カメラセンサー*の作動条件（温度など）が満たされていない</p>	<p>次のシステムが一時的に使用できなくなります。表示された画面の指示に従ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> PCS（プリクラッシュセーフティシステム） LDA（レーンディバーチャーアラート） レーダークルーズコントロール オートマチックハイビーム

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
車線逸脱を 繰り返しています 休憩しましょう	連続的な車線逸脱 (LDA (レーンディパーキャーラート [ステアリング制御機能付き]) *) 警告ブザーが鳴ります。	休憩してから再度運転する
車のふらつきパターン を検出しました。 休憩はいかがですか?	穏やかな蛇行、運転者の操舵回数減少後の急激な操舵 (LDA (レーンディパーキャーラート [ステアリング制御機能付き]) *) 警告ブザーが鳴ります。	
LDA ON 操舵支援 なし	LDA (レーンディパーキャーラート [ステアリング制御機能付き]) *の操舵支援が OFF になっている	操舵支援を ON にする (→P. 210)
パーキングブレーキを 解除して下さい   (点滅)	パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5 km/h 以上になった 警告ブザーが鳴ります。	パーキングブレーキを解除する
運転席	各ドアまたはトランクが確実に閉まっていない 開いてるドアまたはトランクが表示されます。 各ドアまたはトランクが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5 km/h をこえたときには警告ブザーが鳴り  が点滅します。	各ドアまたはトランクを閉める

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
<p>ムーンルーフが 開いています</p>  <p>(点滅)</p>	ムーンルーフ*が確実に閉まってない状態で“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにして運転席ドアを開けた 警告ブザーが鳴ります。	ムーンルーフを閉める
<p>エンジンオイル不足</p> 	エンジンオイルの不足 警告ブザーが鳴ります。	エンジンオイル量を点検し、オイルを補給する
<p>VSCがOFFの為 プリクラッシュブレーキも 停止します</p>  	VSCがOFFになり、プリクラッシュブレーキの作動が停止した	VSCをONにする (→P. 249)
<p>LDA 現在利用できません</p>  <p>(黄色点灯)</p> 	カメラセンサー*以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止している 警告ブザーが鳴ります。	いったんLDA（レーンディパーチャーラート【ステアリング制御機能付き】）をOFFにし、しばらくしてから再度LDA（レーンディパーチャーラート【ステアリング制御機能付き】）をONにしてください。

*:車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
 	カメラセンサー*の前のフロント ウインドウガラスの汚れ・雨滴・ 結露・氷雪などが付着している 次のシステムが対処を行うまでは使用できなくなります。 · PCS (プリクラッシュセーフティ システム) · LDA (レーンディバーチャーア ラート) · レーダークルーズコントロール · オートマチックハイビーム	いったんシステムを OFF にして、汚れ・雨 滴・結露・氷雪などを取り除いてから、再度 システムを ON にしてください。
	車速が約 50 km/h 以下そのため、 LDA (レーンディバーチャーア ラート [ステアリング制御機能付 き]) *が使用できない	約 50 km/h より速い 車速で走行する
	車速が LDA (レーンディバー チーアラート [ステアリング制 御機能付き]) *の作動可能速度を こえたため、使用できない	車速を落として走行す る
 	アクセルペダルを踏みながらシフ トレバーを動かし、ドライブス タートコントロールが作動した 警告ブザーが鳴ります。	一度アクセルペダルか ら足を離す

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
	<p>レーダー汚れ 清掃必要</p> <p>警告ブザーが鳴ります。</p>	汚れおよび氷などを取り除く
	<p>悪天候 クルーズできません</p> <p>警告ブザーが鳴ります。</p>	しばらく走行してからレーダークルーズコントロールを再度設定してください
	<p>(レーダークルーズコントロール*の車間制御中) 衝突の危険性がある</p> <p>警告ブザーが鳴ります。</p>	ブレーキを踏む
	<p>衝突の可能性が高い、またはプリクラッシュブレーキ*が作動していることを示す</p> <p>警告ブザーが鳴ります。</p>	ブレーキで減速する
	<p>クリアランスソナー*のセンサー部分の汚れ、氷などの付着</p> <p>警告ブザーが鳴ります。</p>	汚れおよび氷などを取り除く

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■レーダークルーズコントロール*警告メッセージについて

次のような場合は、車間距離が短くても、車間制御中の警告メッセージが表示されないことがあります。

- 先行車と自車の速度が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が非常に低速で走行しているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルが踏まれたとき

■LDA（レーンデパーチャーラート）*の車線逸脱警報について

次のような場合は、白（黄）線をまといでも警告メッセージが表示されません。

- LDAの作動条件以外の車速のとき
- 白（黄）線を認識できていないとき

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください(スマートエントリー＆スタートシステム装着車)

それぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1回	なし	<p>キーが 見つかりません</p>  (点滅)	電子キーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした	電子キーを携帯する
1回	3回	<p>キーが 見つかりません</p>  (点滅)	“エンジン スタート ストップ”スイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した シフトレバーが P の状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	電子キーを車内にもどす “エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にする または電子キーを車内にもどす
1回	1回	<p>キーが 見つかりません</p> <p>電源を OFFして下さい (交互に表示)</p>  (点滅)	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしたあと、再度施錠する

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1回	なし	<p>キーが 見つかりません</p>  (点滅)	正規の電子キーが車室内に無い状態で走行をはじめた	車室内に電子キーがあるか確認する
連続音	なし	<p>Pレンジに 入れて下さい</p>  (点滅)	シフトレバーが P 以外の状態で、“エンジン スタートストップ”スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いた	シフトレバーを P にする
連続音	連続音	<p>Pレンジに 入れて下さい</p> <p>キーが 見つかりません</p> <p>(交互に表示)</p>  (点滅)	シフトレバーが P 以外の状態で、“エンジン スタートストップ”スイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	<ul style="list-style-type: none"> シフトレバーを P にする。 電子キーを車内に入れる
1回	連続音	<p>車室内に キーがあります</p>  (点滅)	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとした 車内に電子キーを置いたまま、フロントドアを開きロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1回	なし	 	<p>メカニカルキーで解錠して“エンジンスタートトップ”スイッチを押した際、車室内でキーを検出できなかった</p>	<p>ブレーキを踏みながら電子キーで“エンジンスタートトップ”スイッチにふれる</p>
			“エンジンスタートトップ”スイッチを押したときに車室内でキーを検出できないことが2回連続で続いた	
1回	なし	 	エンジン始動不可能なシフトレバー位置でエンジン始動しようとしている	シフトレバーをPに入れてからエンジンを始動させる
1回	なし	 	シフトレバーがPもしくはN以外で“エンジンスタートトップ”スイッチをOFFにしようとした	“エンジンスタートトップ”スイッチをOFFにしたい場合は、シフトレバーをPにし“エンジンスタートトップ”スイッチを押す

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
なし	なし	バッテリー保護の為 自動電源OFF しました	自動電源 OFF 機能が作動した	次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約 5 分間その回転数を保持しバッテリーを充電する
1 回	なし	キーバッテリー 残りわずか 	電子キーの電池残量が少ない	新しい電池と交換する (→P. 344)
1 回	なし	始動時はブレーキを踏みながらエンジンスイッチを操作して下さい  (点滅)	“エンジンスタートストップ”スイッチが OFF の状態で運転席のドアを開閉してからエンジンをかけずに “エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモードに 2 回以上した	ブレーキを踏んで “エンジンスタートストップ”スイッチを押す
			電子キーが正常に働かないときのエンジン始動の方法で (→P. 418) “エンジンスタートストップ”スイッチに電子キーでふれた	ブザーが鳴ってから 10 秒以内に “エンジンスタートストップ”スイッチを押す
1 回	なし	ステアリングロック 未解除  (点滅)	“エンジンスタートストップ”スイッチを押してから約 3 秒以内にステアリングロックが解除できなかった	ブレーキを踏んでハンドルを左右にまわしながら “エンジンスタートストップ”スイッチを押す

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

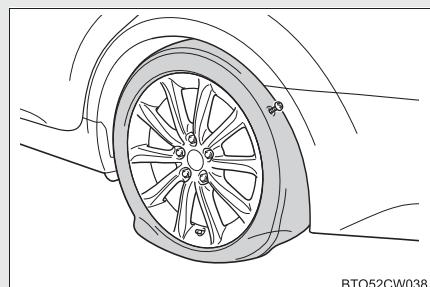
タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときにタイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やねじなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です。）パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→P. 388）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。タイヤパンク応急修理キットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

■ 応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをしっかりとかける
- シフトレバーを P に入る
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→P. 356）
- 応急修理をする前に、タイヤ損傷の程度を確認する。



釘やネジなどが刺さった場合のみタイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ応急修理が出来なくなることがあります。
- ・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かれている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



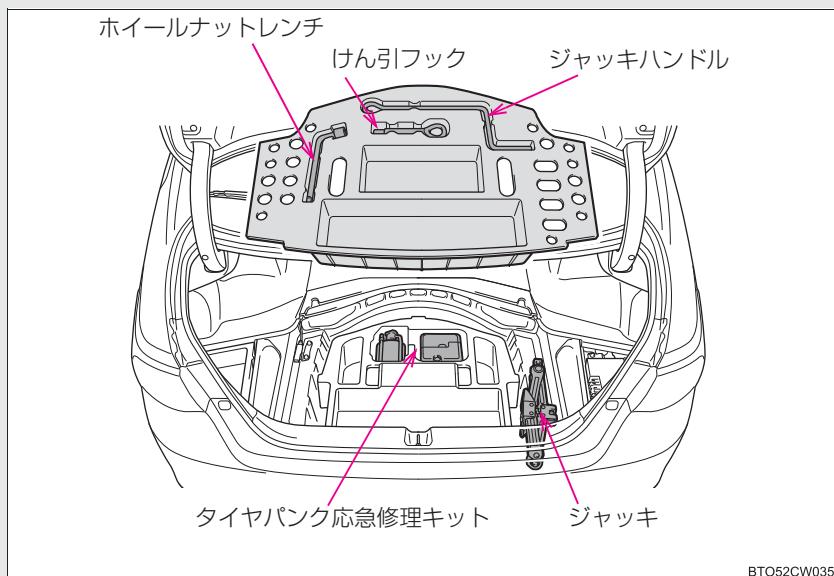
注意

■ 応急修理キットで修理できないパンク

次のときは、応急修理キットでは応急処置できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4 mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2ヶ所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- 補修液の有効期限が切れているとき

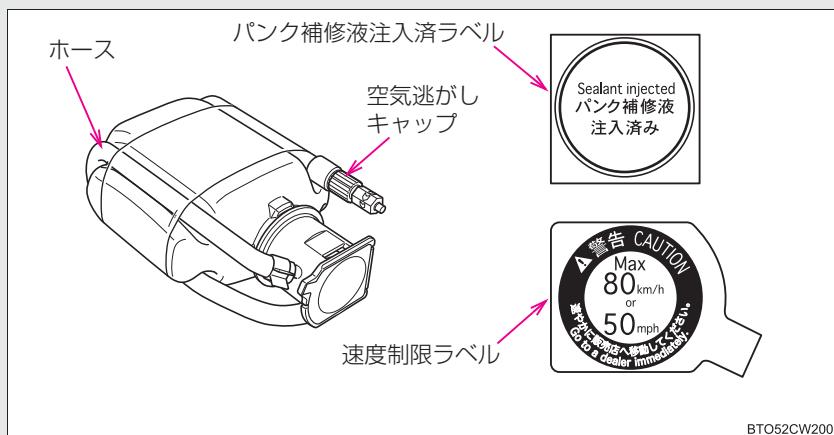
■ タイヤパンク応急修理キット・工具・ジャッキの位置



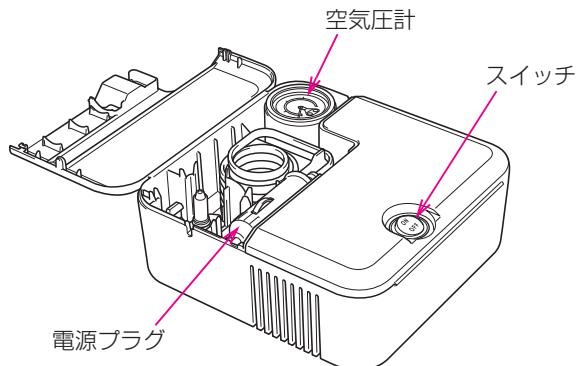
※ ジャッキの使い方 (→P. 404)

■ タイヤパンク応急修理キットの内容、各部名称

ボトル

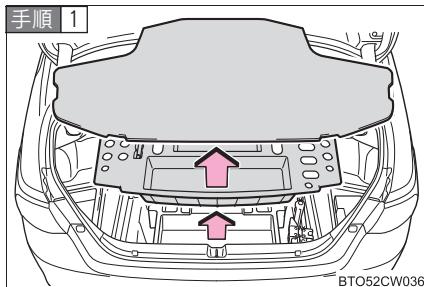


コンプレッサー

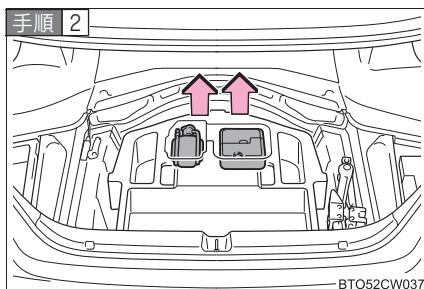


CTT52BY001

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方



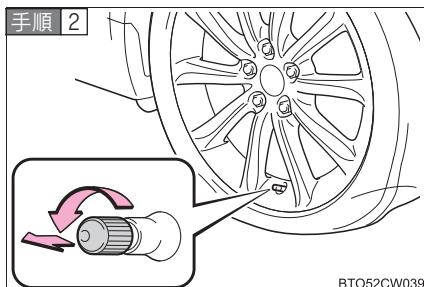
ラゲージマットを取り出し、ラゲージアンダートレイを取りはずす



タイヤパンク応急修理キットを取り出す

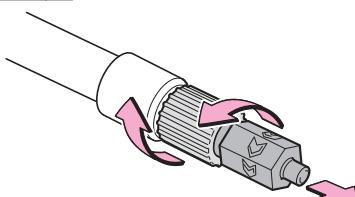
応急修理するときは

手順 1 応急修理キットをビニール袋から取り出す



パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす

手順 3



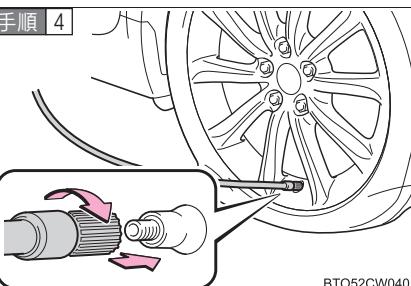
BTO72CP061

ボトルの保護フィルムをはがし、ホースをのばす

ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

手順 4

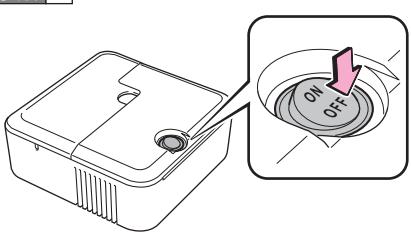


BTO52CW040

ボトルのホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込む

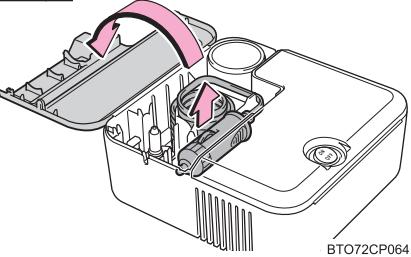
手順 5



BTO72CP063

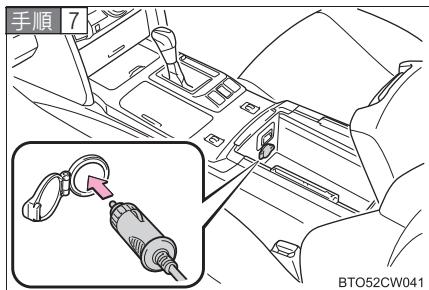
コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認する

手順 6

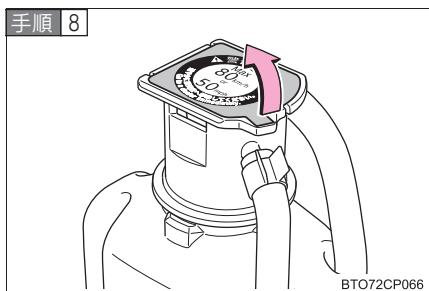


BTO72CP064

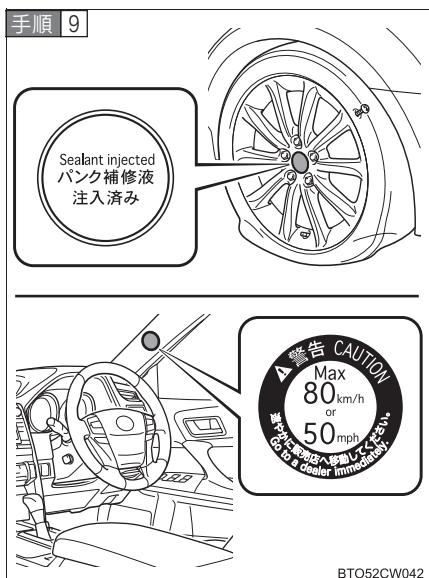
フタを開けてコンプレッサーの電源プラグを取り出す



コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む
(→ P. 294)

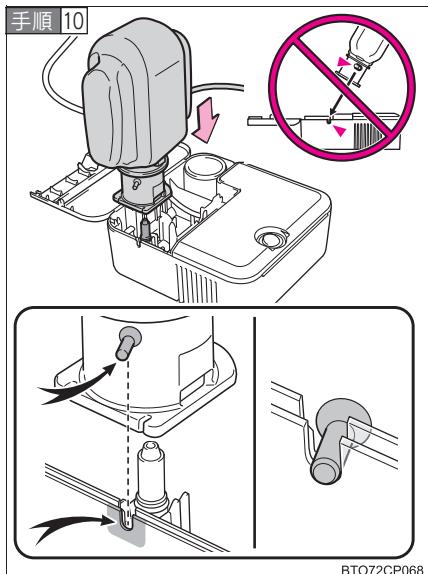


速度制限ラベルをはがす



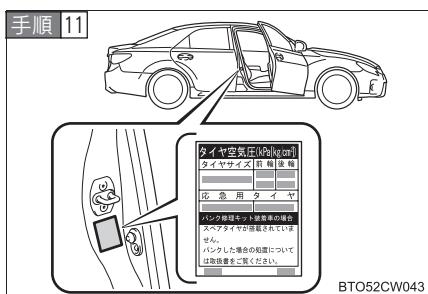
付属のラベル 2 枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

ホイールの汚れや水分を十分にふき取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、トヨタ販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済であることを必ずお伝えください。



ボトルをコンプレッサーに接続する

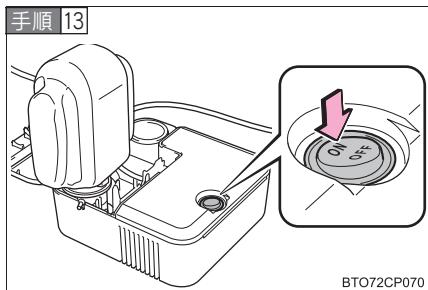
左図のように、ボトルをまっすぐにコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルの突起がケースの溝にしっかりと合っているか確認してください。



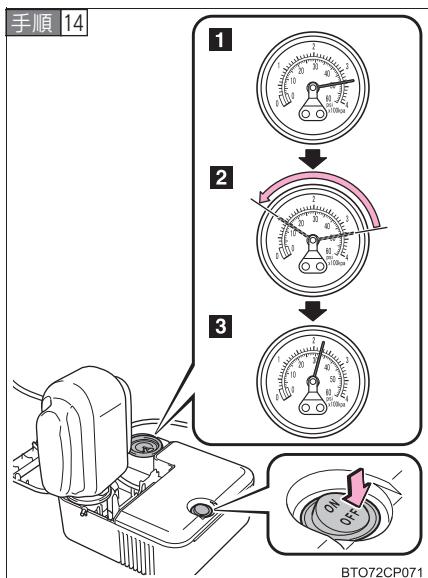
タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。 (→ P. 313)

手順 12 エンジンを始動する



コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する



空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する

- 1 スイッチ ON 直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧が上昇する
- 2 1 分程度（低温の場合は 5 分程度）で実際の空気圧表示になる
- 3 指定空気圧になるまで充填する

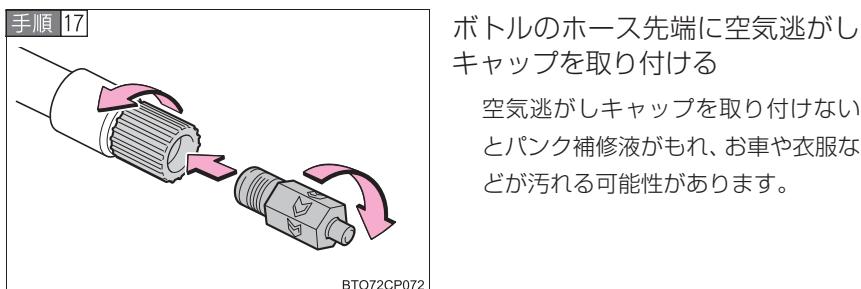
空気圧はコンプレッサーのスイッチを OFF にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

35 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
(→ P. 313, 437)

手順 15 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜く。バルブからボトルのホースを取りはずす

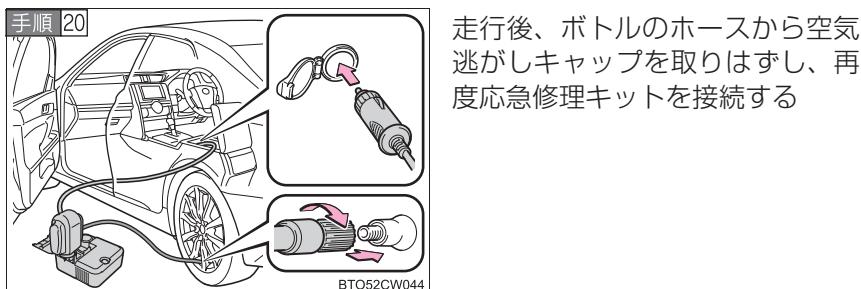
ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

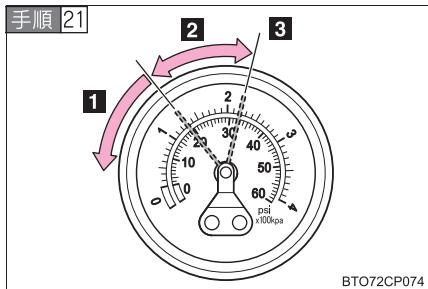
手順 16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける



手順 18 いったんボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

手順 19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5 km、速度 80 km/h 以下で安全に走行する





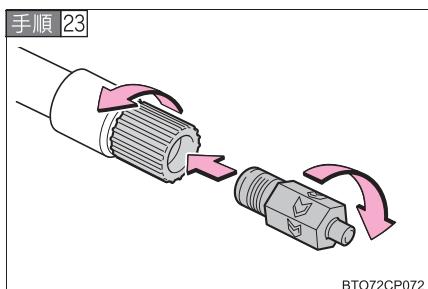
コンプレッサーのスイッチを約5秒間ONにして、OFFにしてから空気圧を確認する

① 空気圧が130 kpa未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

② 空気圧が130 kpa以上、指定空気圧未満の場合：手順22へ

③ 空気圧が指定空気圧（→P. 313、437）の場合：
手順23へ

手順22 コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度約5km走行後にあらためて手順20から実施する



ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、お車や衣服などが汚れる可能性があります。

手順24 ボトルとコンプレッサーを接続したままトランクに収納する

手順25 急ブレーキ・急加速・急ハンドルを避け、慎重に80km/h以下で運転してトヨタ販売店へ行きます

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

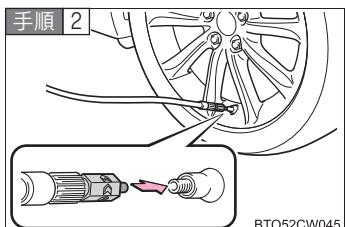
知識

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。
- パンク補修液には有効期限があります。有効期限はボトルに表示されています。有効期限が切れる前に新しいボトルに交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。
- パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 外気温度が-30℃～60℃のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着するとシミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などで速やかにふき取ってください。
- 応急修理キット作動中は大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■空気を入れすぎてしまったときは

手順 1] タイヤからボトルのホースを取りはずす



ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く

手順 3] ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

手順 4] コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧を確認する

指定空気圧より低いときは、再度コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。

有効期限はボトルに表示されています。

⚠ 警告

■ タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤ・ホイールが損傷して修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■ 応急修理キットについて

● 応急修理キットは指定の位置に収納してください。

急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ パンク補修液について

● 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

● もし目に入ったり、皮膚に付いたりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

▲ 警告

■パンクしたタイヤを応急修理するときは

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとボトルのホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- パンク補修液注入中にボトルのホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後はボトルのホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので応急修理キット作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に速度制限シールを貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

⚠ 警告

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。
 - ・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・再度空気圧を測ってください。130 kpa 未満の場合はタイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。



注意

■ 応急修理するときは

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットには防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂埃の多い場所に直接置いて使用しないでください。砂埃などを吸い込むと、故障の原因となるおそれがあります。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。ほかの電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットはビニール袋に入れて砂埃や水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。

分解、改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因となるおそれがあります。

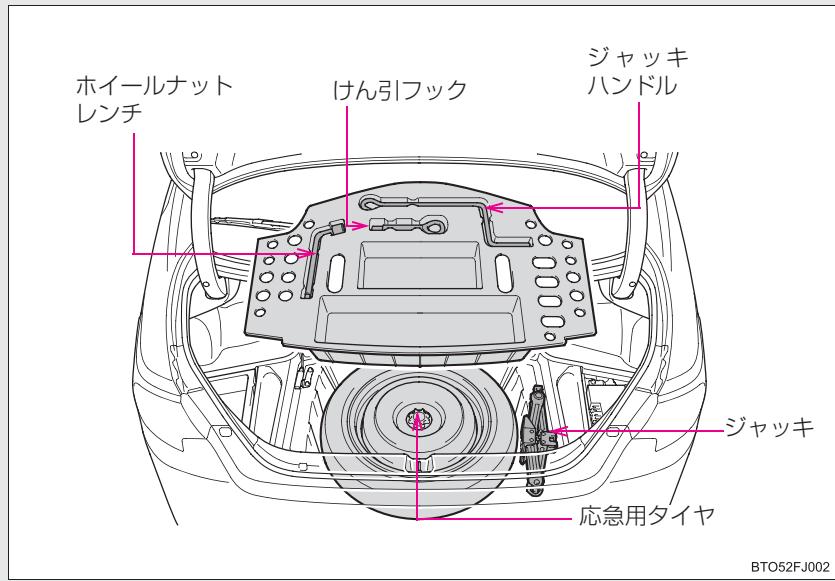
パンクしたときは (応急用タイヤ装着車)

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明は、P. 312をご覧ください。)

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

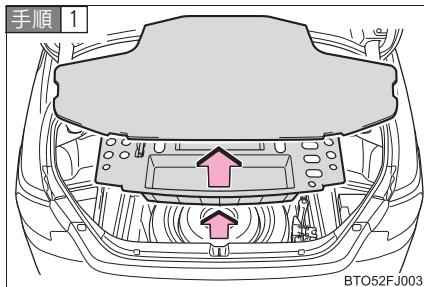
- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる (→P. 356)

■ 工具・ジャッキ・応急用タイヤの位置

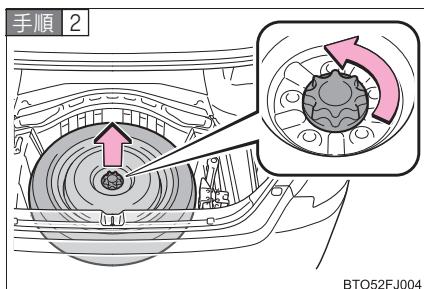


BTO52FJ002

ジャッキと応急用タイヤの取り出しかた

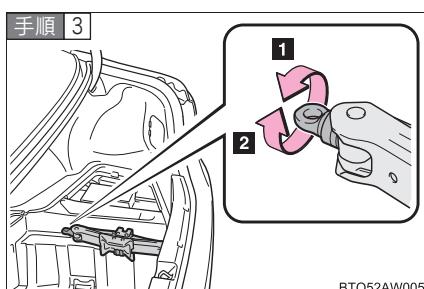


ラゲージマットを取り出し、ラゲージアンダートレイを取りはずす



応急用タイヤを取りはずす

止め具を取りはずし、タイヤを取り出す



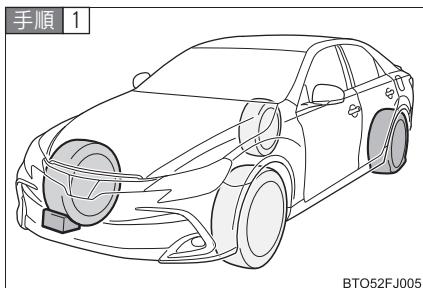
ジャッキを取り出す

① 締める

② ゆるめる

格納するときはジャッキと固定具がかみあうよう確実に固定してください。

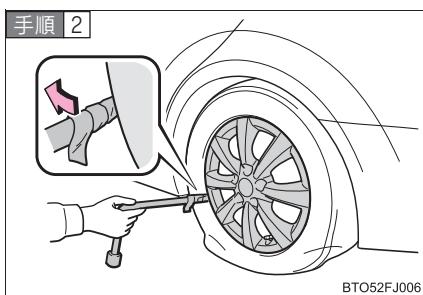
パンクしたタイヤの交換



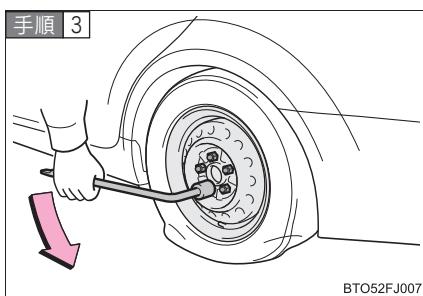
輪止め※をする

パンクした タイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

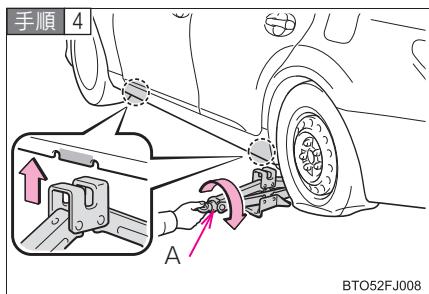


ホイールキャップ*をはずす
(スチールホイールのみ)

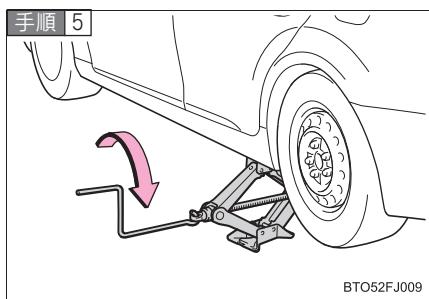


ナットを少し(約1回転)ゆるめる

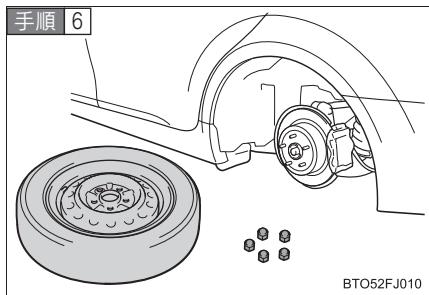
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備



ジャッキの A 部を手でまわして、
ジャッキ溝をジャッキセット位置
にしっかりとかける



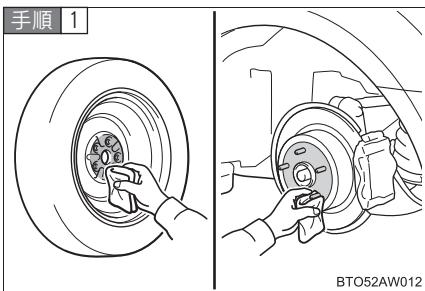
タイヤが地面から少し離れるま
で、車体を上げる



ナットすべてを取りはずし、タイ
ヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホ
イールの意匠面に傷が付かないよう
意匠面を上にする

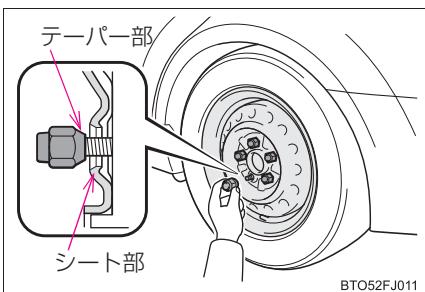
タイヤの取り付け



ホイール接触面の汚れをふき取る
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれることがあります。

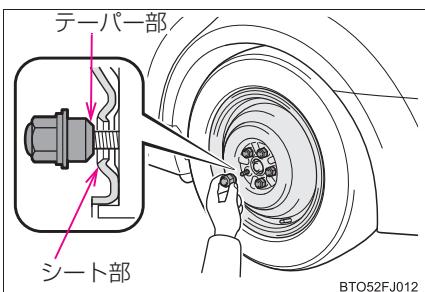
手順 2 タイヤを取り付け、タイヤがたつかない程度まで手でナットを
仮締めする

スチールホイールからスチールホイールにかえるとき (応急用タイヤを含む)



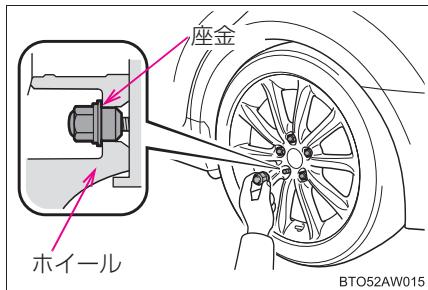
ナットのテーパー部がホイールの
シート部に軽くあたるまでまわす

アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき

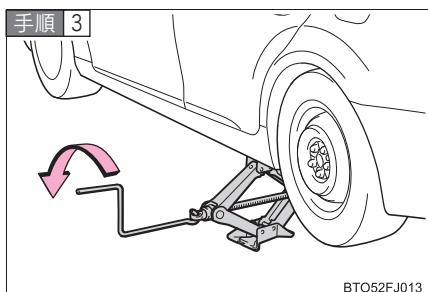


ナットのテーパー部がホイールの
シート部に軽くあたるまでまわす

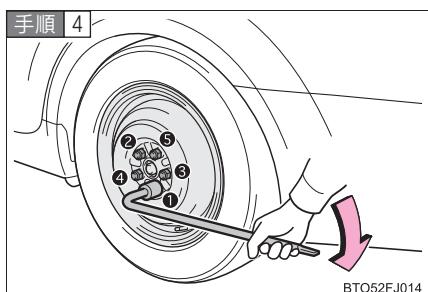
アルミホイールからアルミホイールにかえるとき



ナットの座金がホイールにあたるまでまわす



車体を下げる



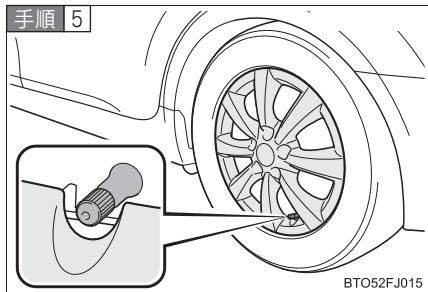
図の番号順でナットを2、3度しつかり締め付ける

締めつけトルク：

103 N·m (1050 kgf·cm)

5

トラブルが起きたら



ホイールキャップ*を取り付ける*

タイヤのバルブ(空気口)に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けます。

*スチールホイールのみ(応急用タイヤに取り付けることはできません。)

手順 6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

□ 知識

■ 応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用のみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。(→P. 437)

■ 雪道・凍結路で後輪がパンクしたときは

手順 1] 前輪を応急用タイヤと交換する

手順 2] パンクした後輪をはずした前輪と交換する

手順 3] タイヤチェーンを後輪に装着する

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

▲ 警告

■ ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

次のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下に物をのせない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐりこんで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人掛けがをしないよう注意してください。

▲ 警告

■ タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ・ ねじ部にオイルやグリースをぬらない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
- ・ ホイールの交換後はすぐに $103\text{ N}\cdot\text{m}$ ($1050\text{ kgf}\cdot\text{cm}$) の力でナットを締める
- ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
- ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける
(→P. 315)

■ 応急用タイヤを使用するときは

- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください
- 同時に2つ以上の応急用タイヤを使用しないでください
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください

■ 応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、 80 km/h 以上の速度で走行しないでください。

応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■ 応急用タイヤ装着中は

- 正確な車両速度が検出できない場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・ ABS & ブレーキアシスト	・ TRC
・ VSC	・ レーダークルーズコントロール*
・ EPS	・ クリアランスソナー*
・ AVS *	・ オートマチックハイビーム*
・ VDIM *	
・ LDA (レーンディパーチャーラート [ステアリング制御機能付き]) *	
・ PCS (プリクラッシュセーフティシステム) *	

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- 4WD システム*

⚠ 注意

■ パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。

短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■ 応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤの装着時に比べ車高が低くなっています。段差を乗りこえるときは注意してください。

■ 応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 141、144）に従っても、またステアリングロックを解除（→P. 142、147）してもエンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸いこみすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→P. 141、144）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
(→P. 99)

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 420）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない

電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P. 415）

緊急時のエンジン始動(スマートエントリー&スタートシステム装着車)

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

手順 1] パーキングブレーキをかかっていることを確認する

手順 2] シフトレバーを P の位置にあることを確認する

手順 3] “エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードにする

手順 4] ブレーキペダルをしっかりと踏みながら、約 15 秒以上 “エンジン スタート ストップ”スイッチを押し続ける

上記の手順に従いエンジンが始動できても、システムが故障していることがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

キーを無くしたときは

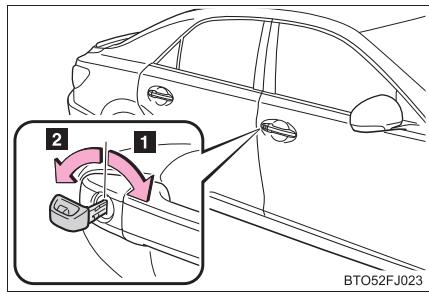
キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。
(→P. 28)

5-2. 緊急時の対処法

電子キーが正常に動かないときは（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 37）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動することができます。

ドアの解錠・施錠とキー運動操作（運転席ドアハンドルのみ）



メカニカルキー（→P. 29）を使って操作する

①全ドア施錠

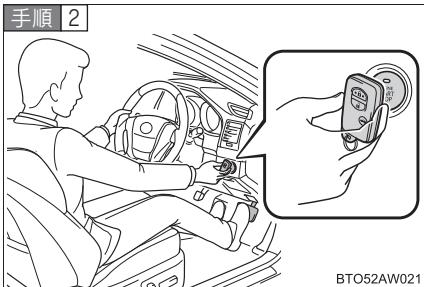
②全ドア解錠

メカニカルキーでドアガラス・ムーンルーフ*の開閉を行うことができます。詳しくは販売店にご相談ください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

エンジン始動の方法

手順 1] シフトレバーが P の状態でブレーキを踏む



電子キーのトヨタエンブレム面で
“エンジン スタート ストップ”
スイッチにふれる

この操作中にいずれかのドアが開閉
されると、スマートエントリー＆ス
タートシステムが“エンジン スタ
ート ストップ”スイッチにふれた電子
キーを正しく検知できず警告音が鳴
りマルチインフォメーションディス
プレイにメッセージが表示されます。

手順 3] ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏
み込んで “エンジン スタート ストップ” スイッチを押す
処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店に連絡してください。

□ 知識

■ エンジン停止のしかた

通常のエンジン停止のしかたと同様、シフトレバーを P にして “エンジン スタート ストップ” スイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときには、ただちに電池の交換をおすすめします。(\rightarrow P. 344)

■ “エンジン スタート ストップ” スイッチのモードの切りかえ

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足を離して “エンジン スタート ストップ” スイッチを押すとエンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(\rightarrow P. 145)

 **警告****■メカニカルキーを使ってドアガラスやムーンルーフ*を操作するとき**

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

5-2. 緊急時の対処法

バッテリーがあがったときは

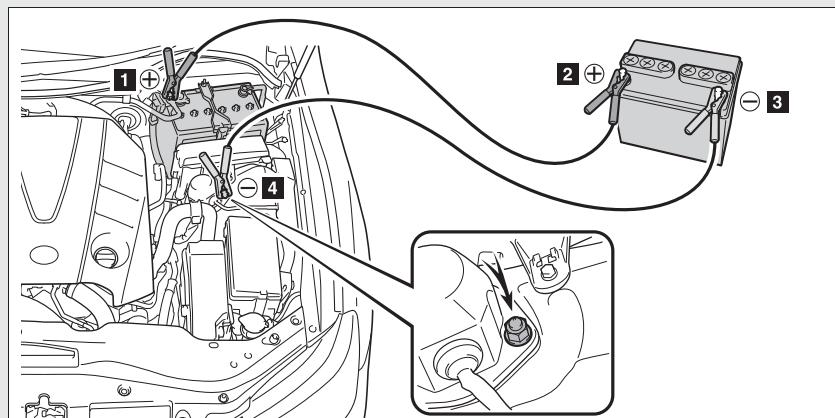
バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリーフルキ救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

手順 1 ボンネットを開ける (→P. 318)

手順 2 バッテリーの+端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

- ①** 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子につなぐ
- ②** 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
- ③** 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
- ④** 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部(図に示すような固定された部分)につなぐ



手順 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

手順 4 “エンジンスタートストップ”スイッチがOFFの状態で、いずれかのドアを開閉する（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

手順 5]スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったん“ON”にしてから、自車のエンジンをかける

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

救援車のエンジン回転を維持したまま、“エンジンスタートストップ”スイッチをいったんイグニッションONモードにしてから、自車のエンジンをかける

手順 6]自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではすす

ブースターケーブルをはずしたあとは、バッテリーの+端子のカバーをもとにもどしてください。

エンジンがかからっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

□ 知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンがかからっていないときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。

- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要的電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーがあがったときの留意事項

(スマートエントリー&スタートシステム装着車)

- バッテリーがあがった直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- バッテリーがあがったとの、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ではありません。
- 車両は常に“エンジンスタートストップ”スイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、車両はバッテリーがあがる前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにしてから行ってください。
バッテリーあがり前の“エンジンスタートストップ”スイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

▲ 警告

■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触しない
- ブースターケーブルは“+”と“-”の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに關し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液(酸)が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上に、顔や頭などをバッテリーに近付けない。
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

▲ 注意

■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→P. 162）の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

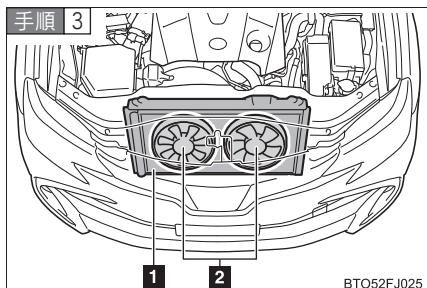
手順 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する

手順 2 蒸気が出ている場合：

蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してポンネットを開ける

蒸気が出でていない場合：

注意してポンネットを開ける

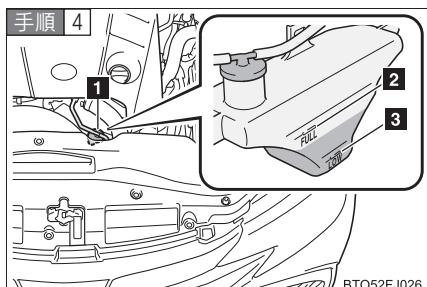


エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

1 ラジエーター

2 ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

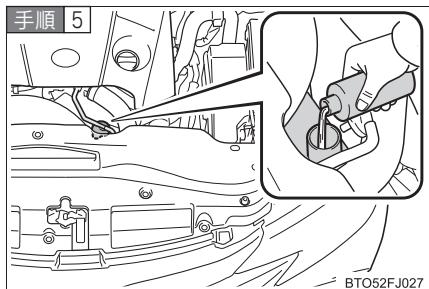


冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

1 リザーバータンク

2 “FULL”（上限）

3 “LOW”（下限）



冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

手順 6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。

(ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります)

手順 7 ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：

最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

⚠ 警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。ボンネットやエンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ボンネット（→P. 318）、エンジンルームカバー（→P. 324）の注意事項も併せてお読みください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■冷却水を入れるときの注意

冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

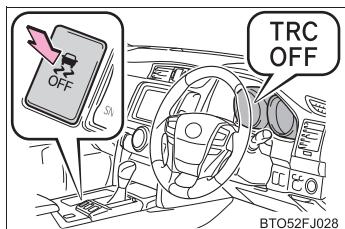
スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったりしたときは次の方法で脱出してください。

- 手順 1] パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にして、エンジンを停止する
- 手順 2] 後輪周辺の土や雪を取り除く
- 手順 3] 後輪の下に木や石などをあてがう
- 手順 4] エンジンを再始動する
- 手順 5] シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

□ 知識

■ 脱出しにくいときは



を押してTRCをOFFにしてください。

⚠ 警告

■ 脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車、物または人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ トランスマッisionやその他の部品への損傷を避けるために

- 後輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- この方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N に入れる

シフトレバーが N に入った場合

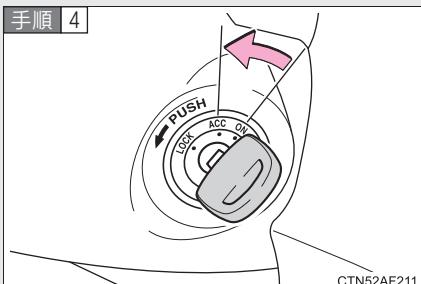
手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

手順 4 エンジンを停止する

シフトレバーが N に入らない場合

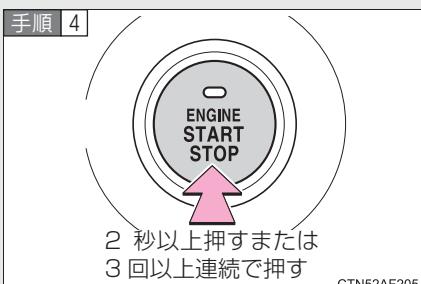
手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

手順 4



スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止する

手順 4



スマートエントリー＆スタートシステム装着車：“エンジンスタートストップ”スイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してエンジンを停止する

手順 5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは

- ブレーキの効きが悪くなるとともにハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。
- スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
(油脂類の容量と銘柄) 432

6-2 カスタマイズ機能

ユーザー カスタマイズ
機能一覧 440

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（油脂類の容量と銘柄）

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	エンジン	容量 [L] (参考値)
無鉛レギュラーガソリン	4GR-FSE	
無鉛プレミアムガソリン (無鉛ハイオク)	2GR-FSE	71

エンジンオイル

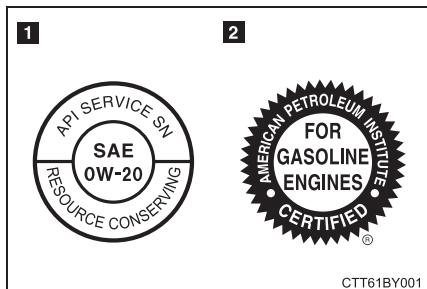
指定銘柄	容量 [L] (参考値 ^{※1})	
	オイルのみ 交換	オイルと オイル フィルター 交換
トヨタ純正キヤッスルモーターオイル SN 0W-20 ^{※2} —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20	FR 5.9	6.2
トヨタ純正キヤッスルモーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30	4WD 6.0	6.4

^{※1} エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

^{※2} 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION (イルサックサーティフィケーション) マークがついています。

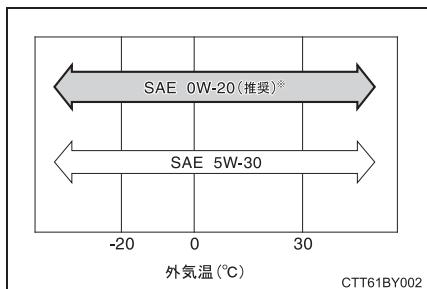


① API マーク

② ILSAC CERTIFICATIONマーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



* 0W-20 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度	2GR-FSE	9.2
濃度 30% -12 ℃	4GR-FSE	9.4
濃度 50% -35 ℃		

オートマチックトランスマッション

指定銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値 *)
トヨタ純正オートフルード WS	FR 2GR-FSE	7.9
	FR 4GR-FSE	7.5
	4WD 4GR-FSE	9.4

* 容量は参考値です。交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ディファレンシャル

指定銘柄（推奨粘度）			容量 [L]（参考値）
フロント (4WDのみ)	トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5、SAE 85W-90)		0.70
リヤ	トヨタ純正ハイポイドギヤ オイル LT	2GR-FSE	1.35
	(API GL-5、SAE 75W-85)	4GR-FSE	1.15

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]	
遊び	1 ~ 2	
踏み込んだときの床板とのすき間*	2GR-FSE	60 以上
	4GR-FSE	62 以上

* エンジン回転時に 490 N (50 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300N (30.6 kgf) のときのノッチ* 数	7 ~ 9

* ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“力チッ”という音）のことです。

ウォッシャー

容量 [L] (参考値)

4.7

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイール サイズ	タイヤが冷えている ときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
			前輪	後輪
標準タイヤ	215/60R16 95H	16×7J	250 (2.5)	
	235/45R18 94W	18×8J	240 (2.4)	
	235/40R19 92Y	19×8J	240 (2.4)	
応急用タイヤ*	T155/70D17 110M	17×4T	420 (4.2)	

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球 (バルブ)

電球		W (ワット) 数
車外	LED ヘッドライト*ロービーム／ハイビーム	LED*
	ディスチャージヘッドライト*ロービーム／ハイビーム (バルブタイプ: D4S)	35
	車幅灯／LED デイライト*	LED*
	フロントフォグランプ*	LED*
	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	サイド方向指示灯／非常点滅灯	LED*
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	制動灯	LED*
	尾灯	LED*
	後退灯	16
	ハイマウントストップランプ	LED*
	番号灯	5
	LED イルミネーションビーム*	LED*

* LED は、Light Emitting Diodes(発光ダイオード)の略で、半導体発光電子素子です。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球		W (ワット) 数
車内	フロントパーソナルランプ	5
	ルームランプ	8
	フロントドアトリム照明*	LED*
	リヤドアトリム照明*	LED*
	トランクランプ	5
	フロント足元照明*	LED*
	ドアカーテシランプ*	5
	バニティランプ	8
	インパネ・シフト照明	LED*
	グローブボックスランプ	1.2

* LEDは、Light Emitting Diodes(発光ダイオード)の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
GRX130	4GR-FSE (2.5L ガソリン)	FR (後輪駆動)
GRX135		4WD (4輪駆動)
GRX133	2GR-FSE (3.5L ガソリン)	FR (後輪駆動)

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備が付いています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。また、ステアリングスイッチの操作により、設定を変更することができる機能もあります。（→P. 173）

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

項目	機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー＆スタートシステム* (→P. 31)	スマートエントリー＆スタートシステム	する	しない
	解錠ドアの選択	全席	運転席
ワイヤレスドアロック (→P. 43)	ワイヤレス機能	する	しない
	解錠時の操作	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドアのみ解錠、連続2回で全ドア解錠
	ワイヤレスリモコンのトランクスイッチを押しての解錠操作	1回長押し	1回短押し
			2回押し
			1回長押し (初期設定よりも長め)
			なし

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

項目	機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー&スタート システム * (→P. 31) とワイヤレスドアロック (→P. 43) 共通	作動の合図 (ブザー音量調整)	7	6 ~ 1
	作動の合図 (非常点滅灯)		OFF
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
	半ドア警告ブザー		120 秒
ドアロック (→P. 46)	車速感応式ドアロック	あり	なし
	運転席を開けたときの全ドア解錠	なし	あり
	シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠	あり	なし
	シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠	なし	あり
	メカニカルキーによる解錠 (スマートエントリー&スタートシステム装着車)	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠
	ドアキーによる解錠 (スマートエントリー&スタートシステム非装着車)		
パワーウィンドウ (→P. 85)	ドアキー連動開閉機能	なし	あり
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

項目	機能の内容	初期設定	変更後
ムーンループ* (→P. 90)	キー連動開閉機能	あり	なし
	キー連動時の作動	開閉作動	開作動のみ
			閉作動のみ
	キー連動作動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能	あり	なし
	ワイヤレスリモコン連動時の作動	開閉作動	開作動のみ
	ワイヤレスリモコン連動作動時の開閉部位		閉作動のみ
オートマチックハイビーム* (→P. 180)	オートマチックハイビームの作動	スライドのみ	チルトのみ
ランプ自動点灯・ 消灯システム (→P. 177)	ライトセンサーの感度調整	レベル3	レベル1～5
	ランプを点灯するまでの時間	標準	長め

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

項目	機能の内容	初期設定	変更後	
イルミネーション (→P. 280)	消灯までの時間	15 秒	7.5 秒 30 秒 OFF	
	“エンジンスタートストップ” スイッチ OFF 後の作動 (スマートエントリー&スタートシステム 装着車)		あり	なし
	エンジンスイッチ “LOCK” 後の作動 (スマートエントリー &スタートシステム非装着車)			
	解錠時の作動	あり	なし	
	足元照明の点灯	あり	なし	
	接近時のルームランプの点灯	あり	なし	
エアコン (→P. 266)	AUTOスイッチを ON にしたとき、A/C (エアコン) スイッチ が連動して ON になる	する	しない	
クリアランス ソナー* (→P. 240)	バックソナーの検知開始距離	約 150 cm	約 60 cm	
	ブザー音量	レベル 3	レベル 1 ~ 5	
LDA (レーン ディパーチャー アラート [ステア リング制御機能 付き]) * (→P. 210)	ステアリング制御機能	あり	なし	
	車線逸脱警報機能の警報感度	普通	高い	
	ふらつき検知機能の ON / OFF	あり	なし	
	ふらつき検知機能の検知感度	普通	高い	
			低い	
PCS (プリクラッシュセーフティシステム) * (→P. 197)	警報タイミング	中間	近い	
			遠い	
	PCS (プリクラッシュセーフティシステム) の ON / OFF	あり	なし	

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

項目	機能の内容	初期設定	変更後
その他	周囲の明るさにより、メーターなどの照度を自動減光するためのセンサーの感度調節	レベル 3	レベル 1 ~ 5
	周囲の明るさにより、減光したメーターなどの照度をもとにもどすためのセンサーの感度調節*	レベル 3	レベル 1 ~ 5
	降車時運転席シート移動量調節*	標準	OFF
			少なめ

□ 知識

■車両カスタマイズについて

ムーンルーフ*の「キー連動開閉機能」・「ワイヤレスリモコン連動開閉機能」は、それぞれ、パワーウィンドウの「ドアキー連動開閉機能」・「ワイヤレスリモコン連動開閉機能」と併せて「あり」に設定しないと作動しません。

ムーンルーフの連動開閉機能は、ムーンルーフのみ作動させない場合に設定を変更してください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

さくいん

略語一覧 446

五十音順さくいん 447

症状別さくいん 464

略語一覧

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
ACC	アクセサリー
AVS	アダプティブルアブルサスペンションシステム
ECO	エコノミー／エコロジー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
LDA	レーンディバーチャーアラート
LED	ライトエミッティングダイオード
PCS	プリクラッシュセーフティシステム
SRS	サブリメンタルレストレインツシステム
TRC	トラクションコントロール
VDIM	ビーカルダイナミクスインテグレーテッドマネージメント
VSC	ビーカルスタビリティコントロール

五十音順さくいん

五十音順さくいん

あ

アースポイント (バッテリー)
あがりの処置) 420
アームレスト 297
RF 送信機 24
アウターミラー (ドアミラー) 83
アクセサリーソケット 294
アクセサリーモード 145
アクティブヘッドレスト 58
アシストグリップ 301
足元照明 279
W 数 438
アンチロックブレーキシステム
(ABS) 249
アンテナ
スマートエントリー &
スタートシステム 33

い
イグニッションスイッチ
(エンジンスイッチ) 141, 144
位置交換
(タイヤローテーション) 312
イベントデータレコーダー
(EDR) 23
イモビライザーシステム 99
イルミネーテッドエントリー
システム 280
インジケーター
表示灯 165
インテリアランプ 280
インナーミラー 82

う

ワインカー
W 数 438
スイッチ 157
電球の
交換 328, 329, 330, 333
ウインドウ
ウインドシールド
デアイサー 278
ウォッシャー 186
パワーウインドウ 85
リヤウインドウ
デフォッガー 276
ウインドウロックスイッチ 85
ウォーニングランプ 368
ウォッシャー
液の補給 348
スイッチ 186
タンク容量 437
冬の前の準備・点検 259
動けなくなったときは
(スタック) 427
運転
寒冷時の運転 259
正しい姿勢 101
手順 130
運転席小物入れ 289
運転席シートベルト
非着用警告灯 371

え

エアコン	
オートエアコン	266
フィルターの交換	350
エアバッグ	
SRS エアバッグ	103
一般的な警告	108
お子さまのための注意	108
カーテンシールド	
エアバッグに関する警告	109
カーテンシールド	
エアバッグの作動条件	104
改造・分解	111
警告灯	369
サイドエアバッグに 関する警告	110
サイドエアバッグの 作動条件	104
作動条件	104
正しい姿勢	101
配置	103
エコドライブ	
インジケーター	133, 175
LED イルミネーション	
ビーム	248
LED デイライト	177
LDA (レーンディバーチャー	
アラート [ステアリング制御 機能付き]	210
エレクトリックパワー	
ステアリング	249

エンジン

イグニッション	
スイッチ	141, 144
エンジン回転計	
(タコメーター)	161
エンジンがかからない	414
エンジン警告灯	369
エンジンスイッチ	141, 144
エンジンルームカバー	324
オーバーヒート	424
かけ方	141, 144
ボンネット	318
エンジンイモビライザー	
システム	99
エンジンオイル	
冬の前の準備・点検	259
メンテナンスデータ	433
容量	433
エンジンフード (ボンネット)	318

お

応急修理キット	387
応急用タイヤ	
空気圧	437
応急用タイヤ	404
オーディオ	
ステアリングスイッチ	302
オートエアコン	266
オートシートスライドアウェイ &	
リターン機能	75
オートチルトアウェイ &	
リターン機能	75
オートマチックトランス	
ミッション (A/T)	
S モード	152
オートマチックトランス	
ミッション	149
シフトレバーが	
シフトできない	155
パドルシフトスイッチ	152
オートマチックハイビーム	180
オートレベリングシステム	179
オーバーヒート (エンジン)	424
オーバーヘッドコンソール	289
オープナー	
給油口	95
トランク	52
ボンネット	318
オイル (エンジンオイル)	433
応急用タイヤ	404
空気圧	437
交換方法	404

お子さまの安全のために

ウインドウロックスイッチ	85
エアバッグに関する警告	108
お子さまのシートベルト	
着用	70
シートベルトに関する警告	71
チャイルドシート	112
チャイルドシートの固定	121
チャイルドプロテクター	47
電子キーの電池に関する	
警告	347
バッテリーに関する警告	423
ムーンルーフに	
関する警告	94
パワーウィンドウに	
関する警告	88
オドメーター	161

か

カーテンシールドエアバッグ 103
 外気温表示 172
 カスタマイズ機能 440
 ガソリンスタンドでの情報 468
 型式 439
 カップホルダー 287
 カメラ
 オートマチックハイビーム 180
 カメラセンサー 193
 白線認識用カメラ 210
 ガラスの曇り取り（リヤ
 ウインドウデフォッガー） 276
 ガレージジャッキ 321

き**キー**

イグニッション
 スイッチ 141, 144
 エンジンスイッチ 141, 144
 キー 28
 キーナンバー 28
 キーレスエントリー
 （ワイヤレスドアロック） 43
 キーを無くした 416
 電子キー 28
 電子キーの電池が切れた 417
 メカニカルキー 29
キーレスエントリー
 スマートエントリー&
 スタートシステム 31
 ワイヤレスドアロック 43
きしみやひっかき音が聞こえる
 （ブレーキパッドウェア
 インジケーター） 136
給油口 95
緊急時の対処
 エンジンがかからない 414
 オーバーヒートした 424
 キーを無くした 416
 警告灯がついた 368
 警告メッセージが
 表示された 373
 けん引 359
 故障したときは 354
 車両を緊急停止する 429
 スタックした 427
 電子キーの電池が切れた 417
 発炎筒 357
 バッテリーがあがった 420
 パンクした 387, 404

<

空気圧 (タイヤ)	437
区間距離計	161
曇り取り	
フロントウインドウガラス	278
ミラーヒーター	84, 276
リヤウインドウ	
デフォッガー	276
クリアランスランプ (車幅灯)	
スイッチ	177
電球 (バルブ) の交換	333
クリアランスソナー	240
クルーズコントロール	
クルーズコントロール	236
警告メッセージ	373
レーダークルーズ	
コントロール	222
グローブボックス	283
グローブボックスランプ	283

>

計器	
メーター	161
メーター明るさ調整	163
警告灯	
アンチロックブレーキ	
システム (ABS)	369
LDA (レーンディパーザー	
アラート [ステアリング制御機能付き]	370
SRS エアバッグ	369
エンジン	369
シートベルト非着用	371
充電	368
スリップ表示灯	369
パーキングブレーキ	
未解除	372
パワーステアリング	369
半ドア	378
PCS (プリクラッシュセーフティシステム)	369, 371
プリテンショナー	369
ブレーキ	368
ブレーキアシスト	369
ヘッドラランプオート	
レベリング	369
マスター オーナリング	372
燃料残量	371
油圧	368

警告表示

LDA (レーンディパーチャー
 アラート [ステアリング制御
 機能付き]) 375, 376, 377, 378, 379, 380
 エンジンオイル不足 379
 クリアランスソナー 375, 381
 クルーズコントロール 374
 ステアリングロック 374
 スマートエントリー&
 スタートシステム 383
 ドア 378
 パーキングブレーキ 378
 PCS (プリクラッシュ
 セーフティシステム)
 374, 376, 377, 379
 ブレーキオーバーライド／
 ドライブスタート
 コントロール
 375, 376, 380
 ヘッドランプ 375
 ムーンルーフ 379
 レーダークルーズ
 コントロール 374, 381
 4WD 374

警告ブザー

LDA (レーンディパーチャー
 アラート [ステアリング制御
 機能付き]) 375, 376, 378, 379
 エンジンオイル不足 379
 クリアランスソナー 375, 381
 クルーズコントロール 374
 シートベルト非着用 371
 シフトダウン制限 154
 ステアリングロック 374
 スマートエントリー&
 スタートシステム 35, 383
 ドア 378
 パーキングブレーキ 372, 378
 PCS (プリクラッシュ
 セーフティシステム)
 369, 371, 374, 376, 377, 380
 ブレーキ 368
 ブレーキオーバーライド／
 ドライブスタート
 コントロール
 375, 376, 380
 ヘッドランプ 375
 ムーンルーフ 379
 4WD 374
 リバース 154
 レーダークルーズ
 コントロール
 374, 377, 380, 381
 化粧用 (バニティ) ミラー 292
 けん引 359

こ

交換	
タイヤ	404
電球	326
電子キーの電池	344
ヒューズ	336
工具	389, 404
後退灯	
W 数	438
電球の交換	331
子供専用シート	112
小物入れ	288
コンソールボックス	284
コンライト	
(自動点灯・消灯装置)	177

さ

サイドエアバッグ	103
サイドターンシグナルランプ	
W 数	438
電球の交換	333
レバー	157
サンシェード	
ムーンルーフ	91
サンバイザー	291

し

シート

正しい姿勢	101
シートヒーター	295
チャイルドシートの固定	121
調整	56
調整に関する警告	58
手入れ	308
パワーイージーアクセス	
システム	76
パワーシート	57
ヘッドレスト	64
シートヒーター	295
シートベルト	
お子さまの着用	70
シートベルト警告灯	371
シートベルト	
ブリテンショナー	69
清掃・手入れ	309
正しい着用	66
チャイルドシートの固定	121
調整	69
妊娠中ののかたの着用	72
室内灯（ルームランプ）	
W数	439
スイッチ	280
シフトレバー	
オートマチックトランス	
ミッション	149
シフトレバーが	
シフトできない	155

シフトロックシステム	155
車間距離切りかえスイッチ	222
車線逸脱警報機能	211
ジャッキ	
ガレージジャッキ	321
車載ジャッキ	389, 404
ジャッキハンドル	389, 404
車幅灯	
W数	438
ランプスイッチ	177
車両型式	439
車両仕様（スペック）	432
収納装備	282
助手席シートベルト	
非着用警告灯	371

す

水温計	162
スイッチ	
ウインドウロックスイッチ	85
ウインドシールド	
デアイサー	278
LDA (レーンディバーチャー	
アラート [ステアリング制御機能付き]	210
エンジンスイッチ	141, 144
オーディオ	302
クリアランスソナー	
スイッチ	240
クルーズコントロール	236
シートヒーター	295
シート調整	57
車間距離切りかえ	
(レーダークルーズコントロール)	222
ステアリングスイッチ	302
電話	15
ドアミラー	83
ドアロックスイッチ	46
トーク	15
ドライブモードセレクト	151
TRIP	163
ハザードランプスイッチ	356
パワーウィンドウスイッチ	85
ハンドル位置調整	74

非常点滅灯スイッチ	356
VSC OFF	251
フォグランプスイッチ	185
方向指示レバー	157
ホーン (警音器)	160
ムーンルーフ	90
メーター明るさ調整	163
メーター操作スイッチ	171
ランプスイッチ	177
リヤウインドウ	
デフォッガー	276
レーダークルーズ	
コントロール	222
ワイパー＆ウォッシャー	
スイッチ	186, 189
スタック	
スタックした	427
ステアリングホイール	
調整	74
スピードメーター	162
スペック (車両仕様)	439
スマートエントリー＆	
スタートシステム	
エンジンの始動	144
ドアの解錠・施錠	32
トランクを開ける	33

せ	清掃	
	外装	304
	カメラセンサー	193
	シートベルト	309
	内装	308
	レーダーセンサー	193
	制動灯	
	電球（バルブ）の交換.....	333
	積算距離計	161
	接近警報（レーダークルーズ	
	コントロール).....	230
	センサー	
	オートマチックハイビーム....	180
	カメラセンサー	193
	クリアランスソナー	240
	ライトセンサー	178
	レーダーセンサー	193
	洗車	304
	前照灯	
	LED デイライト.....	177
	オートレベリングシステム....	177
	スイッチ	177
	ディスチャージヘッド	
	ランプに関する警告.....	335
	ライトセンサー	178
	ランプ消し忘れ防止機能.....	179
	W 数	438
そ	速度計	162
た	タイヤ	
	応急用タイヤ	404
	空気圧	316, 437
	交換	404
	チェーン	259
	点検	312
	パンクした	387, 404
	応急修理キット	387
	冬用タイヤ	259
	ローテーション	312
	タコメーター	161
ち	チェーン（タイヤチェーン）.....	259
	チャイルドシート	
	ISOFIX バーでの固定	123
	シートベルトでの固定	122
	チャイルドプロテクター	47
	駐車ブレーキ	
	（パーキングブレーキ）.....	158
つ	ツール	389, 404

て

ディスプレイ	
警告メッセージ	373
手入れ	
外装	304
シートベルト	309
内装	308
テールランプ	
W 数	438
スイッチ	177
電球 (バルブ)	
W 数	438
交換	326
電子キー	
電池が切れた	417

と

ドア	
ドアガラス	85
ドアカーテシランプ	279
ドアミラー	83
ドアポケット	290
ドアロック	46
ドアガラス	85
ドアミラー	
調整	83
盗難防止システム	
エンジンイモビライザー	
システム	99
時計	293
トラクションコントロール	249
トランク	52
トリップメーター	161
Toyota Safety Sense	191
オートマチックハイビーム	180
PCS (プリクラッシュ)	
セーフティシステム	197
LDA (レーンディパーザー)	
アラート [ステアリング制御機能付き]	210
レーダークルーズ	
コントロール	222

に	ニーエアバッグ 103
荷物	積むときの注意 257
ね	燃料
	ガソリンスタンドでの情報 468
	給油 95
	種類 432
	燃料計 162
	容量 432

は	パーキングブレーキ (駐車ブレーキ) 158
	ハイマウントストップランプ W 数 438
	電球の交換 333
	パーソナルランプ W 数 439
	スイッチ 280
	ハザードランプ (非常点滅灯) スイッチ 356
	発炎筒 357
	バックアップランプ W 数 438
	電球の交換 331
	バッテリー バッテリーがあがった 420
	冬の前の準備点検 259
	パドルシフトスイッチ 152
	バニティ (化粧用) ミラー 292
	バニティランプ W 数 439
	バニティランプ 292
	バルブ (電球) W 数 438
	交換 326
	パワーイージー アクセスシステム 76
	パワーウィンドウ 85
	パワーシート 57
	パンク パンクした 387, 404
	番号灯 W 数 438
	電球の交換 332
	ハンドル 調整 74

ひ

ビーカルスタビリティ	
コントロール	249
PCS (プリクラッシュ)	
セーフティーシステム	197
非常点滅灯 (ハザードランプ)	
スイッチ	356
尾灯	
スイッチ	177
電球の交換	333
W 数	438
ヒューズ	336
表示灯	165
ヒルスタートアシスト	
コントロール	249

ふ

VDIM	249
フォグランプ	
スイッチ	185
W 数	438
電球の交換	333
フック	
けん引フック	359
冬用タイヤ	259
プリクラッシュセーフティ-	
システム (PCS)	197
ブレーキ	
パーキングブレーキ	158
ブレーキ付近から	
キーキー音が聞こえる	136
ブレーキアシスト	249
フロアマット	298
フロント足元照明	279
フロントシート	
調整	56
フロントターンシグナルランプ	
W 数	438
電球の交換	328
レバー	157
フロントパーソナルランプ	280
フロントフォグランプ	
W 数	438
スイッチ	185
電球の交換	333
フロントウインドシールド	
デアイサー	278

へ

ヘッドライト	
LED デイライト	177
オートレベルリングシステム	177
W 数	438
スイッチ	177
ディスチャージヘッド	
ランプに関する警告	335
電球（バルブ）の交換	333
ライトセンサー	178
ランプ消し忘れ防止機能	179
ヘッドラスト	
調整	64
ほ	
ホーン	160
ホイール	312
ホイールナットレンチ	389, 404
方向指示灯	
W 数	438
スイッチ	157
電球の交換	328, 330
ボンネット	318

ま

マルチインフォメーション	
ディスプレイ	170

み

ミラー	
インナーミラー	82
ドアミラー	83
バニティ（化粧用）ミラー	292
ミラーヒーター	84

む

ムーンルーフ	90
--------	----

め

メーター	
表示灯／警告灯	165
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	170
メーター	161
メーター明るさ調整	163
メンテナンス	
メンテナンスデータ	432

ら

ランプ

オートマチックハイビーム 180
 LED イルミネーション
 ビーム 248
 LED デイライト 177
 室内灯 279
 電球の交換 326
 パーソナルランプ 280
 ハザードランプ 356
 バニティランプ 292
 非常点滅灯 356
 フォグランプ 185
 ヘッドライト 177
 方向指示灯 157
 ライトセンサー 178
 ランプ消し忘れ防止機能 179
 W 数 438

り

リヤセンターアームレスト 297
 リヤウインドウデフォッガー 276
 リヤシート 59
 リヤターンシグナルランプ
 W 数 438
 電球の交換 330
 レバー 157

る

ルームランプ

W 数 439
 スイッチ 280

れ

レーダークルーズ
コントロール 222
接近警報 230
レーダーセンサー 193

レーンディバーチャー
アラート (LDA) 210
車線逸脱警報機能 211
スイッチ 215
ステアリング制御機能 212
ふらつき警報機能 212
メーター表示 216

冷却水
冬の前の準備・点検 259
容量 435

冷却装置
エンジンオーバーヒート 424

わ

ワイパー
スイッチ 186
ワイパー・デアイサー 278
ワイヤレスドアロック
電池交換 344
リモコン 43

ワックス 304
ワット数 438



症状別さくいん

症状別さくいん

タイヤがパンクした

P. 387
P. 404

パンクしたときは

エンジンがかからない

P. 414
P. 99
P. 420

エンジンがかからないときは
エンジンイモビライザーシステム
バッテリーがあがったときは

シフトレバーが動かない

P. 155

シフトレバーがシフトできないときは

水温計の針が
赤いゾーンに入った

P. 424

オーバーヒートしたときは

エンジンルームから
蒸気が立ちのぼった

キーを無くした

P. 416

キーを無くしたときは

バッテリーがあがった

P. 420

バッテリーがあがったときは

ドアが施錠できない

P. 31
P. 43
P. 46

ドア

ぬかるみや砂地などで
動けなくなった

P. 427

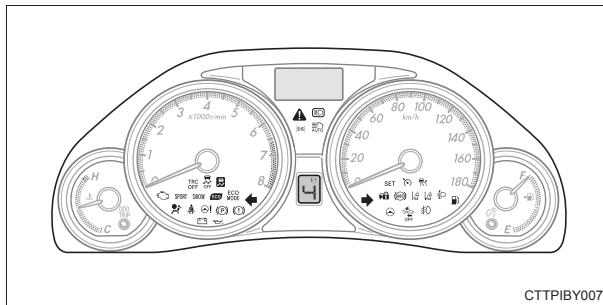
スタックしたときは

警告灯が点灯、点滅した

P. 368

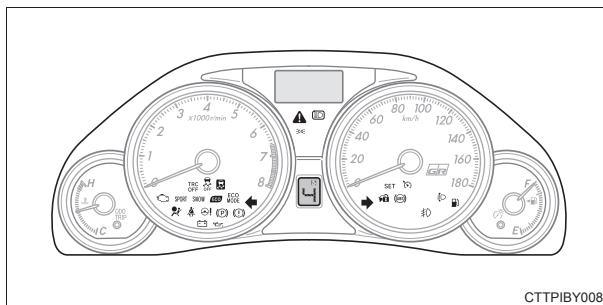
警告灯がついたときは

“GR SPORT” を除く



CTTPIBY007

“GR SPORT”



CTTPIBY008

■警告灯一覧

 ブレーキ警告灯	P. 368	 パワーステアリング警告灯	P. 369
 パーキングブレーキ未解除警告灯	P. 372	 充電警告灯	P. 368
 ABS&ブレーキアシスト警告灯	P. 369	 油圧警告灯	P. 368
 SRSエアバッグ/プリテンショナー警告灯	P. 369	 燃料残量警告灯	P. 371
 エンジン警告灯	P. 369	 運転席シートベルト非着用警告灯	P. 371
 LDA表示灯(黄色点灯)	P. 370	 PASSENGER助手席シートベルト非着用警告灯	P. 372
 PCS警告灯(点滅/ブザーあり)	P. 369	 マスターウォーニング	P. 372
 スリップ表示灯(点灯)	P. 250	 ヘッドランボートレーリング警告灯	P. 369

警告メッセージが表示された

P. 373

警告メッセージが表示されたときは

警告音が鳴った

■警告灯の点灯、点滅、またはマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージを確認ください。

- 警告灯が点灯、点滅している (→P. 368)
- 警告メッセージが表示されている (→P. 373)

■警告灯の点灯、点滅や、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージの表示がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、次のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 35
	車外に出たとき	
	スマートエントリー＆スタートシステムでロックセンサー部に触れたとき	
走行中	シフトレバーを R にしたとき	P. 154
	シフトダウンしたとき	P. 154
	ブレーキを踏んだとき	P. 136
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロール*を使用している	P. 222
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS (プリクラッシュセーフティシステム) *が作動した	P. 197
車線から逸脱しそうになったとき	LDA (レーンディバーチャーラート) *の車線逸脱警報機能・ふらつき警報機能が作動した	P. 210

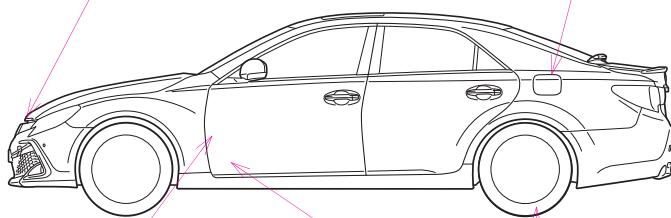
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ポンネットフック

P. 318



給油口

P. 95

ポンネットオープナー

P. 318

給油口オープナー

P. 95

タイヤ空気圧

P. 437

BTO71FJ001

燃料の容量 (参考値)	71L														
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン (4GR-FSE エンジン搭載車) 無鉛プレミアムガソリン (2GR-FSE エンジン搭載車) P. 96, 432														
タイヤが冷えている ときの空気圧	<p>標準タイヤ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>前輪</th> <th>後輪</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>215/60R16 95H</td> <td>250 (2.5) kPa (kg/cm²)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>235/45R18 94W</td> <td>240 (2.4) kPa (kg/cm²)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>235/40R 19 92Y</td> <td>240 (2.4) kPa (kg/cm²)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>応急用タイヤ : 420 (4.2) kPa (kg/cm²)</p>				前輪	後輪	215/60R16 95H	250 (2.5) kPa (kg/cm ²)		235/45R18 94W	240 (2.4) kPa (kg/cm ²)		235/40R 19 92Y	240 (2.4) kPa (kg/cm ²)	
	前輪	後輪													
215/60R16 95H	250 (2.5) kPa (kg/cm ²)														
235/45R18 94W	240 (2.4) kPa (kg/cm ²)														
235/40R 19 92Y	240 (2.4) kPa (kg/cm ²)														
エンジンオイル容量 (参考値)	<p>オイルのみ交換時 FR : 5.9L 4WD : 6.0L</p> <p>オイルとフィルター交換時 FR : 6.2L 4WD : 6.4L</p>														
エンジンオイルの 種類	<p>トヨタ純正キヤッスルモーターオイル</p> <ul style="list-style-type: none"> SN 0W-20 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20) SN 5W-30 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30) 														

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

0800-700-7700
フリーコール

オーブン時間 365日 9:00~18:00

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
<http://www.toyota.co.jp> にて掲載しております。

「リコール等情報」については、
<http://toyota.jp/recall/index.html> にて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
<http://toyota.jp>

マ-16



M 22553
01999-22553
NAC-2018年9月12日
2017年9月19日 初版
2018年9月19日 2版
マーク X